

創立 70 周年
記念誌

東日本建築教育研究会

目次

創立70周年記念誌発刊に際して	3
会長 平田 誠一	
前会長 三神 幸男	
祝 辞	5
文部科学省初等中等教育局参事官(高等学校担当)付産業教育振興室 前教科調査官	
文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部 前教育課程調査官 持田 雄一	
前会長 小林 晶代	
研究会の思い出	7
前副会長 大久保 健	
前副会長 小沢 宏	
総会の思い出(60回から69回)	9
第60回 福 島大会 池上 邦彦	
第61回 神奈川大会 田口 学	
第62回 宮 城大会 大野 勝	
第63回 新 潟大会 中村 和史	
第64回 茨 城大会 慶野 誠	
第65回 山 形大会 柴田 和彦	
第66回 千 葉大会 遠藤 啓史	
第67回 愛 知大会 神野 義久	
第68回 長 野大会 藤原 栄治	
第69回 北海道大会 南 一臣	
夏期研究協議会に参加して 会員の声	19
「大工道具の手入れと使用法について」	山梨県立甲府工業高等学校 石川 清人
「初心者のための3D CAD 研修会」	金沢市立工業高等学校 谷内 昭彦
「サステナブルな建築住環境を考える」	青森県立弘前工業高等学校 岡田 俊治
「二級建築士試験制度見直しに伴う指導者講習会」	新潟県立新津工業高等学校 小玉 真由美
「授業に役立つ、おもしろ構造科学実験」	千葉県立市川工業高等学校 青柳 昭
「規矩術と木材加工」	千葉県立市川工業高等学校 林 祐介
「上野フィールドワーク」	静岡県立島田工業高等学校 坂本 真生
「建築模型について」～学習活用法・製作講習会及び模型展示施設等見学会～	埼玉県立川越工業高等学校 小板橋 駿介
「建築物省エネ法・消防法を中心とした建築設備の実習」	群馬県立館林商工高等学校 根岸 俊行
「高強度コンクリートの破壊試験」	東京都立総合工科高等学校 小澤 誠志

分科会報告		29
製図分科会	吉城 守	
計画分科会	江原 聖直	
法規分科会	大木 英生	
構造分科会	小澤 誠志	
施工分科会	林 祐介	
委員会報告		39
編集委員会	遠藤 啓史	
資格取得推進委員会	石井 直樹	
製図コンクール運営委員会	卜部 寿々子	
広報委員会	高橋 裕	
研究会のあゆみ		44
会 則		51
役員名簿		53
関係諸官庁		55
会員名簿		56
歴代理事長・会長		60
加盟校以外の建築系設置校		61
賛助会員一覧		63
事業及び事業計画		64
会計（決算）・会計（予算）報告		65
事務局報告		67
協賛広告		68
編集後記		90

創立 70 周年記念誌発刊に際して

東日本建築教育研究会 会長
平田 誠一

昭和 26 年に結成された東日本建築教育研究会が、平成を経て、令和の時代を迎え、2020 オリンピック・パラリンピック東京大会が開催される記念すべき年に、70 周年記念誌を発行できますことに、会員の皆様とともに心よりお喜び申し上げます。また、70 年の長きに渡って、建築関連の諸機関や業界の皆様からの心温まるご支援を賜りましたことに対し、深く感謝申し上げる次第であります。

さて、今さら申し上げるまでもありませんが、工業高校の役割は、地域産業に密着に関わることができる人材を育成していくことにあります。令和 4 年度次期学習指導要領の実施に向けて、各校では教育課程の編成に向けて、工業高校で育成すべき、新しい時代に必要とされる資質・能力をあぶり出し、それらをどのようにグランド・デザインのなかに落とし込んでいくか、という動きが大詰めになってきた頃かと存じます。我々、建築教育に関わる者も、この高大接続改革ともなう戦後最大の高等学校教育改革の流れを見極めながら、「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」という視点に立った建築教育の重要性を十二分に発信し、各校が編成する教育課程のなかで、明確な立ち位置を示していかなければならないと考えます。建築教育における、この高校改革の中核をなす推進者が、会員の皆様方お一人お一人であることを忘れないでいただきたいと思います。そして、このような時こそ、本研究会における研究協議や情報交換が極めて重要です。このような時代背景の中で、あらためて本研究会の活動を充実させ、工業教育の振興に一層努めていくためにも、会員の皆様のこれまで以上のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

なお、蛇足になりますが、私が、平成 29 年度東日本建築教育研究会総会・愛知大会において、本研究会の会長職をお引き受けして、早三年の歳月が流れようとしています。愛知大会を皮切りに、長野大会、北海道大会への参加を通じ、全国の多くの会員の皆様方に大変お世話になりました。また、この間、全国建築教育連絡協議会の会長も兼任するにあたり、西日本工高建築連盟総会に来賓として出席したり、国土交通省に出向いて「一級建築士試験の研究者・教育者の受験認可」、「木造・二級建築士試験の早期受験」について陳情に伺ったりしましたが、なんとか皆様方に支えられながら、ここまでたどり着いた、というのが実感です。建築の専門でなければ工業科の教員でもない私にとって、日本の建築教育が抱える真の課題を洗い出し、その解決に向かって舵を切るようなリーダーシップなど、求めるべくもありません。十年後、本研究会が 80 周年記念誌を発行する時こそ、私のような門外漢の会長ではなく、本会員の皆様方の中から優秀な人材が輩出され、その巻頭言を飾っているであろうことを心から祈念してご挨拶に代えさせていただきます。

創立 70 周年記念誌発刊に際して

前東日本建築教育研究会 会長
三神 幸男

東日本建築教育研究会が創立 70 周年を迎えたことに心からお祝い申し上げます。

私は、平成 28 年に、千葉大会において、小林晶代第 25 代会長の後任として、会長に就任しました。私が会長職にあったのは、平成 29 年の愛知大会において、平田誠一会長が就任されるまでの 1 年間でしたが、事務局や各分科会主査の方々をはじめとする役員の皆様や大会実行委員の皆様など、関係の皆様大変お世話になりました。

さて、平成 30 年 12 月 14 日に公布された「建築士法の一部を改正する法律」の施行期日を定める政令が令和元年 9 月 6 日に閣議決定され、令和 2 年 3 月 1 日から施行が開始されています。これによって、令和 2 年の建築士試験から、緩和された新しい受験資格に基づく建築士試験がはじまります。例えば、二級建築士試験の受験資格については実務経験にかかる記述が削除されたため、工業高校を 3 月に卒業した後、同年の 7 月の同試験を受験できるようになりました。合格後、2 年以上の実務経験が必要となりますが、最短 20 歳で、二級建築士の免許が取得可能となります。

近年、建築士は、その本務たる建築物の設計・工事監督だけでなく、既存の建築物の調査、有効活用など多様化するニーズへの対応が求められており、建築物全般の専門家としての役割が増加しています。このような役割を担う優れた人材を継続的かつ安定的に確保するために、今回の建築士制度見直しが行われました。

本研究会の特徴は、製図、計画、法規、構造、施工の各分科会が活発に活動していることにあります。先述の通り、会員の皆様におかれましては、新制度のもと、各々の専門性を存分に生かした受験指導が期待されることと存じます。「よい指導法はないか」などの悩みがあれば、本研究会を頼ってください。また、「うまくいった実践」はどんどんご紹介ください。教える側の熱意は、必ず生徒たちに伝わります。建築を学ぶ生徒の未来が大きく拓けることと、本研究の益々の発展と会員の皆様のご活躍を祈念いたします。

(東京都立蔵前工業高等学校長)

東日本建築教育研究会創立 70 周年を祝う

文部科学省初等中等教育局参事官(高等学校担当)付産業教育振興室 前教科調査官

文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部 前教育課程調査官

持田 雄一

東日本建築教育研究会が、創立 70 周年を迎えられますことに、心からお祝い申し上げます。

東日本建築教育研究会は、工業科を設置する高等学校における建築教育の充実・発展を目指し昭和 26 年に結成され、工業教育に関わる教育研究会の中でも伝統のある研究会であると同様です。以来、先輩諸賢のたゆまざる御尽力により、建築に関わる教育課程、技術革新に応じた教材・指導方法の研究及び研修会の開催、各種の補助教材の刊行及び製図コンクールなどを積極的に主催することにより、我が国の建築に関わる教育の充実・発展に多大の貢献をしてこられました。70 周年を迎えられるまでに発展されましたことに対して、関係の皆様方の御尽力に心より敬意を表します。

さて、安全・安心な社会作りの要請及び建築物に対する耐震性や省エネルギー対策など社会が求めるものが変化して参りました。

さらに、建築に関わる制度の改正なども建築教育を取り巻く環境が大きく変化しております。このような状況の中、工業科の建築教育に関する専門的な研究発表の場である本会の役割は、これまで以上に重要になっております。

文部科学省では、平成三十年三月に新しい高等学校学習指導要領を告示し、工業教育に関しては、工業技術の高度化、環境・エネルギー開題への対応、情報化ネットワーク化の進展への対応、技術者倫理の要請への対応等の観点から、環境に関する基礎的な科目の新設やコンピュータシステムに関する内容の充実を関るとともに、技術者としての倫理観を養うことを明記するなどの改善を図ったところであります。

建築に関わる科目については、平成 21 年改訂の学習指導要領と同様に、「建築構造」「建築計画」「建築構造設計」「建築施工」「建築法規」の 5 科目が設定されております。

以下に、高等学校学習指導要領（平成三十年告示）解説 工業編から、改訂されたポイントについてお示いたします。

<p>第 29 節 建築構造 この科目は、建築物の構造の提案に必要な資質・能力を育成することを主眼として内容を構成している。今回の改訂では、建築物の構造が多様化していることや耐震技術が進展していることなどに対応するため、合成構造及び建築物の耐震技術に関する指導項目をそれぞれ位置付けるなどの改善を図った。</p> <p>第 30 節 建築計画 この科目は、建築物の計画に必要な資質・能力を育成することを主眼として内容を構成している。今回の改訂では、省エネルギー技術の進展やユニバーサル社会の実現などに対応するため、建築の設備の大項目には省エネルギー技術の小項目を、建築物の企画や計画の大項目にはバリアフリーとユニバーサルデザインの項目をそれぞれ位置付けるなどの改善を図った。</p> <p>第 31 節 建築構造設計 この科目は、建築物の設計に必要な資質・能力を育成することを主眼として内容を構成している。今回の改訂では、地震に対する建築物の安全性や耐震技術が進展していることなどに対応するため、建築構造設計の概要、建築物の地震被害及び耐震改修に関する指導項目を位置付けるなどの改善を図った。</p> <p>第 32 節 建築施工 この科目は、建築物の施工に必要な資質・能力を育成することを主眼として内容を構成している。今回の改訂では、建築物の施工における安全管理や施工技術が進展していることなどに対応するため、建築施工の概要の大項目には安全管理を、各種工事の大項目には耐震補強工事及び生産システムの自動化や省力化の小項目をそれぞれ位置付けるなどの改善を図った。</p> <p>第 33 節 建築法規 この科目は、建築関係法規を踏まえた建築物の計画、設計、施工及び管理に必要な資質・能力を育成することを主眼として内容を構成している。今回の改訂では、ユニバーサル社会の実現と建築物の耐震化の促進などに対応するため、建築業務等に関する法規に良好な建築物の促進に関する法規を位置付けるなどの改善を図った。</p>
--

(高等学校学習指導要領（平成三十年告示）解説 工業編から抜粋)

現在、学んでいる生徒が、成人して社会で活躍する頃、我が国は厳しい挑戦の時代を迎えていると予想されています。生産年齢人口の減少、建築産業において若年者の入職の減少は課題の一つとして位置付けられ、また、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境は大きく、また急速に変化しており、予測が困難な時代をむかえと推測いたします。

また、急激な少子高齢化が進む中で成熟社会を迎えた我が国にあっては、一人一人が持続可能な社会の担い手として、その多様性を原動力とし、質的な豊かさを伴った個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出していくことが期待されております。

こうした変化の一つとして、進化した人工知能が様々な判断を行ったり、身近な物の働きがインターネット経由で最適化される IoT が広がったりするなど、Society5.0 とも呼ばれる新たな時代の到来が、社会や生活を大きく変えていくとの予測もなされています。このような時代をむかえるにあたって、建築に関する科に生徒には、産業界からはどのような資質・能力が求められているのか、そのためには建築に関わる何を学ぶのか、他者と協働して課題を解決していく学びを行っているのか、何が身に付いたのかを適切に見取っているのかを踏まえていただき、生徒一人一人を地域産業の担い手として育成してください。

貴会の皆様には、この 70 周年を一つの節目に、高等学校における建築教育と貴研究会が果たす役割の大切さをあらためて御認識いただき、建築教育のますますの充実に向けて、御尽力いただきますようお願いいたします。

結びに、貴研究会のより一層の御発展を祈念申し上げ、祝辞といたします。

東日本建築教育研究会創立 70 周年を祝って

前東日本建築教育研究会 会長
小林 晶代

東日本建築教育研究会が、創立 70 周年を迎えられ、会員の皆様に心より御祝を申し上げます。

私は、平成 28 年度茨城大会から平成 29 年度山形大会を経て平成 30 年度千葉大会前半までの 2 年間、会長として務めさせていただきました。専門は理科ですが、東京都の教員として 33 年務めたうち、19 年間工業高校に勤務しました。さらに、12 年間在籍した東京都立蔵前工業高等学校では、3 年間建築科の担任をしました。

東日本教育研究会が発行している建築教育ニュースに私の会長挨拶が掲載された時、その建築科の卒業生達から「新聞を見たよ、先生も偉くなったものだね。」とメールが来て大騒ぎされました。都立墨田工業高校の校長に着任した時は何の反応も示さなかったのですが、建築関係の研究会の会長になったことの方が卒業生にとっては評価が高かったようです。それだけ、卒業生は建築の仕事に誇りを持っており、私は建築という世界の奥の深さ、魅力を再認識いたしました。

また、会長をさせていただいた期間の事務局長は鈴木健指導教諭でいらっしゃいました。非力な会長を補佐していただき心より感謝申し上げます。会長の 2 年間、日頃の指導や分掌業務で多忙な中、定期開催の主査会、総会及び研究会を運営された委員の方々のご尽力を拝見いたしました。さらに、長年、製図コンクールや資格所得等の指導が継続的に実施できているのも、本研究会の果たす役割が大きいと考えます。

さて、現在、私は定年退職後、再任用として都立南葛飾高等学校で理科を教えております。本校は 30 名から 60 名位の生徒が就職し、そのうち、毎年、運動部の生徒数名が建築関係の仕事に就いています。入社時、資格は全く持っていません。企業は入社後、資格を取得するように教育してくださっていますが、予想外の大変さに離職する生徒がいます。専門的知識や技術の習得においては、工業高校と普通高校での教育内容は、単なる 3 年間という年月の差で埋め合わせることはできないと思います。改めて、本研究会の活動により、先生方の指導力向上を図られていると痛感しました。

地球温暖化等のため自然災害が多発している昨今、命を守る建造物を造る建設業界に対する期待は大きいものです。その率先力となる工業高校生の育成は日本のみならず世界の人々の命を一人でも多く救う役割を担うと考えます。

本研究会のますますのご発展を祈念申し上げ、70 周年の御祝辞とさせていただきます。

研究会の思い出

前東日本建築教育研究会 副会長
大久保 健

1. はじめに

東日本建築教育研究会創立 70 周年を迎え、会員の皆様には心よりお喜びを申し上げます。

私は平成 25 年 3 月墨田工業高等学校を定年退職し 7 年が過ぎました。研究会との関わりは田無工業高等学校建築科に就任してから 9 年後の平成 9 年構造分科会委員になった時からです。

総会・研究協議に初めて参加したのは、平成 3 年宮城大会で、同じ職場の当時副会長の赤地先生、本部事務局長の本間先生と参加させていただきました。新しい工業教育のあり方を模索する大会ということで研究発表の「課題研究」の実践のための試行的研究のまとめである大会資料を拝見し先生方の熱心さに感銘を受けました。研究協議会の各県より参加の先生方の熱意も感じられました。

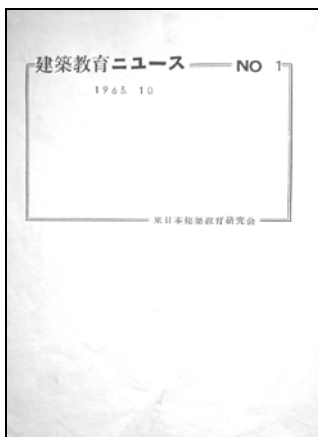
2. 平成 9 年から構造分科会委員

平成 10 年の北海道大会では構造分科会主査代理として、都道県理事会、総会、研究協議会に参加しました。

研究協議会のテーマは「厳選に伴う学習指導法」。週 5 日制を視野に入れたもので、新教育課程編成上、座学最低 2 単位におさえた場合の授業内容・展開について分科会で研究協議しました。委員として 2 年目の私が主査代理として分科会をまとめることは大変でしたが多くの分科会委員と会員の方々に助けていただいたことを思い出します。

3. 平成 11 年から平成 13 年 構造分科会主査

構造分科会に入り 2 年、急きょ主査を本間先生より引き続くこととなり分科会委員・主査会メンバーの先生方にご迷惑をおかけしました。本間先生から建築ニュースNo.1 をいただき研究会の歴史と重要性を感じました。



平成 11 年秋田大会

「21 世紀の建築教育のあり方」

平成 12 年栃木大会・50 周年記念大会

記念講演「世界文化遺産日光東照宮の謎」

平成 13 年青森大会

「21 世紀を拓く建築教育」

平成 13 年 8 月 夏期研究協議会（構造分科会）

葛西工業高等学校で構造分科会設計ソフトウェア「BUS-2.5」を利用して、建築設計製図例 8 商店設計の構造計算を題材に実際のモデル化と計算方法を体験しました。



4. 平成 14 年から平成 20 年 副会長

平成 17 年度 夏期研究協議会 市川工業高校にて「木造耐震診断」講師 日本大学理工学部 八島信行先生による木造住宅簡易耐震診断の演習。(財)日本建築防災協会の一般診断方法の演習後、市川市民を対象とした「木造耐震診断」の公開講座の見学。

平成 17 年 12 月 葛西工業高等学校にて耐震チェック II を使った「木造耐震診断」の研修会を行いました。

平成 21 年度 夏期研究協議会 安田学園にて「Jw_cad」による問題作成。

平成 22 年度福島大会・60 周年記念大会

創立 60 周年記念誌の編集は、研究会の実績を将来に残す使命感と奉仕の精神を持ち実行委員会の先生方の協力のもと作業しました。

5. 平成 26 年から現在に至る 参与

分科会委員・主査・副会長・参与として 25 年の間研究会の活動に携わる機会を得ることができました。教育現場での勤務に大いなる変化と活力を与えてくれました。研究会活動は学校現場から距離をおいた視点で、建築界、建築教育のあり方を考える絶好の機会となっております。

一時、研究会の不用論が理事会で話題になりました。多忙な事務局の仕事量から教科指導、生徒指導等ができないと本部事務局から出たこともありましたが、総会・研究協議での研究発表・研究協議を聞き、明日からの教科指導や自身の学習に少なからず役立てることができると思います。

教科指導・学校公務と学校現場において、研究会事務局や年度総会の担当県の会員の皆様方のご苦勞はいかばかりかと想像に余りあるものがあります。しかし、東日本各地の異なる学校組織に籍をおく会員の皆様が一同に会して情報を共有し、共通の課題に取り組む機会が得られることは、きわめて意義深いことで今日の建築教育には欠かせないことと思います。

最後に、本研究会のますますのご発展と会員の皆様のご健勝を祈念いたしております。

研究会と私

前東日本建築教育研究会 副会長
小沢 宏

1. 研究会とのかかわり

私の高校教員としてのスタートはインテリア科で10年間勤務の後、希望して建築科へ異動しました。その勤務校の先輩教員から研究会の存在を知り製図分科会を紹介していただいたのが始まりです。

インテリア科は東京都に1校しかなく、また全国でも各県に1校程度の数でしたので当時会員校153校と当研究会の規模の大きさとともに、各分科会や委員会の活発な活動に目を見張りました。また、分科会には都立高校の教員ばかりではなく、他県や私学の先生方との交流もあり多くのことを学ぶことができました。

全体の行事も各道県持ち回りの大会と4分科会(当時)持ち回りの夏期研究協議会が実施され、23都道県から多くの先生方が参加され活発に活動が行われていました。

2. 事務局

建築科教員となって8年目に勤務校が本部事務局を担当することになり、事務局長を仰せつかることになりました。その前年度は常任理事として多少は研究会の雰囲気や運営を垣間見ることができましたが、研究会の運営の中心を担う事務局長はさすがに肩の荷が重い気がしました。また今まで研究会の中心として活躍していた先生方の引退による運営側の人間の新旧交代が急速に進み、支援をいただける立場の先生方の確保のため元副会長・事務局長などの経験のある先生にアドバイスをしていただけるように参与の制度の活用が始まりました。(実は会則には以前から制度はあったのですが、実際の配置はありませんでした。)

事務局としては、会計・全国事務局長の先生やそれ以外の事務局校建築科の先生方の全面的な協力と主査・委員長・前事務局や参与の先生方のご支援をいただき、会員校の先生方には多大なご迷惑をおかけしたこととは思いますが、何とか3年間の任を果たすことができました。

3. 50周年記念行事と栃木大会

50周年を迎えるにあたり主査・委員長の先生方を中心に委員会が組織されました。いろいろ調べているうちに、本研究会が東京建築士会より1年早く発足していることを知りその歴史の長さを実感しました。2000年の記念大会は鬼怒川温泉を会場に行われ、栃木県の先生方のご尽力により大盛況のうちに実施されました。記念行事として東照宮の禰宜の方の講演「世界遺産・日光東照宮の謎」が行われ、翌日の見学では日光山輪王寺大猷院奥の院徳川家光廟の一般公開や神橋の改修工事の現場を見学することができました。記念行事としてはその他に、製図コンクール運営委員会の先生方のご尽力でコンクール第1回からの金賞作品を集めた優秀作品集を発行することができました。製図コンクールは毎年実施され会員校及びそれ以外の学校からも多くの作品の応募がありますが、歴代の金賞作品を一堂に集めた作品集は多くの先生方の以降の生徒へのコンクール指導の参考になったことと思います。また同時に記念誌の発行も行われました。

4. 東京大会

研究会運営については東京都が本部事務局を担当し、他の22道県が大会を分担するのが原則ですが、事務局の不手際で急遽東京都が大会をやらざるを得ない状況になりました。東京都は大会実施の実績がないため準備の段階から大わらわでしたが、何回かの話し合いの結果、関東第一高等学校が大会事務局を引き受けていただけることになり1年前から準備がスタートしました。大会開催の実績がないので、右往左往の騒ぎでしたが関東第一高等学校の先生方をはじめ東京都内の都立・私立・国立の建築科の先生方が一体をなして大会の運営に当たっていただきました。

今後の大会運営の経費の軽減の指針となるよう会場を1日目は公共施設・2日目は関東第一高等学校の校舎を利用するというのも試みられました。終わってみれば、結果的に東京の教員の結束が強まるという効果も得られました。

5. 副会長

事務局長の任期3年が終わり前副会長松井先生からご推薦をいただき、副会長をというお話をいただきましたが、私ひとりでは経験不足なので建築科での経験豊富な大久保先生とペアということで引き受けさせていただきました。その間に多くの先生方のご尽力で次のような新しい事業が生まれました。

1) ホームページ

会員間の情報の共有を図るために研究会の活動内容の公開と今後開催される行事のPRなどを目的にホームページが開設されました。

2) 個人会員制度

全国的に工業高校の教員の配置先が多様化し建築科の教員が他の学科への配置となり、専門から離れることも多くなってきています。将来的に建築の優秀な人材確保の点からもそれらの先生方が研究会の活動に参加できるように個人会員制度がスタートしました。

3) 富士教育訓練センター

高校生の現場の模擬体験の場として、富士教育訓練センターでの宿泊研修が始まり「現場の雰囲気・集団生活・技能体験」を目的とし朝礼も含めた宿泊研修を研究会が主催で試験的にスタートしました。内容は測量・足場・鉄筋・型枠でしたが、現在では各県の建設業協会の協力のもと県単位で活発に実施されています。

6. 参 与

月日は流れ私は定年になり参与の職をいただきました。私自身研究会には深い思い入れがあり、高校教員の職を離れた後も参加できることに喜びを感じています。

7. 研究会の今後

多くの先生方、特に若い先生方に積極的に研究会の活動に参加をいただき、100周年を目指して本研究会の益々の発展をお祈り申し上げます。

福島大会平成 22 年度総会・研究協議会

福島大会事務局長 福島県立会津工業高等学校 (現勤務校 福島県立郡山北工業高等学校)

池上 邦彦

1. はじめに

福島大会は会津工業高等学校の羽二生幸雄校長を実行委員長として会津若松市「御宿東鳳」を会場に福島県下 5 校が協力して大会運営を行いました。ちょうど 60 周年を迎え、人間でいえば還暦という記念すべき大会でした。

2. 日程・会場・参加人数

日程：平成 22 年 7 月 29 日 (木) ～7 月 30 日 (金)
会場：御宿 東鳳 (会津若松市 東山温泉)
参加人数：191 名 (会員 154、賛助会員 25、特別参加 2、来賓 10)

3. 共通テーマ

『身近に感じさせる建築教育 ―生活体験を通して―』

4. 大会概要

《7 月 28 日 (水) 》

○主査会

《第 1 日目 7 月 29 日 (木) 》

○都道府県理事会

○開会式

○総会

○講演

「建設業の人材確保・育成について」

国土交通省総合政策局建設市場整備課 労働資材対策官
松本貴久

建設業界の現状と今後の展望や、技能労働者の人材確保について様々な資料を基に講演された。

建設産業への若年者の入職数減少が問題点として示されたが、その状況は現在ではより一層深刻になっている。そのこともあり、外国人労働者の受け入れ増が進められることになる。ただ、福島県に関して言えば、震災後、建設業に就き、福島県復興のために尽力したいという中学生が増え、建設系学科の入試倍率が高くなる傾向が続いている。

○研究協議 I (分科会)

製図分科会

「構造を考えさせる製図指導-1 ～伏図を理解させる!～」

計画分科会

「考えるための紙模型

～小住宅のプランニングから立体把握へ～」

法規分科会

「出題傾向から読み取る

二級建築施工管理技術検定のポイント指導」

構造分科会

「見て、試して、簡単構造実験の検証」

施工分科会

「大工道具の手入れと使用法について」

○教育懇談会

「御宿 東鳳 コンベンションホール鳳凰」

会員並びに賛助会員、来賓などを含めて約 140 名で、活発な意見交換が行われた。

《第 2 日目 7 月 30 日 (金) 》

○研究協議 II (全体会)

・研究発表

「課題研究におけるモニュメント制作について」

神奈川県立藤沢工科高等学校 総合技術科 稲垣弘太郎

「目指せスペシャリスト事業報告」

福島県立勿来工業高等学校 建築科 田畑淳

・分科会報告

・富士教育訓練センターについて

○講評

全国工業高等学校長協会 事務局次長 村田敬一

福島県教育庁学習指導課 指導主事 澁谷栄一

○閉会式

○研究視察

研究視察は個人視察としたが、一部の先生方にはあるが町並みコンシュルジュの方々に七日町通りの説明もして頂いた。

5. おわりに

平成 23 年 3 月 11 日、東日本は大地震に見舞われ、特に福島県は原発事故にも遭い、それまでの生活とは一変した中に私たちは置かれました。学校は浜通りからの避難者を受け入れたため、泊まり込みで夜の番をし、新年度もどうなるかわからない不安の中で勤務をしていました。福島大会はその同一年度に行われました。もし、震災が 1 年早かったならば、大会は開催できなかったと思います。開催当時は知る由もありませんでしたが、地球規模では、ぎりぎりの時間差の中で開催できたことは本当に幸運でした。

地震、台風、大雨など、ここ数年、自然の猛威が日本を襲っています。そのような状況の中で建設産業の重要性が認識されてきたと感じています。私が生徒を指導できる時間は少なくなりましたが、優秀な人材を建設産業に送りたいと考えています。

最後になりましたが、福島大会を開催するにあたり、本部事務局長の鈴木先生をはじめとする本部の先生方、埼玉大会の事務局長の吉城先生など多くの先生方から、資料やご助言をいただいたことに大変感謝しています。

平成 23 年度総会・研究協議会報告

神奈川大会事務局長 神奈川県立磯子工業高等学校
田口 学

1. はじめに

前回の神奈川大会は約 20 年前に箱根で開催された。今回の開催場所も当初、箱根での開催が候補として出たが質素な大会を第一に考えた結果、「神奈川県立神奈川工業高等学校 多目的ホール」での開催となった。磯子工業高等学校長の後藤博史先生を実行委員長として県内 6 校の職員の協力で大会運営を行った。

2. 日程・会場・参加人数

日 程：平成 23 年 7 月 28 日（木）～29 日（金）
会 場：神奈川県立神奈川工業高等学校
参加人数：215 名（会員 179、賛助会員 29、来賓 7）

3. 共通テーマ

『生徒の可能性を引き出す建築教育』

4. 大会概要

○主査会

大会日程、進行などについて最終確認

○都道府県理事会

挨拶、各理事紹介、総会内容の確認、各県の現状報告

○開会式

○総 会

平成 22 年度事業報告・会計決算報告・監査報告が行われた。会則改正・役員改選の後、平林博会長（東京都立多摩工業高等学校長）から豊田善敬新会長（東京都立蔵前工業高等学校）への会長引き継ぎが行われた。その後、平成 23 年度事業計画・予算案が承認された。

メモリアルボードについて、福井県立敦賀工業高等学校の橋本和之先生より、情報提供があった。

○研究協議Ⅰ（分科会）

製図分科会

「三次元 CAD の活用法」

計画分科会

「建築計画の導入について」

～建築の魅力を感じさせるには？～

法規分科会

「新学習指導要領にいかにか答えるか!!」

明海大学名誉教授 松本光平

構造分科会

「作って、試して、理解する構造実験」

施工分科会

「技能検定 2 級 建築大工（実技）について」

○講演Ⅰ

「建設技能者の人材確保、育成について」

国土交通省土地建設産業局建設市場整備課

課長補佐 中村希

○研究協議Ⅱ

研究発表（1）

「課題研究における「釜神様制作」について」

宮城県古川工業高等学校 齋藤一豊

研究発表（2）

「にぎわいを呼ぶ高校生のものづくり」

～地域の特性を生かしたのものづくり～

神奈川県立小田原城北工業高等学校 大木英生

分科会報告

講演会

「2 級施工管理技術検定試験」

指導のポイントについて

富士教育訓練センター非常勤講師 森美雪

○講 評

神奈川県工業校長会会長 真壁広道

○閉会式

次期開催県代表挨拶、開催県挨拶

○研究視察

1 山手地区の洋館

2 東京スカイツリーの講演会（日本工学院蒲田校舎）

5. おわりに

神奈川大会の開催が決まり、実行委員のメンバーで初会合を開いた時、さて誰が事務局長を務めるのかな…などと消極的な気持ちで臨んでから、はや 2 年が過ぎました。まさか、自分にその役が回ってくるとは思いもしていませんでしたが、何とか大会を終えることができました。

なにかと助けていただいた本部事務局長の鈴木先生、埼玉大会の吉城先生、福島大会の池上先生に感謝する次第です。

さて、神奈川大会では、「お金をかけない大会」を目指しました。大会会場に神奈川県立神奈川工業高等学校のホールを拝借でき、安上がりな大会を実施することができました。その分、神奈川県内の先生方のご協力に心より感謝いたします。

さて、この 3 月の大震災では、あらがうことの出来ない自然の怖さを体験しました。まさか堤防をはるか越えて内陸まで津波が襲って来たり、鉄筋コンクリートのビルが横倒しになったりなど、信じられない光景でした。建物の上に載った船の写真は、目に焼き付くほどです。人間がいかにか無力なのかを実感し、原子力発電所の安全神話も崩れてしまいました。

しかし、このような時だからこそ工業高校で技術を学んだ諸君の出番なのです。次年度は宮城で大会が開かれますので、彼らの活躍を見聞できればと願っています。

平成 24 年度総会・研究協議会報告

宮城県白石工業高等学校
大野 勝

1. はじめに

今年度の宮城大会につきましては、大震災の影響から開催できるのか不安でした。しかし、会場の「ホテル松島大観荘」が津波の被害を免れ比較的被害状況も少なく開催までの復旧が見込まれること、未曾有の被害をもたらした大震災の被害の実態と復興を目指す宮城の現状をご覧いただき、大震災を教訓に今後の建築教育を考える機会としていただきたいという思いから、開催を決意しました。

2. 日程・会場・参加人数

日程：平成 24 年 7 月 26 日（木）～27 日（金）

会場：ホテル松島大観荘

参加人数：190 名（会員 150 名、賛助会員 30 名、来賓 10 名）

3. 大会テーマ

『次の時代をつくる建築教育 ～震災を教訓として』

4. 大会概要

○都道府県理事会

挨拶、各理事紹介、総会内容の確認、各県の現状報告

○開会式

○総会

平成 23 年度事業報告・会計決算報告・監査報告が行われた。役員改選により、施工分科会主査および編集委員会・製図コンクール運営委員会・広報委員会の各委員長が改選された。その後、平成 24 年度事業計画・予算案が承認された。

○講演 I

「被災地から未来のまちのモデルをつくらう」

株式会社 伊東豊雄建築設計事務所 代表 伊東豊雄先生

建築家の伊東豊雄先生から東日本大震災の被災地である岩手県陸前高田市の沿岸部の復興再生に向けての取り組みをご紹介いただいた。津波被害を受け仮設住宅に住む住民の憩いの場となる、木造 2 階建ての集会所「みんなの家」のプロジェクトです。伊東先生が話しておられた、未来のまちや建築は、「人と人とのつながりを大切に」「人と自然のつながりを大切に」という 2 つのメッセージが印象に残り、大変感銘を受ける講演でした。

○研究協議 I（分科会）

法規分科会

「目で見る建築法規」

資格取得委員会・分科会

『福祉住環境コーディネーター検定試験』指導者研修会

震災支援活動等報告会・分科会

①ボランティア活動・調査研究活動

「工業高校ならではの災害ボランティアの取り組み」

山形電波工業高校

「応急仮設住宅の調査記録」 千葉県立東総工業高校建設科
「震災支援活動」 宮城県古川工業高校 建築研究部
「東日本大震災被災者支援事業」 群馬県立桐生工業高校
「あすなる丸」 学校法人片柳学園の被災地支援活動

②制作活動

「被災した人のためのメモリアルボード制作」

福井県立敦賀工業高校

「建築倶楽部による木工作品の支援活動」

仙台市立仙台工業高等学校

「木製簡易間仕切りの制作」 京都府立宮津高等学校 建築科

以上 8 校から震災支援活動についての発表・展示があった。

○講演 II

「やりがいを実感できる建設産業への就職について」

国土交通省土地・建設産業局建設市場整備課

労働資材対策室室長 塩見英之

○研究協議 II

研究発表

「高校生から元気を発信！地域と「つながる」授業作り」

新潟県立上越総合技術高等学校 飯塚日登美先生

○地震フォーラム

『次の時代をつくる建築教育 ～震災を教訓として』

パネリスト 東北工業大学名誉教授 田中礼治

パネリスト 仙台市立仙台工業高等学校 益野英昌

パネリスト 宮城県石巻工業高等学校 萱沼俊一

コーディネーター 仙台市立仙台工業高等学校定時制 竹幸宏

宮城大会独自のプログラムとして実施。長年「建築防災教育」に取り組んでこられた東北工業大学名誉教授の田中先生と、宮城県内の工業高校建築科の先生方による、発表及びパネルディスカッションでした。東日本大震災の概要、甚大な津波被害を受けた石巻工業高校の状況報告があり、今回の地震からの教訓や今後の学校防災および建築系学科としての防災教育のあり方などについて活発な意見が交わされた。

○講評

仙台市教育委員局長学校教育部高校教育改革室指導主事

石岡恒一

○閉会式

次期開催県代表挨拶、開催県挨拶

○研究視察

石巻方面（東日本大震災 被災地視察）

5. おわりに

宮城大会の開催にあたり、宮城県内の建築関係団体・教育機関および賛助会員企業より多大な御協賛・御協力をいただきましたことに、改めて感謝申し上げます。また大会開催までに何かとご助言いただいた本部事務局長の金子先生、主査会の先生方、前事務局長の田口先生、そして運営に御協力いただいた宮城県内の先生方のご協力に心より感謝いたします。

平成 25 年度第 63 回新潟県大会総会・研究協議会

新潟県立新津工業高等学校

中村 和史

1. はじめに

新潟県は、下記のとおり 4 回目の開催であった。

年 度	開催場所	事務局校
昭和 31 年	高田工業高校	高田工
昭和 40 年	新潟工業高校	新潟工
平成 4 年	ホテル清風苑	新発田南
平成 25 年	燕三条地場産業振興 センター	新潟県央工

2. 日程・会場・参加人数

期 日：平成 25 年 8 月 1 日（木）～2 日（金）

会 場：燕三条地場産業振興センター

参加者：188 名（会員 154、賛助会員 27、来賓 7）

3. 共通テーマ

『地域とつながる建築教育』

4. 大会概要

《第 1 日目》8 月 1 日（木）

(1) 主査会

大会日程、進行などについて最終確認

(2) 都道府県理事会

挨拶、各理事紹介、議事、各都道府県及び各ブロックの活動報告

(3) 開会式

文部科学省初等中等教育局児童生徒課
産業教育振興室教科調査官 持田雄一
国土交通省土地・建設産業局建設市場整備課
労働資材対策室長 千葉信義
公益社団法人全国工業高等学校長協会事務局長
小暮守雄
西日本工高建築連盟会 高嶋保
新潟県教育庁高等学校教育課長 石井充
新潟県教育庁高等学校教育課指導第 2 係長 太田洋一
以上の先生方の出席を得て、開会式が行われた。

(4) 総会

- ・平成 24 年度事業報告・会計決算報告・会計監査報告
- ・役員改選
- ・平成 25 年度事業計画・予算案
- ・各分科会、委員会の報告
(平成 24 年度の活動報告、平成 25 年度の活動予定)
- ・平成 32 年度大会（70 周年事業）の開催都道府県（秋田県）

(5) 講演

「高等学校学習指導要領の年次進行による
実施と工業教育における授業の工夫・改善」
文部科学省初等中等教育局児童生徒課
産業教育振興室教科調査官 持田雄一

「建設業をめぐる諸課題

～建設業の明日を築くために～」

国土交通省土地・建設産業局建設市場整備課

労働資材対策室長 千葉信義

(6) 研究協議 I（分科会）

① 製図分科会

「構造を考えさせる製図指導 2」

～軸組を理解させる～

② 計画分科会

「住宅の基本的なプランニング指導法について」

③ 法規分科会

「建築施工管理技術検定試験の指導について

定時制版」

④ 構造分科会

「destruction ～破壊からわかる構造力学～」

⑤ 施工分科会

「視覚的補助教材 鋼構造

～根切りから仕上げまで～」

《第 2 日目》8 月 2 日（金）

(1) 研究協議 II（全大会）

① 分科会報告

各主査より、前日の研究協議 I の報告

② 研究発表

「地域とのつながりから見えてきたもの
～栃尾表町雁木デザインコンテストを通して」
新潟工業高等学校建築科 寒河江美和
「本校建築科の状況」
茨城県立水戸工業高等学校建築科 松澤俊治
太田康史

③ 資格取得推進委員会

一般財団法人建設業振興基金経理研究・

試験部経理試験課長 小野寺芳伸

(2) 講評

新潟県教育庁高等学校教育課副参事指導主事

霜鳥孝幸

(3) 閉会式

会長挨拶、次期開催県代表挨拶

5. おわりに

大会を開催するにあたり、本部事務局長の米川先生、前本部事務局長の金子先生、主査会の先生方、宮城大会事務局長の大野先生からご指導いただいたことは、大変勉強になりました。良い経験になりました。ご協賛・ご協力をいただいた建築関係団体および賛助会員企業、運営をしていただいた新潟県内の先生方のご支援とご協力にも深く感謝いたします。

平成 26 年度第 64 回茨城大会総会・研究協議会

茨城県立下館工業高等学校

慶野 誠

1. はじめに

平成 26 年度東日本建築教育研究会総会・研究協議会がつくば市のつくば国際会議場「エポカルつくば」〔設計：坂倉建築事務所〕で平成 26 年 7 月 24 日〔木〕～25 日〔金〕まで来賓・招待者・会員合わせて 170 名を超える参加者により開催されました。県内では過去には県庁所在地として水戸や景観の美しい大洗などが開催地として候補に挙げられていたのですがつくばの都市としての完成度や交通手段の充実、建築教育的な施設の充実がよいつくばでの開催となり多くの著名な設計者の作品が市内の狭いエリアで見学できることなど考慮され、決定されました。

茨城県としても、3 年前から本大会の開催内定を受けてから県内建築科高校 4 校をあげての準備のため、事務局校としてつくば工科高校を中心に準備に向けて会議や大会への事前参加に向け準備委員会～実行委員会を設立し備えて準備・検討を重ねてゆき、今の建築教育が私たちの生徒の頃との変化を考えつつ、今後どう生かしてゆくかを考えるテーマとなるよう検討したつもりです。最終的にテーマは「想像をはぐくむ建築教育～温故知新～」となり、今

までの教育成果が今後の建築教育にどのように反映されるかを求める内容であることを考えて決定され、そのまま事務局にも承認されました。



2. 日程・会場・参加人数

日 程：平成 26 年 7 月 24 日（木）～25 日（金）

会 場：筑波国際会議場「エポカルつくば」

参加人数：178 名（会員 152、賛助会員 22、来賓 4）

3. 大会テーマ

『想像をはぐくむ建築教育～温故知新～』

4. 大会概要

第一日目

午前中理事会、午後から開会式を経て総会に入った。例年にならぬ平成 25 年事業報告・監査報告が行われ会則改正・役員改正の後、豊田善敬（前東京都立蔵前工業高等学校校長）から小林晶代（都立墨田工業高校校長）への会長引き継ぎが行われた。その後平成 26 年度の事業計画・予算案の承認が行われ、前年度各分科会、各委員会報告がなされた。講演は文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター 教育課程調査官の持田雄一氏により講演を受けた。

休憩の後、各研究協議会を各分科会（当時は製図、構造、計画、法規、施工のすべてを実施）し、分科会毎に熱心な協議がなされました。

夕刻から会場を磯崎新設計のつくばセンタービル ホール ジュピターにて開催し盛大な教育懇談会が開かれ第一日目の日程をなく終了した。

○研究協議会 I（分科会）

製図分科会

「三次元 CAD の活用事例」

計画分科会

「住宅計画の指導事例」

法規分科会

「木は燃えるけれど、木は燃えない」

構造分科会

「構造実験による力学の理解 トラス構造模型と強度実験」

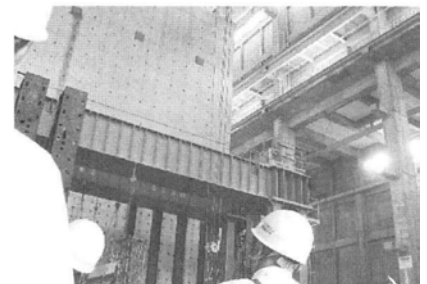
第二日目

午前中から県協議として研究発表を地元の先生方からテーマである「想像をはぐくむ建築教育～温故知新～」に基づき発表を行った。

県として今までの指導を生かした新たな指導の展開を考えた CAD を用いた土浦工業高校 早川和男教諭における～歴史的建造物のデータ化～は CAD を用いた新たな指導の展開の可能性を含む製図にとどまらずに構造や計画まで含んだ可能性を示唆するものであった。

もう一つのつくば工科 逸見淳子教諭の建具の工作の可能性を卒業生と在校生のコラボレーションにおいて実現した～伝統工芸の魅力と建築系学科の地域へのアピール～建具職人の卒業生と在校生の研究で複雑な組子細工を工作機（パネルソー）のプログラム操作で職人の技術を再現するというこちらも魅力的な研究課題の発表であった。講演後会場には作品が同日程で開催された全国総文祭の会場にて使用された受付の木組み作品を展示したこともあり各先生方から質問がなされた。

閉会式昼食後から建築研究所にて施設と実験の研修会と筑波大学を中心とした建築作品の見学会をバスにて会場から移動して施設の見学を行い、多くの先生方



から研究員への質問があり、後日研究所へ感謝報告をした際に、逆にこちらから感謝の言葉をいただくこともあり、かえって恐縮してしまうことなど成功裏に大会を終了できました。

退職した今、当時を振り返ると開催に向け、茨城のつくばの地を何を持って来県してくださる他県の建築教育に携わる皆様に迎え入れられるかと考えて悩んで会議の帰り道、電車で悩んでいた頃が懐かしく思えます。

実際に開催に渡り、3 年前からの事務局参加に際し、東京と学校や自宅のあるつくばを往復していたころが懐かしく思えます。

当時の事務局の副会長であった米原先生、小島先生を始め各分科会主査の先生方、多くの本部の先生にお世話になり大会を終らせることができたことを感謝いたします。ありがとうございました。

平成 27 年度山形大会総会・研究協議会 “テーマ “Reproduction 『再生』”

山形大会事務局長 山形県立鶴岡工業高等学校
柴田 和彦

1. はじめに

山形大会は、東京第一ホテル鶴岡を会場に、事務局校を県立鶴岡工業とし、山形工業、米沢工業、新庄神室産業、山形電波工業(現創学館)の5校で運営にあたった。

2. 日程・会場・参加人数

日 程：平成 27 年 7 月 30 日(木)～31 日(金)

会 場：鶴岡市の東京第一ホテル鶴岡

参加人数：167 名(会員 136、賛助会員 25、来賓 6)

3. 大会概要

《第 1 日目 7 月 30 日(木)》

○都道府県理事会

挨拶、各理事紹介、議事、各都道府県の現状報告

○開会式

○総 会

平成 26 年度事業報告・会計決算報告・会計監査報告、役員改選後、平成 27 年度事業計画・予算案が承認。各分科会・委員会報告。

○講演 I

「東日本大震災後の復興の現状と課題」(内容は大会要項より印刷)

東北大学大学院工学研究科 都市・建築学専攻 准教授

姥浦道生

災害復興に取り組む方々のご努力に改めて敬意を表します。

○研究協議 I (分科会：テーマ)

製図：「製図指導の実践報告」～基本から応用～

特に、千葉県立東総工業高校の高旨先生は、ベルソファの実測し、模型製作を経て、Jw_cad から SketchUp へ展開し、生徒が楽しく取り組んだ様子の発表で今後大いに役立つ内容であった。

計画：「住宅設計の実務とポイント」

東北学院大学環境建設工学科教授の櫻井一弥先生講演。

法規：「消防法の改正と消防設備」

桐生工業高校の根岸俊行主査主動により、中央工学校の若泉栄氏を講師に、改正と消防設備の変遷について講話をいただいた。

構造：「これからの建築構造設計」<東日本大震災を受けて>

仙台市立仙台工業高校の益野英昌先生を講師に、「荷重設計指針についての講義」と「津波荷重実験」を実演。

施工：「木工機械のメンテナンス」

群馬県立館林商工高等学校建築科の網中正仁先生より「木工機械のメンテナンス」について発表があった。

《第 2 日目 7 月 31 日(金)》

○研究協議 II (全大会)

(1) 研究発表

☆「木工版スマートグリッドへの挑戦」

—地域と連携したスマートエコハウスの建設—

山形県立米沢工業建設環境類 田中知宏

エネルギーの地産地消、自然エネルギー管理、地下恒温での空調管理、県産間伐材の木製サッシで高断熱の家を建設する内容。

☆「木造住宅の耐震診断研究について」

千葉県立京葉工業高等学校 岩城弘和

八島信良博士(日大講師)の指導を基に、実際依頼のあった建物の耐震診断を行う実践的な活動の発表。

○講演 II

☆「高等学校教育の現状と

これからの産業教育の果たす役割について」

文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター

研究開発部教育課程調査官 持田雄一

教育課程を統計分析から、建築の必履修及び選択履修ごとに履修最低単位数と比較した内容で、課題の発見と解決に向けた主体的・協同的な学習・指導方法であるアクティブ・ラーニングへの飛躍充実などをめざし、高大接続の実現などを指す内容でした。

4. 研究視察

羽黒山コース(国宝五重塔)と市街地コース(致道博物館 + 藤沢周平記念館)の二手に別れて視察した。

羽黒山五重塔は 1372 年頃創建で、建造物としては山形県唯一の国宝である。建築様式と主な特徴は、全体として和様であり、三手先斗栱・軒支輪の S 字形・柿葺き(雪のための凍害や落下に備えるため瓦葺にはしない)・二軒繁垂木・中備えには間斗束(三層まで)などがある。致道博物館では、鶴岡の擬洋風建築(下見板系)と田麦侯多層民家(旧渋谷家)の国指定重要文化財を見学した。

5. おわりに

平成 24 年の宮城大会松島大観望の部屋でのことが忘れることができません。21 年ぶりの山形大会事務局校をどこにするかでバトルを繰り返し、一夜が明けました。結局、鶴岡工業が事務局校となり、先の全く見えない状態での船出となりました。準備期間は 2 年以上に渡り、多くの皆様にご協力をいただきました。大会準備は順調に進んではいたのですが、肝心の山形大会実行員長の建築教育研究会組織に対する理解の無さにより、本部の方々には大変なご迷惑お掛けしました。このような思わぬ障害もあり正直大変苦労しました。しかし、今になってみれば良い思い出です。

最後に、当時を振り返りながら感謝の気持ちを込めて、ご協力いただいた方々を列挙させていただきます。

遠方からはるばるお出でいただいた参加者の皆様、本部事務局長の鈴木健先生、前本部事務局長の米川誠次先生、副会長の小島先生、米原先生はじめ本部の役員の方々、そして、新潟大会事務局の中村先生、茨城大会事務局の鹿野先生には開催準備のご指導いただき、本当に御世話になりました。また、ご協賛・ご協力をいただいた建築関係団体および賛助会員企業、そして運営にご協力いただいた山形県内の先生方に心より感謝いたします。



東日本大震災後の講演 姥浦准教授



羽黒山五重塔

総会の思い出

千葉県立市川工業高等学校
遠藤 啓史

1. はじめに

第66回東日本建築教育研究会総会・研究協議会、千葉大会は千葉市美浜区、ホテルグリーンタワー幕張を会場に行われた。大会事務局校は千葉県立市川工業高等学校とし、京葉工業高等学校、東総工業高等学校の3校で協力して大会運営にあたった。

2. 期日・会場・参加人数

日 程：平成28年8月4日（木）～8月5日（金）
会 場：ホテルグリーンタワー幕張（千葉県千葉市美浜区）
参加人数：171名（会員129、賛助会員25、来賓等17）

3. 大会概要

<第1日目 8月4日（木）>

○開会式（13：00～13：30）

○総 会（13：40～14：40）

○講演Ⅰ（14：50～16：00）

・「建設産業における担い手の確保・育成について」

国土交通省 土地・建設産業局建設市場整備課より矢吹周平労働資材対策室長を講師にお招きして、ご講演いただいた。

・「厚生労働省の人材育成政策」-ものづくり分野を中心に-

厚生労働省 職業能力開発局より藤浪竜哉企業内人材育成支援室長を講師にお招きして、ご講演いただいた。

○研究協議Ⅰ・・・分科会（16：10～17：30）

①製図分科会

「製図課題の指導法」

～教科書「建築設計製図」活用状況から～

製図分科会では製図教科書の活用状況調査の中間報告を製図分科会委員の群馬県立高崎工業高等学校・中曽根康先生からご報告いただいた。その後製図に関して研究討議し情報交換が行われた。

②計画分科会

「模型製作指導法

～スチレンボードを使った基本的加工法について～

計画分科会では「建築模型」について、指導方法、教材活用などについて研究協議が行われた。研究協議会は各グループの発表、質疑応答、アンケート記入の順で行われた。

③法規分科会

建築基準からひととく『消防法』～設計時から配慮すべき

建物維持管理に不可欠な消防規制対応について～

法規分科会では、講師に一般社団法人 東京防災設備保守協会防火安全部防火安全対策課 伊藤實氏をお招きして、建築と消防法との関りについて講演をいただいた。

④構造分科会

「構造力学シミュレーションソフトを用いた問題作成」

～わかる授業への第一歩～

構造分科会では分科会の委員である神奈川県立藤沢工科高校、佐々木先生と東京都立蔵前工業高校（定時制）、高橋先生の両名からソフトを活用した研究授業を紹介していただいた。

⑤施工分科会

「実践に基づく簡略測量実習 ～水盛り・遣方～」

施工分科会では、実践的な水盛り・遣方の簡略測量実習の指導方法等について協議を行い、実際の現場における測量技術の活用方法を生徒に理解させることができるような測量実習の授業展開の在り方、測量教材等について実際の体験を通して研究協議を行った。

<第2日目 8月5日（金）>

○講演Ⅱ（9：00～9：30）

・「工業科の現状と今後の在り方について」

文部科学省 国立教育政策研究所

教育課程研究センター研究開発部 教育課程調査官

持田雄一

中央教育審議会諮問の内容から、スーパープロフェッショナルハイスクール、全校産業教育フェア、関係法令、教育課程、専門高校の現状ならびに高校新卒者の就職状況、教育課程研究指定校事業、教員研修センター等について詳しくご講演いただいた。

○研究協議Ⅱ

(1) 研究発表（9：40～10：40）

①「フィリピン・セブ島における

竹骨組み2階建て仮設住宅の研究開発」

千葉県立市川工業高等学校 建築科 青柳昭

千葉県立市川工業高等学校、建築科での活動を中心に市川市、日本大学理工学部、フィリピン・セブ工科大学等との相互協力のもと「竹骨組み2階建て仮設住宅の研究開発」等の研究の内容を発表された。

②「建設現場における実践的な建築施工の研究」-平成27年度

高等学校産業教育・理科教育内地留学研修員として-

愛知県立愛知総合工科高等学校 建設科 鈴木節也

愛知県立愛知総合高等学校、校舎新設工事において行われた「高等学校産業教育・理科教育内地留学研修」について発表された。

(2) 分科会報告（10：50～11：30）

○講 評（11：40～11：50）

○閉 会 式（12：00～12：20）

○研究視察（13：15～16：30）

(1) マンション、街並みコース

(2) 学校建築コース

4. おわりに

約20年ぶりに開催の東日本建築教育研究会千葉大会でした。約2年の準備期間をかけた千葉大会は、県内に3校ある建築系工業高校の先生方の協力をもって開催することが出来ました。また、助言等いただいた校長・教頭先生、本部役員の方々、日頃より本会の運営にご協力いただいている協賛企業・団体の方々、さらに千葉県教育委員会、千葉県高等学校工業教育研究会、千葉県建設業協会、広告協賛をいただいた企業・団体の方々にはこの場をお借りして心から感謝申し上げます。

平成 29 年度総会・研究協議会報告 愛知大会事務局長

愛知県立半田工業高等学校
神野 義久

1. はじめに

第 67 回東日本建築教育研究会総会・研究協議会 愛知大会は、HOTEL ルブラ王山を会場に行われた。事務局校を愛知県立半田工業高等学校とし、愛知総合工科高等学校、愛知工業高等学校（全・定）、一宮工業高等学校、佐織工業高等学校、豊橋工業高等学校、碧南工業高等学校、名古屋市立工芸高等学校、私立名古屋工業高等学校の 10 校で協力して運営にあたった。

2. 日程・会場・参加人数

日 程：平成 29 年 7 月 27 日（木）～28 日（金）
会 場：HOTEL ルブラ王山
参加人数：182 名（会員 139、賛助会員 29、来賓 14）

3. 共通テーマ

“Quality『建築教育の質』”

4. 大会概要

○都道府県理事会

挨拶、各理事紹介、議事、各都道府県の現状報告

○講 演

「次期学習指導要領を見据えた工業教育の充実について」
文部科学省国立教育政策研究所 教育課程研究センター
研究開発部 教育課程調査官 持田雄一
持田先生には、当日 3 大会のご講演という多忙なスケジュールの中、本大会の講演をいただいた。短時間の講演になってしまいましたが、次期学習指導要領を見据えた工業教育の充実を目指すための貴重な講演であった。

○開会式

来賓として、公益社団法人全国工業高等学校長協会事務局次長 石井末勝様をはじめ 6 名の方のご臨席のもと、開会式が行われた。

○総 会

2024 年（74 回）の大会開催都道府県は、群馬県で行うことが決定した。

○研究協議 I（分科会：テーマ）

法規：「知って得する！消防法と消防の資格について」
一般社団法人東京防災設備保守協会 防火安全全部防火安全対策課 伊藤寛 講師をお招きして講話をいただいた。
構造：「意欲を高める建築構造 ～ジグソー法 授業展開の研究～」

意欲を高める建築構造 ～ジグソー法 授業展開の研究～について行われた。

施工：「実践に基づく簡略測量実習 ～墨出し実習～」

千葉県立京葉工業高等学校で展開している墨出し実習の授業展開や資料をもとに、協議し、簡易的な墨出しの測量実習を体得した。

○研究協議 II（全大会）

(1) 研究発表

①「工芸高校 建築システム科の取組み」
名古屋市立工芸高等学校 建築システム科 村山晴奈
技能五輪を通じた工芸高校デュアルシステムの取組みについて発表された。

②「池工版デュアルシステムにおけるこれまでの取組み」
長野県池田工業高等学校 建築科 矢原和義
池工版デュアルシステムについて発表された。

(2) 分科会報告

各主査より、前日の研究協議 I の報告があった。

○講 評

愛知県教育委員会高等学校教育課 指導主事
加藤満明

○閉会式

会長挨拶、実行委員長謝辞、次期開催県代表挨拶

○研究視察

愛知県立愛知総合工科高等学校を視察した。
建築物の特徴としては、次世代の工業高校生への育成に考慮した教育施設の研究視察をしていただいた。

5. おわりに

2 年前、愛知大会事務局校をどこにするか問題になりました。実行委員長を務める学校がやるべきでないかという意見の中、結論として、平成 29 年度愛知県の建築部会長校になる半田工業高校が事務局校に決定した。先の全く見えない状態での船出となり準備期間は約 2 年で山形大会のデータをベースに手探りの計画をし、本部事務局をはじめ、多くの皆様にご協力をいただきました。

遠方から遙々、大会に参加して頂いた皆様、本部事務局長の鈴木健先生、副会長の小島先生、米原先生はじめ本部の役員の方々、そして、山形大会事務局長の柴田先生、千葉大会事務局長の遠藤先生には開催準備のご指導をいただき、本当にお世話になりました。また、ご協賛・ご協力をいただいた建築関係団体および賛助会員様、そして運営に、ご協力いただいた愛知県内の先生方に心より感謝いたします。

第 68 回（平成 30 年度）総会 長野大会の思い出

長野県長野工業高等学校
藤原 栄治

1. はじめに

私は、標記の大会において現地事務局長を務めさせていただきました。大会を終えて 1 年半ほどが経過しましたが、今日はその時の様子を思い出しながら振り返ってみたいと思います。

まず、現地実行委員会の立ち上げを 2 年前（H28 年）の 4 月と見直し、その前年（H27 年）に建築科の代表が集まって開催地と事務局設置校を内定しました。過去 3 回の長野大会は、すべて長野市・長野工業の組み合わせで行っているため、今回は他地区・他校という検討もしましたが、交通の便や会場確保の面から、今回も同じ組み合わせでということになりました。

ならば、長野工業の中で誰が事務局長をやるか、です。他県では科主任さんが務められることが多いようですが、長野県は話し合いで決めます。当時私は休職（組合専従）から復帰したばかり、しかも 2 年生の担任だったので「自分には来ないだろう」とタカをくくっていました。が、諸般の事情から引き受けざるを得なくなり、「困ったな…」と途方に暮れたことを思い出します。仕事の負担が増えることもありますが、それまで一度もこの大会に参加したことがない（どのような集いなのかさっぱりわからない）私にできるのだろうか、という不安が大きかったからです。

しかし、立ち止まってはられません。実行委員会を立ち上げ、提携旅行社を選定し、予算規模・会場の目安をたて、不足する資金の調達をどうするか…走り出すと同時に直近の千葉大会に初めて参加して様子を学ぶとともに、過去大会のデータを譲り受け、そこから勉強を始めました。

後は粛々と…とはいかず、この先 1 年以上、最後まで手探りの状態は続きました。それでも何とか当日を迎えることができたのは、スタッフの皆さんのご奮闘によるものです。（感謝!!）

2. 大会の概要

(1) 大会テーマ 『快適な空間の創造』

(2) 期日・会場・参加人数

期 日：平成 30 年 8 月 2 日（木）～3 日（金）

会 場：ホテルメトロポリタン長野

参加人数：170 名（会員 139、賛助会員 22、来賓 9）

(3) 内 容

≪第 1 日目 8 月 2 日（木）≫

○都道県理事会（10:30～11:50）

○開会式（13:00～13:25） <来賓>※以下敬称略

文部科学省 初等中等教育局児童生徒課産業教育振興室

国立教育政策研究所教育課程研究センター

教科調査官・教育課程調査官

持田雄一

長野県教育委員会 教学指導課 課長

佐倉俊

担当主事

大飼健一

高校教育課 主任担当主事

松原雄一

長野県総合教育センター 情報・産業教育部 部長

鈴木芳昭

長野県高等学校長会 会長

今井義明

（一社）長野県建設業協会 専務理事

小林康成

○平成 30 年度総会（13:30～14:30）

○講 演（14:40～15:50）

①「高等学校学習指導要領の改訂と工業教育」

文部科学省 教育課程調査官 持田雄一

②「100 回の説明より 1 枚のスケッチ」

（一社）日本パーステック協会 理事長 宮後浩

○研究協議 I（16:00～17:00）分科会

①製図分科会

「宮後浩先生に学ぶ、魅せる手描きパースのテクニック」

②構造分科会

「耐震/免震/制震～安全性を確保する居住空間～」

③施工分科会

「環境の積極性～技能の可視化による実習指導～」

≪第 2 日目 8 月 3 日（金）≫

○研究協議 II（9:00～10:40）

①研究発表「高大連携による建築教育のとりくみ」

長野県長野工業高等学校建築科 大村直紀

②研究発表「地域と連携した建築教育の取組み」

北海道苫小牧工業高等学校建築科 北側智哉

③協議 I（分科会）報告

○講 評（10:50～11:00）

長野県総合教育センター 情報・産業教育部 専門主事

上野真一

○閉会式（11:00～11:30）

○研究視察（13:00～17:00）※任意参加

①松代コース 「松代大本営を訪ねる」

②善光寺コース「善光寺の謎と魅力」

3. おわりに

長野駅周辺には会場として適当な公共施設がないのでホテルを利用せざるを得ず、その費用を私たちだけで捻出するのは不可能でした。そこで、多くの賛助会員様による展示ブース出展、ならびに地元建設業協会様をはじめとする各種企業・団体様による多大なるご支援があつて、無事に大会を終えることができました。この場を借りて改めて感謝申し上げます。



総会の思い出

北海道室蘭工業高等学校 南 一臣

1. はじめに

第69回総会・研究協議会北海道大会は室蘭工業高校を事務局として、道内の建築系学科を設置している札幌工業高校、函館工業高校、旭川工業高校、北見工業高校、釧路工業高校、帯広工業高校、苫小牧工業高校、札幌国際情報高校、小樽未来創造高校、名寄産業高校、留萌高校一同が大会運営を行った。

2. 期日・会場・参加人数

大会テーマ：「DESIGN」

期 日：令和元年度8月1日（木）～2日（金）

会 場：ホテルライフオート札幌

参加人数：193名（会員138、賛助会員40、来賓15）

3. 大会概要

第1日目 8月1日（木）

○開会式（13：00～13：30）

○総 会（13：40～14：30）

○講演Ⅰ（14：40～15：15）

「知の扉を開けよう」

北海道科学大学より苫米地理事長を講師にお招きして、理事長ご自身の教育活動をもとに、社会の変化が著しい現代においてどのような生徒の育成が必要なのか講演していただいた。

○研究協議Ⅰ・・・分科会（15：30～17：00）

①製図分科会

「製図課題の指導法」～教科書「建築設計製図」活用から～

教科書の製図例2-3 木造平屋建住宅（立面図・平面図）の指導方法を4グループに分かれて、「図面の疑問点」「指導上の工夫点」「その他意見」の3つの観点により話し合った。

②計画分科会

「建築を表現するための

プレゼンテーション・プログラムについて」

星槎道都大学より安藤教授・佐藤教授にお越しいただき、学生に建築物の表現方法（手書き、コンピュータ）をどのように授業で身につけさせているのかを講演していただいた。

③施工分科会

「実践に基づく鉄筋組立実習

～技能検定3級鉄筋組立作業実技課題を通して～」

施工分科会では、技能検定3級鉄筋施工「鉄筋立て作業」の実技課題について北海道鉄筋業協同組合青年部の技能士の方々に、実演・解説をしていただいた。

第2日目 8月2日（金）

○講演Ⅱ（9：00～9：35）

「高等学校学習指導要領教科「工業科」の円滑な実施に向けて」

文部科学省持田調査官に「学習指導要領の考え方」、「社会に開かれた教育課程」、「カリキュラム・マネジメント」その3つの側面、「教育課程の編成について」を重点的に説明していただいた。

○研究協議Ⅱ

(1) 研究発表（9：40～10：40）

①「北海道高校生建築デザインコンクールについて」

苫小牧工業高校経塚先生が発表した。北海道建設部が中心となって行っている事業である。ここでは過去の最優秀作品の紹介と、実際に施工された建築物の紹介がされた。

②「地元産木材の活用事例について」

大曲工業高校藤田先生が、地元産木材利活用の意義・課題と活用事例についての発表をした。日本の森林環境や木材自給率についての現状や問題点、森林資源の循環利用の必要性についても説かれた。

(2) 分科会報告（11：00～11：20）

○講 評（11：20～11：30）

○閉 会 式（11：40～12：10）

○研究視察（13：15～17：00）

(1) 北海道開拓の村コース

(2) 札幌豊平館コース



4. おわりに

連日最高気温 33～4℃と北海道らしからぬ暑い大会となりました。参加いただいた方々からは、懇談会のジンギスカンとビールが美味しかったとお褒めの言葉をいただき、北海道らしさを演出することができて良かったです。

大会の運営にあたり、いたらぬ点もありましたが参加していただいた皆様、ご支援・ご協力いただいた企業の皆様のおかげで無事大会を終えることができました。あらためてお礼申し上げます。

平成 22 年度夏期研究協議会報告

山梨県立甲府工業高等学校 定時制

石川 清人

1. 概要

「大工道具の手入れと使用法について」という実習を伴う研修会が、施工分科会によって企画され、主に刃研ぎをメインに道具の調整法について学んだ。会場は宇都宮日建工科専門学校、期日は平成 22 年 8 月 5 日～6 日の 2 日間で実施された。

2. 研究協議会に参加して

会場に入ってまず目に留まったのが、ステージ前に置かれた大工道具のサンプルだった。そのほとんどが刃こぼれしたり、欠けてしまったりと到底使い物にならないように思われた道具も置いてあって、その横には道具がどのような状態なのかを示した説明が添えられていた。それを直すための道具のサンプルもあった。

研修会が始まる前に、そのサンプル一つ一つをカメラに納めた。私の持ってきた鉋もこれらのサンプルと同じく刃がこぼれ、台が調整されることもなく何年も眠っていた物だった。このような鉋や鑿が学校にはたくさんあって、以前から研いで直していたつもりだった。うまく直せた物もあれば、何度調整してもなかなかうまく研げず、切れ味と後味の悪い刃物もたくさんあった。この中の割と程度の良い鉋を選び、研修に参加する前に8割程度研いだ古い刃の鉋を持って行った。

実演指導を行っていたのは埼玉県立大宮工業高校（当時）の権田先生だった。会が始まるとさっそく動画にて概要説明があったが、何となく理解できるような感じがするものの、あんなに上手に出来るのだろうかと不安がよぎった。概要説明が終わると、早々に作業場に移動して実習が始まった。

(1) 砥面均し

砥石は、使えば使うほど研ぐ場所が中央に集中するため、自然と石が減って凹んでくる。そこで研ぎ面を平面にするための調整が必要となる。金砥石などで行ったりするが、今回はコンクリートブロックで砥石をこすって、砥面均しをする方法を学んだ。

(2) 鑿の手入れ

鑿の握る先端にある鉄のリングのことを桂と呼ぶが、新品の鑿は使用する前に桂を外して丸やすりで削り、柄を木殺した後、再び桂をはめて柄の先端を 3 mm 程度出して、さらにその柄の先端部分をつぶして桂を覆う作業をする。この作業をすることによって、柄が割れるのを防ぐのと同時に、桂を玄翁で直接たたくことがなくなるので、鑿の柄に桂が食い込むことがなくなり、柄と桂の損傷が少なくなり、道具を長持ちさせることができる。

刃研ぎは鑿の状態をみて、裏出し・裏押しが必要なか見極めることと、熟練の技術が要る。研いでいくと誰もが初めは丸っ刃になってしまう。研ぎ面を平らに研ぐのはなかなか熟練を要する技術であり、試行錯誤を繰り返し、失敗の連続の中で少しずつ身についていくものだと実感している。

刃先の角度は 27～28 度に研ぐことが多い。しかし、あまり鋭角にすると刃の痛みが早くなるので注意が必要である。鑿も用途に

よって刃の研ぐ角度を調整しなければならない。1～2 度の角度の差が切れ味に影響することがだんだんわかってくるから不思議なものだ。色々試しながら自分の答えを出していくと良いと思う。重要なのは鑿の使用目的や木材の堅さによって刃先の角度を微妙に変えていくことが求められることだ。

(3) 鉋の手入れ

鉋のことは、私にとって謎なことが多く、調整がうまく出来ず、妥協の日々を過ごしていた。今回の研修会で一番知りたかった内容とヒントがここにあると思うと、いてもたってもいられず、早く教えてほしいという気持ちが前に出すぎて困ってしまった。裏出しの方法は、玄翁で刃の軟鉄部分かつ中央部を注意深く慎重に叩きながら出していく。決して鋼になっている部分を叩いてはいけない。そして、金砥石にかけ、金剛砂に水を数滴垂らして、ひたすら研いで裏刃を出す。

この裏刃が鉋や鑿の切れ味にとっても影響する重要なことで、ここが思うように出せる頃には参加者全体の空気も真剣そのものになり、より一層の緊張感と熱気で満ちあふれた。他の参加者も、私と同様に刃物や道具がだんだん言うことを聞くようになってくると自然と体が前のめりになり、講師の先生に質問の嵐を浴びせてしまった。

鉋は刃研ぎも当然大切だが、台直しがいかに重要な調整であるのか、この研修会で学んだ。ここで削れる鉋になるか否かが決まる。指矩を使って鉋台の下端の凹凸を読み、台頭側を 0.3～0.5 mm 低く、台尻側中央に 0.1～0.3 mm の凹みを台直し鉋で削る。本当に繊細な道具だとつくづく感心する。台直し鉋は勤務校にもある。微妙な調整を繰り返し、古い鉋を幾つか台無しにしながら現在も頑張っている。

3. おわりに

昨今、各学校ではものづくりコンテストの参加や大工技能検定の取得に生徒が挑戦している。切れる刃は力をあまり入れなくてもすっと切れるが、切れない刃は作業速度に影響するばかりでなく、力を余計に入れるので、慣れない生徒が使用すると怪我をする恐れが高まる。この研修で道具の扱い方を修得し、大工道具を思い通りに修理出来るようになった先生方の多くは、こんな感想を持つだろうか。「鉄って意外と柔らかい」！

講師の権田先生は段取り良く要点をついた丁寧な指導であった。微妙な感覚を伝えようと気持ちが入っていた。言葉で説明することができない微妙な感覚は、実験することで自分の感覚を養い、失敗とその分析から何かを掴む。最初はかすかな光に向かって進んでいるようなもので、模索しながら経験を積み重ねていくうちに、確かな光が見えてくるものだと思う。

平成 23 年度夏期研究協議会に参加して

金沢市立工業高等学校

谷内 昭彦

1. 概要

今年の夏期研究協議会は製図分科会主催で、「初心者のための 3D CAD 研修会」が行われた。会場は日本工学院専門学校蒲田キャンパス、日時は8月3日～4日の2日間であった。フリーソフトである Jw_cad と SketchUp を使用して、プレゼンテーション図面の作成を学んだ。

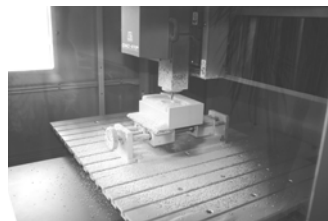
(内 容) ソフトの説明、SketchUp の基本的な操作、
Jw_cad のデータを SketchUp にインポートする、
SketchUp でパースを作成する、プレゼンボードの作成
(参加校) 12 校の先生方 19 名
(講 師) 山梨県立甲府工業高等学校 (定時制)

建築科教諭 櫻井良明

(テキスト) 「高校生から始める Jw_cad 建築プレゼン入門」
櫻井良明著・株式会社エクスマレッジ発行



参加者集合写真



3D プリンターの活用

2. 研修にあたって

本研修は新高等学校学習指導要領の工業高校「製図」で、「3次元 CAD」を使用したカリキュラムの導入が明記されたことから実施されることになった。また、東総工業高校の小島先生より、男子の 20 人に 1 人は色覚異常であり、それを理解するために CUD (カラーユニバーサルデザイン) という機構があるという話もあった。

3D CAD の導入と 3D プリンターというのは一体であり建築は機械から 10 年遅れている。今回の会場である日本工学院専門学校蒲田キャンパスには 3D プリンターが導入されており、実際に動かしていただきパーツをつくっている様子を見ることができた。

3. 研修内容

①ソフトの説明

Jw_cad と SketchUp は共にフリーソフトである。この 2 つのソフトを使用することにより、CAD による図面の作成とその図面をもとにしたパースを作成することができる。他のフリーソフトを利用してグラデーション着色や PDF ファイルにも変換できる。

②SketchUp の基本的な操作

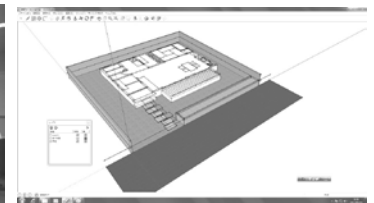
「線」や「長方形」、「円」を描くツールと、「プッシュ/プル」ツールがあり、これらツールを使うことにより、容易に 3 次元の箱をつくることができた。その他の操作も直感的に行える事ばかりで、図面をもとにした作図も容易であり、操作性が高いと感じた。

③Jw_cad のデータを SketchUp にインポートする

Jw_cad で作成したデータを SketchUp にインポートして、Jw_cad で描かれた線を下絵にして、SketchUp 上で図形を作図することができた。そのために個人で非営利に使用する場合であれば誰でもダウンロードができる「RSjww」をインストールして行った。



研修の様子



SketchUp 操作の様子

④SketchUp でパースを作成する

基本的な操作が出来ればパースの作成は比較的容易だった。参加していた方々もテキストを見ながらスムーズに進めているように感じた SketchUp には家具や電化製品、人や樹木などのオリジナルコンポーネントがある。インターネットサイトから誰でもダウンロードができるコンポーネントもあり、これらを使用して家具や電化製品、庭の添景を追加してパースは完成した。

⑤プレゼンボードの作成

SketchUp で作成したパースをエクスポートするのだが、カメラの位置や影を変化させることができるので、自分の気に入ったところをエクスポートすることができた。

SketchUp でエクスポートしたパースは、Jw_cad 図面に貼り付けることができる。Jw_cad は「BMP」(ビットマップ) ファイルを貼り付けることは可能であるが、「JPEG」(ジエイペグ) ファイルの貼り付けは「Susie」(スージー) と呼ばれるフリーソフトを使用した。

完成した Jw_cad 図面のプレゼンボードを PDF ファイルに変換するために「PrimoPDF」というフリーソフトを使用した。

4. 最後に

私は教員になって 2 年目であり、今回の夏季研修が東日本建築教育研究会の主催する研修への初参加だった。櫻井先生は SketchUp を使用して、木造軸組を作成しており実際に使いながら勉強しているということで、私も製図や構造などの様々な分野で教材研究を行って行きたいと感じた。また、櫻井先生は、完璧になる前から授業で活用していくことで能力がつくとおっしゃっており、本校でも実践していきたい。

この研修後に、本校生徒にもテキストを見せながら SketchUp を使ってもらったが、数時間使うだけで基本的な操作をマスターし、パースを描き進んでいた。感覚的に使用できる SketchUp を活用することで、生徒の発想や可能性がより広がることを感じた。

お世話になった皆様本当にありがとうございました。

平成 24 年度夏期研究協議会報告

青森県立弘前工業高等学校

岡田 俊治

1. テーマ・概要 「サステナブルな建築住環境を考える」

<日程と内容>

8月2日 講演Ⅰ「建築計画における近年の話題」

～住宅と地域環境の視点より～

講師：日本工業大学准教授 佐々木誠

視察：笠原小学校・宮代町庁舎・進修館・新しい村

8月3日 講演Ⅱ「環境についての講演」

～建物環境性能評価指標の紹介～

講師：日本工業大学教授 成田健一

・高等学校で実施可能な環境実験実習

<テキスト>「学校の中の地球」

「建築環境工学実験用教材」日本建築学会

2. 研修にあたって

本研修は新版建築実習（実教出版）第3章「環境実習」の項目に新たに環境評価実習が加えられたことにより、その内容について教員自らが理解することを目的とし、合わせて現在日本が抱えている高齢・少子化にともなう住宅と地域環境について開催地である春日部市を例にあげ今後の都市形成に関して建築計画の側面から考察し授業に役立てることを目的として行う。また、環境性能評価指標に関連した環境実験実習では住宅の気密測定法について教室内に気密測定器を設置・稼働し測定原理を理解するとともに温度測定の基本について理解を深める。

3. 研修内容

(1) 建築計画における近年の話題

話題1 住むための建築計画

話題2 武里団地～高齢化とコミュニティ再生～

話題3 宮代町～地域環境とまちづくり～

エピローグ 「建築計画」の広がり

(2) 建物環境性能評価指標（CASBEE）について

ア サステナブル建築とは

平成11年6月に施行された「住宅の品質確保の促進等に関する法」によって、それまで建築物では困難とされていた性能評価が、日本住宅性能表示基準が示されたことにより、これに基づいて検査された性能に対して同省が認定した建築物については住宅性能評価書を交付し住宅の性能を明文化が可能になったが、この法律が建築物個体の評価であるのに対して、以下の観点から建築物がその周辺まで与える影響を加えた評価方法を建物環境性能評価指標として評価をする。

(ア) 長寿命化 (イ) 自然共生 (ウ) 省エネルギー

(エ) 省資源・循環 (オ) 次世代への継承

(3) 環境実験実習

ア 住宅の気密測定

気密測定器を実習室内の窓の一方所に設置し、測定器のファンを回転させる。室内側が負圧になるため室内にある隙間から空気が流入する。今回の実習では、相当隙間面積は算出せず、室内

のどのあたりから空気が流入するのかを体験的に実習するために、空気が流入すると思われる箇所にテープで目貼りし、気密性について理解を深める。

イ 室外温度の測定

温度計を屋外に設置し外気温を測定する。使用する温度計は高精度で設定により数秒毎のデータが処理できる。

ウ 熱画像の解析

室内に赤外線カメラを設置し表面温度測定の原理を理解する。

4. 所感

(1) 講演Ⅰ「建築計画における近年の話題」では、少子高齢化に伴い人口の減少やコミュニティ不足が問題となっている。この問題を建築計画の側面から捉え、活性化をねらいとし、実際に春日部市武里団地で行われている隣人祭りの様子やそれに必要な施設の紹介があった。他の市町村にも現実的に問題となることが明白で、授業を進める上でこのような問題に対応できる生徒の育成の必要性を感じた。

(2) 各施設視察について特に印象残ったのは笠原小学校で、児童が元気よく校内を走り回っている様子が目に浮かんだ。帰校後に調べたところ視察団の来校が絶えないそうである。建築の持つ可能性について限りなく探求した小学校で、30年後の卒業生の動向を知りたいと思ったのは、私だけではないはずである。

(3) 講演Ⅱ「環境についての講演」では、本研究協議会のメインテーマであるサステナブル建築についての講演が行われた。建物環境性能評価指標を深く理解をすることができた。また、5段階評定方法等について授業に役立つ講義であった。

(4) 環境実験実習では実際に種々の実習を体験し、今後の実習教育におおいに役立つ内容であった。日本工業大学では、設備も充実しており高度な内容の実験・実習が可能だが、本校でも可能な限り実習機材の整備をして授業を進めたいと感じた。



平成 25 年度夏期研究協議会に参加して

新潟県立新津工業高等学校

小玉 真由美

1. はじめに

平成 25 年 8 月 8 日から 9 日の 2 日にわたり、東京都新宿区西新宿にある総合資格学院新宿校及び東京都墨田区押上にある東京スカイツリーにおいて、夏期研究協議会「二級・木造建築士試験内容見直しに伴う指導者研修会」が実施されました。東日本各地から建築を指導されている先生を中心に 1 都 11 県の 19 名の先生方が参加されました。日程は以下の通りです。

第 1 日目 8 月 8 日 (木)

- 9:00～ 9:30 受付
- 9:30～12:30 講義及び実習
- 13:30～16:30 講義及び実習

第 2 日目 8 月 9 日 (金)

- 8:30～ 9:00 受付
- 9:00～11:00 施設見学
- 11:00～12:00 施設見学

2. 夏期研究協議会

平成 24 年に建築士試験制度が見直しされ、新制度として開始され 2 年目となりました。研究協議会 1 日目は変わりつつある建築士試験の概要と試験内容について学び、将来の建築士を目指す高校生に具体的な目標と対策を示すことを目的として行われました。平成 17 年の耐震偽造問題を受け、平成 20 年 11 月 28 日建築士法改正により、建築士の資質・能力を問われるようになりました。平成 21 年度には一級建築士試験が変更となり、平成 23 年 12 月 1 日、47 都道府県及び財団法人建築技術教育普及センターより、二級建築士試験の試験内容の見直しについて発表されました。

午前中は 1 次試験(学科試験)を中心に説明を受けました。ポイントは以下の 3 点でした。

- ①「新規問題」の増加
- ②「実務を意識した問題」の増加
- ③「一級建築士からの出題」による難化

次に各分野別の傾向の説明を受けました。学科Ⅰ(建築計画)においては、話題性のある建築作品が出題される傾向にある。建築設備は、省エネ・環境関連の最新技術が狙われる。学科Ⅱ(建築法規)においては、建築士法、建設業法など建築基準法関係法令から 5 題の出題が定番化している。学科Ⅲ(建築構造)においては、耐震設計、補強改修、耐震補強等の既存建築物の維持管理に関する実務的な出題が増加している。学科Ⅳ(建築施工)産業廃棄物関連、改修工事などの建築計画や建築構造と関連した問題が今後も続く可能性があるとの説明がありました。

昼食を挟み、午後からは 2 次試験(製図試験)についての講義及び実習となりました。ポイントは以下の 5 点でした。

- ①自由度を高めた条件設定
- ②「計画の要点等」について記述する内容を付加
- ③「矩計図」の切断位置の変更、又は「断面図」の出題



④「シンプルな建築物」又は「一般的な建築物」の出題

⑤試験時間が「5時間」に延長

次に平成 25 年度本試験課題を使用してエスキス体験を行いました。設計条件、要求図書を読み解き、解答時間内に完成できるように指導を行いました。その後懇親会が行われました。

2 日目は東京都墨田区押上 1 丁目で昨年 5 月に開業した東京スカイツリーの見学を行いました。東京スカイツリーは世界一の高さを誇る 634m の自立式電波塔で、350m の天望デッキまで分速 600m の速さで一気にあがるエレベーターが 4 基あり、それぞれ四季をイメージした内装になっています。構造は、五重塔を参考にし、心柱(鉄筋コンクリート造の高さ 375m 直径約 8m の円筒で内部は階段)により地震などによる揺れを抑える「心柱制震構造」となっている。また、タワーの断面が地面真上では正三角形であるが、高くなるほど丸みをおびた三角形に変化し、地上約 320m で円形となる。そのシルエットは、伝統的日本建築などにみられる「そり」や「むくり」を意識しているなど、日本古来の技と最先端技術の新しいシンボルとされています。東京スカイツリーに上った後、東京スカイツリー地区の地区地域冷暖房施設を案内して頂きました。地区地域冷暖房施設とは建物毎に冷暖房設備を制御するのではなく、一定地域内の建物群に熱供給設備(地域冷暖房プラント)から、冷水・温水・蒸気を地域導管を通して供給し、冷房・暖房・給湯などを一定エリアで一体的に行うシステムです。地区地域冷暖房の導入により、省エネルギー性に加えて、環境保全や利便性、安全性の向上などさまざまなメリットが期待できます。東京スカイツリー地区ではメインプラントは世界最高水準のターボ冷凍機を設置して二酸化炭素排出量を従来の 48%削減しました。また、約 7,000 トンの貯水量のある大容量水蓄熱槽により、昼間のピーク電力を大幅カットしているとともに、災害時には消防・生活用水としても提供できるようになっています。その後、地区地域冷暖房施設初の地中熱利用システムも施設見学ができ、説明を聞くことができました。

地中熱利用とは、水熱源ヒートポンプを用いて、地中から熱を取り出したり、熱を放出したりするシステムです。地中温度は、夏期は外気温より低く冬期は外気温より高いことから、エネルギー消費効率を大幅に向上することができます。



3. おわりに

データ分析やポイントを押さえた指導についての講義、普段は拝見できない施設の見学など非常に有意義な講習会・研修会になりました。今回の講習会・研修会で得た知識を更に自分のものにしていくよう発展させていくことが重要と感じました。また多くの先生方と交流も貴重な情報交換の場となりました。

今回の研究協議会にあたり、企画、準備、運営に関わって下さった諸先生方、ご協力をいただきました総合資格学院、東武タワースカイツリー株式会社の皆様に改めて感謝申し上げます。

平成 26 年度夏期研究協議会報告

千葉県立市川工業高等学校 全日制

青柳 昭

1. はじめに

今年度の夏期研究協議会は、構造分科会の主催で「授業に役立つ、おもしろ構造科学実験」と題し、建築構造設計をわかりやすく教えるために、視覚で訴える構造設計を考え、教室で行える構造科学実験等の紹介を行った。

期 日：平成 26 年 8 月 7 日（木）8 日（金）

会 場：工学院大学 日本工学院八王子専門学校

テーマ：「授業に役立つ、おもしろ構造科学実験」

参加校：青森県立青森工業高校・青森県立弘前工業高校・群馬県立桐生工業高校・埼玉県立大宮工業高校・東京都立田無工業高校・東京都立総合工科高校・神奈川県立神奈川工業高校・金沢市立工業高校・鳥取県立米子工業高校・富山県立高岡工芸高校・埼玉県立春日部工業高校・私立安田学園高校・神奈川県立小田原城北工業高校・中央工学校・神奈川県立総合産業高校・東京都立蔵前工業高校・千葉県立京葉工業高校・千葉県立市川工業高校 計 18 校 30 名

2. 研修内容

〔第 1 日目〕平成 26 年 8 月 7 日（木）

工学院大学（八王子校舎）・日本工学院 八王子専門学校

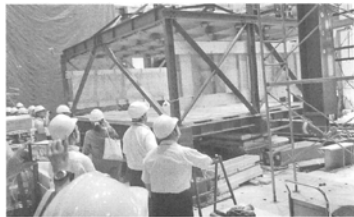
《講師》 工学院大学 山下哲郎 教授・小野里憲一 教授

(1) 振動実験について（山下哲郎教授）

現在、工学院大学建築学部では 2 台の振動台を保有している。

大変形加力装置振動台

UDM（工学院大学都市防災センター）発足と同時に導入したもので、4m×6m の大きさの振動台を、長ストロークで動かせることが特徴である。超高層（新宿校舎）の上階の揺れを再現し、室内で生じる非構造部材（天井、設備）などの脱落や家具の転倒防止を検討するための振動台である。現在のところ、主に天井落下防止のための研究を行っている。



電磁石式 3 軸振動台

リニアモーターカーと同様、電磁石の磁力で振動台を浮上させ、3 方向に動かせる小型の振動台。現在は設備の振動実験や学生の構造基礎実験の授業に用いている。生徒がグループになり、規定の揺れに壊れない構造体を作成している。

(2) テンセグリティについて（小野里憲一教授）

テンセグリティとは、「引っ張る（テンション）」と「統合（インテグリティ）」という言葉을合せてつくられた言葉です。テンセグリティ構造とは、輪ゴムのように元の形に戻ろうとする物（引張材）と木のように形が変わりにくく硬い物の 2



つを組み合わせて作られる構造体です。他にスパゲッティ（乾麺）でのテンセグリティ作品は芸術的であった。

(3) 日本工学院八王子専門学校見学会＜スマートハウス実習棟＞

日本工学院では、これからの時代に活躍する、エネルギー、エコ・スマート技術の専門家を育成するため、エネルギーを有効に活用する次世代型省エネルギー住宅「スマートハウス実習棟」を株式会社ヤマダ・エスパイエルと産学連携で建設し、企業連携等による授業を行っている。



〔第 2 日目〕平成 26 年 8 月 8 日（金）

工学院大学（新宿校舎）

《講師》 工学院大学

田村雅紀 准教授

人に生涯があるように、建築物にも生涯があります。（構想-設計-製造-施工-供用-解体-再資源化-廃棄など）。そのライフステージの節目節目に「建築材料」が何らかの形で関係しているという視点に立ち、人と建築物とで築きあげられる生涯をより豊かなものとするための具体的な技術・手法を研究テーマとして取りあげている。

「サハラ砂漠の砂は、1つ1つの粒が丸いため、すぐに流れ始めるのが特徴です。ベルリンの壁はあまりにも材料が悪く、良質なコンクリートとは言えない」と、建築材料について熱く語っていたのが印象的だった。

『建築材料が変われば建築物が変わる』学生一人一人に、建築材料の大切さを教えることを基本にしている様子が強烈に伝わってきた講義であった。田村 准教授も是非工業高校で講義を行いたいと話していた。

3. おわりに

今回の夏期研究協議会は、理解しづらい建築構造設計を構造的分野および設計的分野の 2 方向から「授業に役立つ、おもしろ構造科学実験」と題して行った。建築分野は科学技術発展のためには欠かせないのでできない分野であり、ものづくり、人づくりに大切な分野である。

- ① 振動台を使った模型振動実験
- ② 力とデザイン融合実験
- ③ 環境工学を取り入れた科学実験
- ④ 建築材料の科学強度実験等々

全国の工業高校の先生方が、地域の工業教育発展のために自身の教養を深める一助になることを願っている。工業教育はどこまでも引き上げ能力の具現化である。

最後に、今回の研究協議会を開催して下さった構造分科会の先生方、並びに工学院大学の先生方、施設案内をして下さった日本工学院八王子専門学校の先生方の皆様にご心より感謝申し上げます。

平成 27 年度夏期研究協議会報告

千葉県立市川工業高等学校 全日制
林 祐介

1. 概要

技能検定「建築大工」2級の実技課題は、当時、振垂木から四方転びに変わり2年ほど経っていました。新課題となり、すでに講習会を実施している県や学校もあったが、木材加工に精通している職員がいない学校では指導が困難であることが推察されました。そこで、新課題について研修しました。

期 日：平成 27 年 8 月 6 日（木）～7 日（金）

会 場：千葉職業能力開発短期大学校 千葉キャンパス

テーマ：「規矩術と木材加工」

講 師：（一社）日本建築大工技能士会 理事 池田和史
評議員 長谷川裕樹

参加校：仙台市立仙台工業高校 福島県立勿来工業高校
群馬県立館林商工高校 埼玉県立大宮工業高校
千葉県立市川工業高校 千葉県立京葉工業高校
東京都立蔵前工業高校 東京都立田無工業高校
東京都立総合工科高校 神奈川県立藤沢工科高校
金沢市立工業高校 計 11 校 14 名

2. 研修内容

(1) 現寸図の作成

始めに課題説明があり、続いて現寸図の作成を行いました。平面図・正面図・側面図があらかじめ印刷された用紙が配布され、要となる右柱展開図の作図から作業に取り掛かりました。技能検定 2 級課題に取り組むことが初めての参加者も多く、思いのほか時間が掛りました。四方転びの柱に貫の仕口がある展開図のために中勾勾配・小中勾勾配を使って作図していくという原理を理解するのが苦労しました。作図手順を覚えるので精一杯という参加者もいましたが、講師が巡回し、その都度、指導して下さいました。一度だけではなく、何度も繰り返し研修を重ねる必要性を感じました。

(2) 墨付け

墨付けは基本的に、現寸図に部材を当て、墨を写しとるので、現寸図の精度が重要であると再認識しました。四方転びの柱については、左右の柱の墨付けを逆にしないように、「くせ」をみて墨付けを行います。また、左右の貫についても注意が必要で、現寸図に貫の転びを作図し、完成イメージができなければ内側、外側の墨付けを間違えてしまうことがあります。実際に生徒に指導する前には、現寸図と同様に自主研修により、複数回取り組む必要があると感じました。

(3) 加工

加工手順と方法について、講師の実演と説明を受けてから、それぞれの作品の加工にとりかかりました。インパクトドリルで「した孔」をあける際も、「ぼり」がでないように、のみだてをするなどの注意点や、インパクトドリルを使用する際は、穴あけが必要な全ての部材に孔をあけてからのみで加工するなど、作業時間の短縮するポイント等の説明もありました。



研修の様子

(4) 組立て

2 日目の午後から、組立て手順の説明をしていただきました。組立て前には鉋掛けをして全ての墨が残らないようにします。切断箇所は鉋掛けをしても「切り墨」が分かるようにあらかじめ「のみだて」をしておきます。

組立て手順にも注意が必要で、正面の貫と四方転びの柱を仮組みし、柱を天板に差込みながら徐々に貫と柱も締めていく必要があります。同時に四つの部材を組立てることになることも、大変勉強になりました。



研修の様子

3. おわりに

生徒の資格取得に向けた指導に直接役立つ技能講習に重点を置いて、「規矩術と木材加工」と題して企画しました。

技能検定は生徒の関心も高く、受験希望者は比較的多いと思います。しかし、3 級と 2 級の技能レベルの差は大きく、2 級課題はその分野に精通していないと指導は難しく、生徒のニーズに応えられません。

今回の研修会で、参加された先生方に少しでも、「役に立った」、「得るものがあつた」と思ってもらえたのであれば幸いです。そして、各校おいて今回の経験を活かし、さらに研鑽を重ねて、生徒指導に当たっていただいたのではないかと思います。

夏の暑い中での作業となりましたが、多く先生方に、参加していただき、企画した施工分科会委員として嬉しく思いました。

平成 28 年度夏期研究協議会に参加して

静岡県立島田工業高等学校

坂本 真生

1. はじめに

建築士試験において、建築史は苦手としている人も多い。高校教育においては、建築史は然程重要視されておらず、生徒が普段見る街並み＝建築物が、どのような背景を経て建っているのか、理解されていないのが現状である。

そんな中、今年度の夏期研究協議会は、製図分科会の主催で、「上野フィールドワーク」と題し、7月28～29日の2日間の日程で、東京都上野にて行われた。

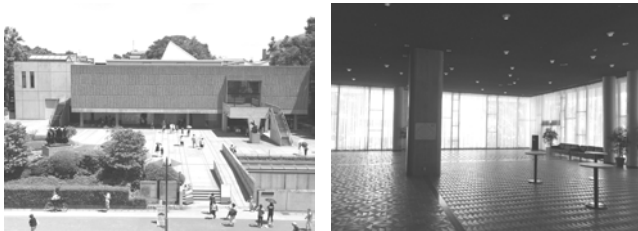
上野恩賜公園周辺は、過日世界文化遺産に登録された、国立西洋美術館を始めに、東京文化会館や国立博物館などが建ち、日本最大の芸術・文化の拠点として知られている。有名建築家たちが建物に込めた建築理論やデザインについての理解を深め、今後の建築のあり方について考えることを目的に、研修を行った。

2. 概要

期 日：平成 28 年 7 月 28 日（木）～29 日（金）の 2 日間

会 場：東京都台東区上野公園 東京文化会館他

テーマ：「上野フィールドワーク」

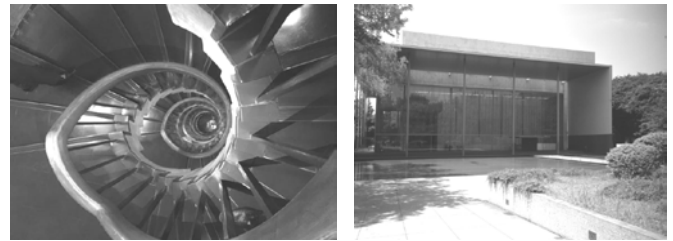


3. 研修内容（1日目）

集合場所となった東京文化会館は、世界文化遺産の国立西洋美術館を設計した、ル・コルビュジェの弟子である、前川國男による建築物で、日本一音響の良い文化ホールとして名高い。道を挟んで師弟の作品が並ぶのは非常に興味深い。文化会館内では、一般客用の「赤の階段」、関係者用の「青の階段」が一番印象に残った。

国立西洋美術館についての講義は、当初 30 分の予定が、それだけでは語り切れなかったのだろう、何と 2 時間近くとなった。炎天下に出ても講義は続き、結果、美術館見学は、30 分という非常に短い時間となってしまった。ぐったりするほどの熱意で教えて頂いた事は、日本の建築技術の高さについてである。モダン建築が世界を席卷していた 1930 年代、日本の建築物が当時のフランスやドイツの建築雑誌に紹介されていたそう。旧東京中央郵便局や高輪小学校など、公共建築のデザインや建設技術が世界で高く、評価されていたとは驚きであった。

また、西洋美術館の設計者であるル・コルビュジェは、近代建築 3 巨匠の 1 人であり、彼には日本人の弟子が 3 人いた。その 3 人が遠くフランスにいる彼の意思を汲み、この国立西洋美術館の設計を完成させた。この点は、建築に携わる人達にとっては既知の事実なのだが、生徒は普通教わらない。教員として魅力を伝えていかなければならないと再認識した。



4. 研修内容（2日目）

昨日に引き続き、東京文化会館にて講義を受講した。上野周辺には、多くの近代建築が立ち並んでいるが、建てられた年代による変化を知ることで、当時の日本建築を取り巻く人の考え方の変や技術革新、モダニズムの変化・流れを感じることができ、当時へと思いを馳せることができたかもしれない。

国立博物館を巡り、国立国会図書館（国際子ども図書館）を廻る。豪華なスケジュールの中でも、熱心な講義は伸びていく。講師から、日本は、建築の現図に価値を置いていないという裏情報があった。我々教員は、建築を学ぶ生徒に、図面は大切なものだということを説いているが、社会はその逆のを行っていることに愕然とした。現図は、建築物竣工後に行う修復・改修には必ず必要となるし、建築家の思いが表れた線を見ることができる。

外国では大切に保存し、ぜひ買いたいという価値のあるものとして認識されている。ハーバード大学は丹下健三の現図を所有している。修復する際には、日本政府は 1 枚 50 万円で貸出してもらおうそうだ。情けない話だと思う。まず国が価値を認め、大切に保存して欲しいと感じた。



5. おわりに

真夏日で、体力も気力も尽きかけた 2 日間だったが、上野周辺の文化施設群の多様さに圧倒され、その背景に触れることもできたと共に、日本が世界に誇る建築家達の作品に触れることができ、非常に有意義な時間を過ごせた。建築物の背景を知れば、自分を取り巻く環境に愛着が湧いてくることを、生徒に伝えたい。そして、建築の奥深さを知って欲しいと思う。

最後に、今回の研究協議会にあたり、ご講義下さった鈴木先生を始め、運営に携わった製図分科会の先生方など、多くの方々に心より感謝申し上げます。

平成 29 年度夏期研究協議会報告

埼玉県立川越工業高等学校
小坂橋 駿介

1. はじめに

初日は、日本工学院専門学校にて建築模型を共通点とした 2 つの講義があり、2 日目は、建築倉庫ミュージアムの見学会が行われた。

今回は、建築模型に焦点を当て、講師の経験を踏まえた指導方法を学ぶことができた。また同時に、模型の活用についても新たな視点から考えることで、その可能性が広がる内容となった。その他にも、作成時の工夫など指導の際に曖昧に感じていた部分を明確にする機会にもなった。

2. 概要

期 日：平成 29 年度 8 月 9 日（水）～10 日（木）の 2 日間

会 場：日本工学院専門学校 建築模型ミュージアム 他

参加者：26 名（21 校）

講 師：日本工学院専門学校 建築設計科 松村哲志
長沖充建築設計室 長沖充

3. 研修内容（1 日目）

①講義 1 「日本工学院における模型指導について」

日本工学院専門学校の松村哲志氏より、「矩計図設計技術の習得における模型製作の効果」について講義をしていただいた。

②講義 2 「ルイス・カーンのフィッシャー邸をつくる」

長沖充建築設計室の代表、長沖充氏による「模型製作指導者講習会」が行われた。材料は予め用意されていた。製作過程は書画装置を使い手元を拡大しながら説明された。カッターの刃の折るタイミングについて、一枚残しのきれいな処理の仕方など細かく指導していただいた。模型作成について習う機会はほとんどない。普段作成する模型も誰から習ったわけではなく、参考書や実例などから独学で学んできた部分が多い。その分、相手にどうやって作成の注意点を伝えるべきなのか、工夫するポイントなどについて教員間で曖昧な部分が多かった。昨今の小中学生ではカッターそのものに触れる機会が少ないため、模型作成における方向性について指針になると感じた。



4. 研修内容（2 日目）

建築倉庫 ARCHI-DEPT の見学会が 2 日目の午前中に行われた。国内外で活躍する日本人建築家や設計事務所による建築作品の模型が展示されていた。敷地に対していくつものスタディ模型による検討がなされ、1 つの建築物へと集約されていくことが展示品からも窺い知ることができた。また、模型ごとに伝えたい内容が異なり、そのテーマに沿った材料・表現の工夫をしていることが分かる。

こうした建築物の成り立ちが見えたことで、模型そのものの役割がパソコンの画面では伝わらないものを伝えてくれると改めて気づくことができた。

午後からは国立近代美術館に移動して、企画展「日本の家 1945 年以降の建築と暮らし」を見学した。日本の建築科 56 組による 75 件の住宅建築を、400 点を超える模型、図面、写真などを通して紹介する企画展であった。日本の住宅建築を成立させる条件が大きく変わった戦後に焦点をあて、建築家が手がけた住宅をこれまでにない規模で展示されていた。現在に至るまでの、建築家による日本の住宅について学ぶことができた。

5. 参加者の感想（アンケートより抜粋）

[ご意見・ご感想]

- ・プロの技術を学ぶことが出来、大変参考になった。
- ・かなばかりの模型を活用した授業展開を行いたいと思った。
- ・生徒が手間取る箇所などが確認できました。
- ・科目の横断的な展開について大変興味を持ちました。
- ・建築模型の写真撮影の工夫、添景の作り方を知りたい。
- ・自分で実際に体験することでどこが難しいか再確認できた。
[模型指導で苦労していることについて]
- ・カッターを使用することがない学生もいる。
- ・生徒の技術の差をどう埋めていくのか。
- ・時間短縮による部材の加工。ほとんど寸法に切断して配布。
- ・時間数の確保。時間をどう生み出すかが課題。
- ・全員が同じ課題だと評価の基準が設定しづらい
- ・材料代が高額になりがちである。
- ・最後まで丁寧に仕上げる事が出来ない。
- ・部材名称を建築構造で学ぶが、定着しておらず模型を作る際に 1 からになってしまう。
- ・頭の中で立体を想像できない生徒が増えてきている。

6. おわりに

昨年度より計画分科会で取り組んでいる「模型製作」について、今年度の夏期研究協議会では「模型製作の基本的な指導法」と題して企画されました。実際に目で見て、手を動かしながら模型製作について学ぶことができたと共に、科目を横断していくことで、模型の可能性がより広がると感じられた有意義な時間となった。

また、アンケートからは授業内で模型を扱うには多くの課題を抱えていることも見えてきた。こうした現状において、模型活用のされかたについては検討の余地があると考えます。



平成 30 年度夏期研究協議会に参加して

群馬県立館林商工高等学校
根岸 俊行

1. はじめに

平成 30 年 8 月 9 日から 10 日の 2 日にわたり、東京都北区王子本町一丁目にある中央工学校、東京都新宿区西新宿にあるダイキンソリューションプラザ「フーハ東京」及び東京都渋谷区代々木にある TOTO テクニカルセンター東京、TOTO 東京センターショールームにおいて、夏期研究協議会「建築物省エネ法・消防法を中心とした建築設備の実習」が実施されました。東日本各地から建築を指導されている先生を中心に 1 都 12 県の 18 名の先生方が参加されました。日程は以下の通りです。

第 1 日目 8 月 9 日 (木)	第 2 日目 8 月 10 日 (金)
9:30～10:00 受付	10:15～10:30 受付
10:00～10:20 講義	10:30～12:30 施設見学
10:30～12:30 研修	14:00～16:30 施設見学
13:30～15:00 環境実習	
15:30～16:30 現場見学	

2. 夏期研究協議会

1 日目は、建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律(建築物省エネ法)、消防法などの関連法規についての講義を受けたのち、中央工学校で実施している大手建設会社の新入社員研修を工業高校の教員向けに再編された研修を受けました。研修では給排水衛生設備・防火設備・空気調和設備について説明を受けてから実習を行いました。

昼食を挟み、午後からは温度・湿度、気流、一酸化炭素・二酸化炭素、浮遊粉塵、残留塩素などの測定実習を行いました。その後、清水建設株式会社の「中央工学校王子キャンパス整備計画」建設現場の見学を行いました。その後懇親会が行われました。



王子キャンパス建設現場見学

2 日目は午前には東京都新宿区西新宿のダイキンソリューションプラザ「フーハ東京」にてエアコンの分解実習などの空調設備実習及び施設見学を行いました。昼食を挟み、午後からは会場を東京都渋谷区代々木の TOTO テクニカルセンター東京、TOTO 東京センターショールームに移し施設見学を行いました。最後に新国立競技場の建設現場を見学して終了しました。



エアコンの分解実習

新国立競技場建設現場見学



新入社員研修

3. おわりに

2 日間を通して非常に有意義な講習会・研修会になりました。法令や環境技術は常に進化しており、自分の不勉強さを実感しました。最新の環境技術についての講義、普段では拝見できない場所の見学そして多彩な設備を使った実習など貴重な経験ができました。また多くの先生方と交流も貴重な情報交換の場となりました。

今回の研究協議会にあたり、企画、準備、運営に関わって下さった諸先生方、ご協力をいただきました中央工学校、ダイキンソリューションプラザ、TOTO テクニカルセンター東京、TOTO 東京センターショールームの皆様に改めて感謝申し上げます。

令和元年度夏期研究協議会に参加して

東京都立総合工科高等学校 全日制

小澤 誠志

1. はじめに

令和元年8月8日(木)～9日(金)の2日間、「高強度コンクリートの破壊試験」と題した構造分科会主催の夏期研究協議会に参加しました。

日程は下記の通りです。

【第1日目】8月8日(木)

- 9:30～10:00 受付 浅野工学専門学校
- 10:00～12:30 講義・実習
- ①高強度コンクリートの練り混ぜ
 - ②スランプフロー試験
 - ③高張力鉄筋の配筋(柱モデル・梁モデル)
- 12:30～13:15 昼食
- 13:15～15:30 実習
- ①高強度コンクリートの破壊試験
 - ②高強度コンクリート
+高張力鉄筋(柱モデル)破壊試験
 - ③高強度コンクリート
+高張力鉄筋(梁モデル)破壊試験
- 15:30～16:30 施設見学 浅野工学専門学校内の施設見学

【第2日目】8月9日(金)

- 9:45～10:00 受付 春日・後樂園駅前地区第一種市街地再開発事業施設【南街区】現場事務所
- 10:00～10:30 概要説明
- 10:30～11:30 現場見学
- 11:30～12:00 質疑応答
- 12:00～14:00 昼食・移動
- 14:00～16:30 東京都中央卸売市場(豊洲市場)の見学

2. 研修内容

【第1日目】8月8日(木) 浅野工学専門学校

高強度コンクリートに関する基礎知識の講義を受けた後に、実際に高強度コンクリートの練り混ぜやスランプフロー試験を体験した。高強度コンクリートは特殊な混和剤を使用しているため、高流動のコンクリートとなり、スランプフローは約70cmでした。

普段、コンクリート実習の授業で扱う普通コンクリートとは全く流動性が確認できました。

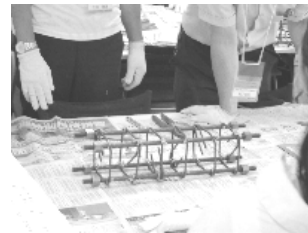
また、高張力鉄筋の配筋の特徴的なのは主筋をねじ切って、ネット締めしているところです。



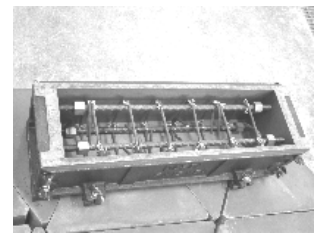
練り混ぜ状況



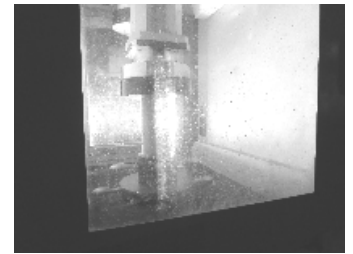
スランプフロー試験



高張力鉄筋の配筋



無筋の円柱供試体の圧縮強度は100N/mm²程度であった。また、破壊する瞬間は爆音とともに、爆裂する様子を見ることができました。



無筋の円柱供試体

【第2日目】8月9日(金)

春日・後樂園駅前地区再開発事業【南街区】

こちらの現場は敷地は広いが、東京電力の既存施設の機能を維持しながら施工する点に配慮しているとのことでした。

作業員は700名程で、最盛期の現場を見学できました。



屋上



中間階

東京都中央卸売市場(豊洲市場)

ツアーガイドの案内のもと、青果棟→水産卸売場棟→水産仲卸場棟の順番に見学しました。市場ならではの構造やデザインの意味について学ぶことができました。



水産卸売場棟クロマグロ模型前にて

3. おわりに

改めて百聞は一見に如かず。実際のモノに触れたり、体験したり、自分の目で見てみることの大切さを実感しました。

2日間にわたって有意義な研修を受けることができました。今回学んだことを生徒に還元できるように工夫したいです。

製図分科会報告

埼玉県立大宮工業高等学校 全日制
吉城 守

1. はじめに

製図分科会では「教材の提案」と「研修の場の設定」を大きな目標として活動を続けてまいりました。教科書だけでは指導の難しい部分を補う教材の提案や、教員対象の研修会、生徒対象の講習会を実施してきました。平成22年から令和1年まで、10年間の活動状況を報告いたします。

2. 総会（研究協議会）のテーマと実施内容

平成22年度 福島大会 参加者：26名

テーマ：「構造を考えさせる製図指導-1」～伏図を考えさせる～

この年より本研究会が主催する全国製図コンクールにおいて、課題2から4まで「屋根伏図」を表記することが課題内容に含まれたこともあり、「屋根伏図」をテーマとし、「屋根伏図を考えさせる」教材の提案を行いました。

平成23年度 神奈川大会 参加者：25名

テーマ：「三次元 CAD の活用法」

新学習指導要領「製図」の内容に「CAD」「三次元CAD」が正式に加えられたことを受け、賛助会員の株式会社インフォマティクス様、福井コンピュータ株式会社様、株式会社ムトーエンジニアリング様、メガソフト株式会社様の4社から三次元CADソフトの紹介を行っていただきました。

平成24年度 宮城大会

東日本大震災後のため、研究協議会（分科会）の実施なし。

平成25年度 新潟大会 参加者：35名

テーマ：「構造を考えさせる製図指導-2」～軸組を考えさせる～

構造材の組み方、配置を意識させながら、伏図や軸組図等の構造図に取組ませる方法として、3D CAD や軸組模型を活用した指導の実践報告を行いました。

平成26年度 茨城大会 参加者：29名

テーマ：「三次元 CAD の活用事例」

3D CAD を立体表現の基礎である三角法に取り入れた指導方法やコンペ指導に活用した事例報告を行いました。

平成27年度 山形大会 参加者：29名

テーマ：「製図指導の実践報告」～基本から応用～

「基本」の指導として、製図コンクールで多くの入賞者を輩出している長野県飯田 OIDE 長姫高等学校の取組を清水潔先生から発表いただき、「応用」の指導として、製図分科会主催の研修会に参加いただき、それを取り入れた指導内容を千葉県立東総工業高等学校の高旨清仁先生に発表いただき、実践報告を行いました。

平成28年度 千葉大会 参加者：29名

テーマ：「製図課題の指導法」

～教科書「建築設計製図」活用から～

教科書・製図例2-1（木造平屋建住宅 配置図・平面図）の指導上の工夫点や図面の疑問点等について、グループ討議（情報交換）並びに発表を行いました。

平成29年度 愛知大会

研究協議 I の見直し（5分科会から3分科会実施へ変更）のため、研究協議会（製図分科会）の実施なし。

平成30年度 長野大会 参加者：49名

テーマ：「宮後浩先生に学ぶ、魅せる手描きパースのテクニック」

（一社）日本パーステック協会理事長の宮後浩先生から実践的なパース技法を学ぶ、講演会を行いました。

令和1年度 北海道大会 参加者：28名

テーマ：「製図課題の指導法2」

～教科書「建築設計製図」活用から～

教科書・製図例2-3（木造平屋建住宅 立面図・断面図）の指導上の工夫点や図面の疑問点等について、グループ討議（情報交換）並びに発表を行いました。

3. 夏期研究協議会

平成23年8月3日（木）・4日（金）

「初心者のための3D CAD 研修会」

会場：日本工学院専門学校蒲田キャンパス

参加者：19名（1都8県より）

「三次元CAD」の活用法について理解することを目的に「初心者のための3D CAD 研修会」と題して実施いたしました。

当時、製図分科会委員であった櫻井良明先生を講師とし、フリーソフトである、Jw_cad と SketchUp を使用して、プレゼンテーション図面の作成を行いました。

3月に起きた東日本大震災の影響で、参加者が少ないのではないかと心配していましたが、1都8県から建築系学科の先生方15名と賛助会員の専門学校の先生方4名、計19名の先生方に参加していただきました。皆さん真剣に取り組んでいただき、有意義な2日間の研究協議会になりました。



平成 28 年 7 月 28 日 (木)・29 日 (金)

「上野フィールドワーク」

会 場：東京都・上野公園付近

参加者：29 名 (1 都 12 県より)

近代建築史に名の残る作品が多い上野公園を中心に、専門家による講義と解説を受けながら建物を見学することで、有名建築家たちが建物に込めた建築理論やデザインについての理解を深め、今後の建築のあり方について考えることを目的に実施いたしました。スタジオ M2 の代表で東京造形大学講師の鈴木実先生を講師に招き、世界遺産に登録された国立西洋美術館はじめ、上野の杜のフィールドワークを行いました。

東京文化会館のバックヤード等、普通では見られないような場所も見学でき、有意義な研修会になりました。

4. 製図分科会担当 生徒対象講習会・教員対象研修会

「建築系高校生設計製図講習会」夏期講習 参加者：延べ 77 名

「設計製図指導者研修会」夏期研修 参加者：延べ 27 名

平成 22～24 年の 7 月に、賛助会員である中央工学校様の南ヶ丘倶楽部をお借りして、1泊2日で軽井沢周辺のフィールドワークを体験してもらう企画を実施しました。



生徒達にはフィールドワークを通じて、他校生徒との交流を通して設計イメージの深化を図ることを目的に「設計製図講習会」。先生方にはフィールドワーク（現地調査）手法を研修すると共に他校職員との交流を通して、指導実践の情報交換を図ることを目的に「設計指導者研修会」を同時に開催しました。

多くの学校の生徒と先生方に参加いただき、大変有意義な講習会・研修会となりました。この企画の実施に際しまして、ご協力をいただきました中央工学校の松田正之先生、生川清孝先生をはじめ、中央工学校の先生方に改めて感謝申し上げます。



「建築系高校生設計製図講習会」冬期講習 参加者：延べ 76 名

「設計製図指導者研修会」冬期研修 参加者：延べ 72 名

平成 21・22・24・26 年 日本工学院専門学校蒲田キャンパス
平成 23 年 宮城県白石工業高等学校
平成 25 年 新潟県立上越総合高等学校
平成 28 年 金沢市立工業高等学校

以上を会場として、12 月（金沢市立工は 2 月）にフリーソフト（SketchUp, Jw_cad）を用いたプレゼンテーション技法を身に付けることを目的に「設計製図講習会」と「設計製図指導者研修会」を同時に開催しました。

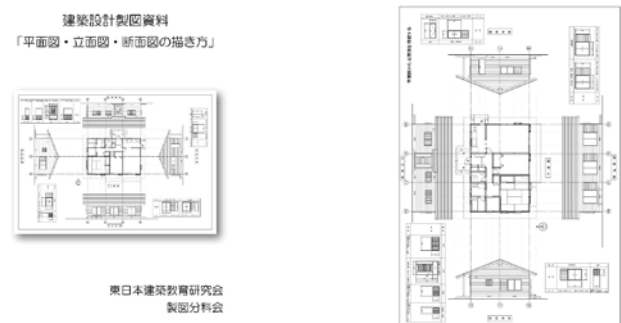
冬期講習・研修会も夏期と同様に多くの学校の生徒と先生方に参加いただき、大変有意義な講習会・研修会となりました。この企画の実施に際しまして、ご協力いただきました日本工学院専門学校清水憲一先生はじめ、日本工学院専門学校並びに日本工学院八王子専門学校の先生方に改めて感謝申し上げます。また、各会場でご協力いただきました宮城県白石工業高等学校、新潟県立上越総合高等学校、金沢市立工業高等学校の先生方に感謝申し上げます。



5. 建築設計製図資料「平面図・立面図・断面図の描き方」

平成 27、28 年と教科書の活用状況調査を行い、多くの学校で教科書以外の教材を活用していることが分かりました。

そこで、製図分科会で研究をつづけてきた初期製図の指導方法を冊子にまとめました。内容は、1/50 の平面図を 1/100 の表現で描くことにより図面の描き方を学ぶ方法や、平面図と関連付けて立面図や断面図を描く方法。また、屋根伏図を学びながら立面図や断面図に表現する資料など、初期製図指導の参考にしていただけるような内容を編集し、長野大会で都道府県理事の先生方と分科会に参加していただいた先生方に配布しました。また、北海道大会ではデータの配布を案内させていただきました。



6. おわりに

この10年間の活動を振り返り、製図分科会では様々な企画を実施してきたと実感しています。それぞれの企画が無事に実施できたのも、多くの先生方や賛助会員様のご協力のお蔭だと思っております。重ねてお礼申し上げます。

今後も製図の指導方法について研究を重ね、会員の皆様に情報提供と研修の場の提案をしていきたいと考えています。製図指導に関するご意見やご要望をお寄せいただければと思います。

最後になりますが、今後も製図分科会の活動にご理解とご協力をお願い申し上げます。

計画分科会報告

埼玉県立春日部工業高等学校
江原 聖直

1. はじめに

計画分科会では、平成 21 年から 26 年まで主に住宅設計に対する評価方法や設計プロセスなどを中心とした研究と実践例の紹介を行いました。また、平成 27 年度より 5 年間の計画で「模型製作及び活用方法」に関して研究を進めて参りました。

以下は過去 10 年間の活動報告となります。

2. 総会（研究協議会）について

□「住宅設計について」平成 21 年度～26 年度□

平成 22 年度 福島大会

テーマ：「考えるための紙模型」

～小住宅のプランニングから立体把握へ～

参加者 2 人組で小住宅のサンプル模型を作成してもらい、大宮工業高校での実践をビデオ上映し生徒の反応や指導上の留意点等を発表しました。その後、生徒実践例（自主設計模型）を紹介し、断面理解の教材として意見交換しました。



平成 23 年度 神奈川大会

テーマ：「建築計画の導入」～建築の魅力を感じさせるには？～

建築計画教科書第 1 章の指導法についての研究協議で、参加者には事前アンケートで教科書のどの部分を重点的に指導しているか。また、補助教材の工夫を調査しました。

総会では、3～4 名でグループを組み、各校の状況報告や教材の紹介を行い、代表者 2 名に、各自で工夫している指導報告をしてもらいました。

平成 24 年度 宮城大会

震災後のため、分科会の研究協議 I は実施せず。

平成 25 年度 新潟大会

テーマ：「住宅の基本的なプランニングの指導法について」

1 年生の建築計画（住宅の計画）の授業において、大宮工業高校で使用した演習プリント（玄関と水周りの計画）を参加者に実践してもらい、グループごとに評価とディスカッションを実施しました。まとめとして、グループごとに発表をしてもらい、参加者には、大宮工業高校で使用したデータを配布しました。

平成 26 年度 茨城大会

テーマ：「住宅の計画の指導事例」

住宅の計画の授業において、参加者所属校での指導事例や使用している教材を持ち寄り、グループディスカッションを実施しました。まとめとして、グループごとに発表をもらい、グループごとの教材を持ち帰りました。

平成 27 年度 山形大会

テーマ：「住宅設計の実務とポイント」

講師：東北学院大学 工学部 環境建設工学科 教授

櫻井一弥氏



住宅設計指導において、実務設計の観点から櫻井教授の設計された住宅を中心に講演を行っていただきました。その後、質疑応答を行いました。

□「模型製作及び活用方法について」平成 28 年度～令和元年度□

平成 28 年度 千葉大会

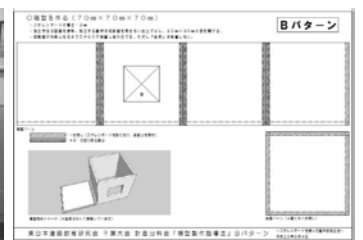
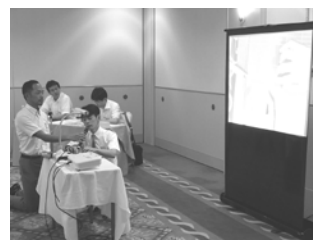
テーマ：「模型製作の基本的な指導法」

～ステレンボードを用いた模型製作の指導法～

模型製作方法の基本を検証するため、グループで協議しながら立方体の製作方法を行いました。また、2通りの製作方法を用意し、最後に全大会での発表し意見交換を行いました。

平成 29 年度 愛知大会、平成 30 年度 長野大会

研究協議 I の運営方法見直しにより、5 分科会実施から 3 分科会実施に変更した為、2 年間は研究協議会を実施せず。



令和元年度 北海道大会

テーマ：「模型指導法について」講演会

「建築を表現するためのプレゼンテーション・

プログラムについて」

講師：星槎道都大学 美術学部 建築学科教授 安藤淳一氏
星槎道都大学 美術学部 建築学科教授 佐藤善太郎氏

建築表現の指導方法として、同大学で実施されているプログラムから安藤教授並びに佐藤教授の両名により講義頂きました。安藤教授からは、手書きによる表現の事例紹介と実践例を紹介頂きました。また、佐藤教授からはデジタル表現について、事例と実践例を紹介頂きました。

3. 夏期研究協議会について

平成24年8月2日(木)、3日(金)

テーマ:「サステイナブルな建築住環境を考える」

会場:「日本工業大学」

参加者:17名

初日は佐々木先生の講演を聴講しました。「建築計画における近年の話題」というテーマで、日本工業大学で取り組んでいる武里団地高齢化コミュニティ再生についての実践報告でした。学生自ら地域コミュニティで生活を共にし、その生活の中からどのように建築計画をしていくかの糸口を探っていく活動に感銘を受けました。講演終了後、佐々木先生の案内で、大学周辺の事例研究を実施しました。笠原小学校や新しい村などのフィールドワークを行いました。近年の建築計画においては、ものづくりでつくられてきたものをどのように活用していくのが焦点であるとのことでした。

2日目は午前中に成田先生の「環境についての講演」を聴講しました。快適な環境をつくるために必要な熱環境について話を聞きました。実際にサーモグラフィーカメラを用いて温度変化の実験は興味深かったです。また、サステイナブル建築の指標として世界各国で採用されている評価基準は参考になりました。



平成29年8月9日(水)、10日(木)

テーマ:「建築模型について～学習活用法・

製作講習会及び模型展示施設等見学会～」

会場:「日本工学院専門学校 蒲田校」 参加者:26名

【第1日目】

講師:日本工学院専門学校建築設計科 松村哲志先生

同校に於いて2級建築士試験の製図における矩計図の作図は構造的な理解に基づいた習得が必要であり、立体的に構造を理解するには、矩計の模型製作体験を通じ、組立を疑似体験する指導法に効果があると仮説を立てられました。また、総合的な建築の学習効果を高める為には、製図と計画と構造などを横断的に連動した学習が必要であると述べられました。



「建築家 長沖 充氏による模型製作指導」

講師:長沖充建築設計室 代表 長沖充氏

演習:「ルイス・カーンのフィッシャー邸」をつくる

予め用意された各パーツの切取、組立、加工方法について説明を受けながら製作しました。主なパーツとしては、敷地(ダンボー

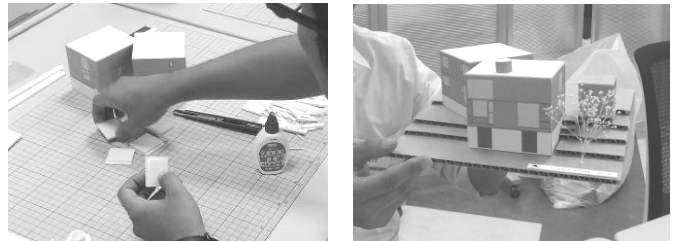
ル)、建築物(スチレンボードにカラー印刷された建物の立面パーツを貼付したもの)、外構用パーツ(樹木:カスミソウ、タイトル)でした。

敷地は、印刷された用紙をダンボールに貼り付け、型に沿ってカッターナイフで切り出しました。この時、カッターナイフの切り込みに対する角度や回数など、書画装置を用いて手元を拡大しながら説明を受けました。建物のパーツの加工に入る前に、失敗事例を紹介がありました。主な原因として、一枚残しにおいてスチレンボードに残るスチロールボードの除去が徹底されていなかった点等について、写真を見ながら分かりやすく説明を受けました。



組立は、木工用ボンドを用い爪楊枝を使って薄く塗り組み合わせます。木工用ボンドは接着した後、透明になり目立ちにくく、薄く塗布しやすい特徴があります。

建物のパーツが組み合わせた後、敷地に埋め込む形で接着し、樹木や表題パーツなどを付け、完成となります。



【第2日目】

施設見学 11:00~12:30 (建築倉庫 ARCHI-DEPOT 見学)

国内外で活躍する日本人建築家や設計事務所による建築作品の模型を、スタディから完成模型まで展示されていました。



施設見学 14:00~16:30 (国立近代美術館)

企画展 「日本の家 1945年以降の建築と暮らし」 見学

日本の建築家56組による75件の住宅建築を、400点を超える模型、図面、写真などを通して紹介する企画展でした。

4. おわりに

この10年間の活動を振り返りますと、会員皆様の声を頼りに主たる建築計画の内容に留まらず、今生徒に必要な教材の手助けとなる内容を研究協議に活かすことができたと思います。

これまでの活動にご協力頂きました、賛助会員、分科会委員を初めご参加頂きました先生方に深く感謝いたします。今後とも宜しくお願い申し上げます。

法規分科会報告

神奈川県立藤沢工科高等学校

大木 英生

1. はじめに

法規分科会は平成14年度に計画分科会から独立して法規小委員会として発足しました。その後、平成18年度に分科会として現在の組織に移行しました。今年で小委員会が発足して18年、委員会に移行して14年になります。現在では分科会委員も10名を超えて「教材の研究」と「研修の場の設定」を主に活動しています。具体的には教科書だけでは指導しづらい部分を補う補助教材であるワークノート及び建築法規の過去問題集の編集や、教員対象の研修会を実施してきました。平成22年(2010)創立60周年記念誌発行から10年が経ちましたので、法規分科会における平成22年(2010)から令和元年(2019)まで、10年間の活動状況を報告いたします。



2. 総会(研究協議会)のテーマと実施内容

平成22年度(2010) 福島大会

テーマ:「建築施工管理技術検定の指導について」

群馬県立前橋工業高等学校建築科の石井直樹先生から建築施工管理技術検定の指導方法について発表していただきました。石井先生はクラスの生徒全員を合格させた実績があります。教室内に現物を展示して受験対策の環境をつくり、受験会場の東京にみんなで一緒に行くことをクラスのイベントとして位置づけモチベーションを上げた話をされました。



平成23年度(2011) 神奈川大会

テーマ:「新学習指導要領にいかに対応するか」

明海大学名誉教授の松本光平先生から学習指導要領の改訂を踏まえ、建築教育的ニーズについて講演していただきました。松本先生は実教出版発行「建築法規」の教科書の監修をされており、建築関係法令の改正とそれに対応した建築教育の在り方について説明されました。その後、参加された先生方から難解な法令を高校生に伝えるにあたって工夫されていることなどについて意見交換がされました。

平成24年度(2012) 宮城大会

テーマ:「目で見る建築法規」

建築家の吉村靖孝先生を講師としてお招きし、「目で見る建築法規」と題しまして、先生の著書でもある「超合法建築図鑑～斜線カテドラルからコンテナ建築まで～」の内容についての解説と、東日本大震災の復興プロジェクトとして行った「エクステンテナ」について講演いただきました。



平成25年度(2013) 新潟大会

テーマ:「建築施工管理技術検定の指導について 定時制版」

定時制建築科の4年間における取り組みについて、千葉県立市川工業高等学校の岩瀬先生から発表していただきました。中学時代の不登校、計算ができない、経済的な問題を抱えているといった生徒の実情を踏まえ、1年次から資格取得の重要性を説き、写真等を印刷した視覚プリントで理解を促し、繰り返し学習で定着を目指す話がされました。その後、参加された先生方からも各学校の取り組み状況などが報告され、たくさんの声を聞くことができました。

平成26年度(2014) 茨城大会

テーマ:「木は燃える けれど、木は燃えない」

けんちく工房「邑」代表の対馬英治氏から木造建築物の魅力について講演いただきました。阪神淡路大震災をきっかけに日本の住宅の再生のため設計事務所を立ち上げました。人間という動物が日本で暮らすための住処はどうあるべきか、参加された高校の先生方を通して、これからの住宅建築を担う高校生に向けて講演していただきました。筋かいを使わない落とし板工法の耐力壁や杉皮を使った断熱材などによる独自の住宅建築を実現しています。木造住宅が火に弱いという先入観で木造住宅の文化が衰退してきていることを憂いこのようなタイトルになりました。燃え代をしっかりと設計すれば燃焼はそれ以上進行せず、有毒ガスも出さないことが報告されました。

平成27年度(2015) 山形大会

テーマ:「消防法の改正と消防設備」

中央工学校建築工学科主任の若泉栄氏より消防法の法改正の経緯を、その要因となった火災の問題点を非常に詳しく動画も交えて解説していただき、改定の経緯を分かり易く解説していただきました。



平成 28 年度 (2016) 千葉大会

テーマ：「建築基準からひもとく『消防法』」

～設計時から配慮すべき建物維持管理に不可欠な

消防規制対応について～

東京防災設備保安協会防火安全部防火安全対策課の伊藤實氏より消防法に興味を持ってもらうことを主眼に、建物の設計から竣工以降、消防法による各種の規制があることについて、建築基準を絡めて解説して頂きました。建築を学ぶ要素に「消防」を加える必要があるということが理解できました。

平成29年度 (2017) 愛知大会

テーマ：「知って得する！消防法と消防の資格について」

東京防災設備保安協会防火安全部防火安全対策課の伊藤實氏より建物維持管理上、消防法に基づく資格者による業務（施工・保守）が必要不可欠であり、その資格を生徒が取得するメリット（就職枠の拡充）について解説するとともに、消防法についてどのように学ぶ必要があるのかについて講演して頂きました。



平成30年度 (2018) 長野大会

研究協議 I の見直し (5分科会から3分科会実施へ変更) のため、研究協議会 (法規分科会) の実施はありません。

令和元年度 (2019) 北海道大会

研究協議 I の見直し (5分科会から3分科会実施へ変更) のため、研究協議会 (法規分科会) の実施はありません。

3. 夏期研究協議会

平成 25 年 8 月 8 日 (木)・9 日 (金)

「二級・木造建築士試験内容見直しに伴う指導者研修会」

会場：総合資格学院新宿校、東京スカイツリー

参加者：19名 (1都11県より)

初日は午前中に二級建築士試験の試験内容の見直しについて、学科試験の変更ポイント、平成 24・25 年度学科試験の合格率・合格者属性などの分析、学科試験総評及び問題分析を行いました。午後は設計製図試験について製図試験の変更のポイント、エスキスの作成を行いました。2 日目は東京スカイツリーの見学及び東



京スカイツリー地区地域冷暖房施設の見学を行いました。国内最高レベルを誇る省エネ・省 CO₂ 設備・大規模備蓄槽・地中熱利用を見学しました。皆さん真剣に取り組んでいただき、有意義な 2 日間の研究協議会になりました。ご協力をいただきました総合資格学院、東武タワースカイツリー株式会社の皆様に改めて感謝申し上げます。

平成 30 年 8 月 9 日 (木)・10 日 (金)

「建築物省エネ法・消防法を中心とした建築設備の実習」

会場：中央工学校

ダイキン ソリューションプラザ

TOTO テクニカルセンター東京

TOTO 東京センターショールーム

参加者：18名 (1都12県より)

初日は中央工学校の建築設備実験実習室にて、建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律（建築物省エネ法）、消防法の講義と給排水衛生設備・防災設備・空気調和換気設備の説明及び実習を実施しました。その後、中央工学校王子キャンパス整備見学の現場見学を行いました。2 日目はダイキンソリューションプラザ「フーハ東京」、TOTO テクニカルセンター東京、TOTO 東京センターショールームにて施設見学を行いました。

多くの先生方に参加いただき、大変有意義な講習会・研修会となりました。ご協力をいただきました中央工学校、ダイキンソリューションプラザ、TOTO テクニカルセンター東京、TOTO 東京センターショールームの皆様に改めて感謝申し上げます。



4. おわりに

建築教育研究会70周年記念誌の執筆活動に携われたことを深く感謝いたします。また平成30年度長野大会より群馬県立館林商工高等学校の根岸先生から法規分科会主査を引き継ぎ、努めさせていただいております。委員会の先生方のご協力に改めて感謝申し上げます。新しい令和の時代が始まり、本研究会70周年の節目の年に、一層の研鑽に励んでまいりたいと思います。今後とも引き続きご指導よろしくお願い致します。

構造分科会報告

東京都立総合工科高等学校 全日制

小澤 誠志

1. はじめに

構造分科会では「授業で活用できる教材の研究」と「教員の研修機会を作る」ことを目的として活動しています。この10年間で構造分科会の主査は、高橋 裕先生（神奈川工業高校）、青柳 昭先生（市川工業高校）、佐々木 英治先生（藤沢工科高校）、そして平成30年度より小澤 誠志（総合工科高校）が担当しています。

以下に、平成22年度から令和1年度まで、10年間の活動報告をいたします。

2. 総会（研究協議会）のテーマと実施内容

平成22年度 福島大会

テーマ：「見て、試して、簡単構造実験の検証」

「建築構造設計」の導入教材として「紙ぶるる」の紹介

「建築構造設計」は、生徒が取り組むには、多少高度な内容が含まれている。設計の分野では、その傾向が顕著である。そこで、参加された先生方に、実際に振動模型「紙ぶるる」を作ってもらい、構造設計の導入教材としての可能性について意見や、生徒に対して、建築物の耐震性に興味を持たせる方法などの検討を行った。

「紙ぶるる」は、名古屋大学の福和信夫教授が開発された教材で、建築物の揺れ方を表現する紙の模型であり、小学生から社会人までを対象にした防災教育の場で、広く使用されている教材である。完成した「紙ぶるる」に手動で振動を加え、筋交いの有無や、屋根に加えたおもりの重さを変えて、揺れの違いを体験した。その後、活発にフリートークが始まり、「紙ぶるる」の教材としての使用方法などを参加者全員で検討した。

平成23年度 神奈川大会

テーマ：「作って、試して、理解する構造実験」

平成15年に改訂された「建築構造設計」の教科書から、導入教材として「試してみよう」11項目を新たに盛り込んだ。しかし、実教出版のアンケートの結果を見ても活用している学校は多くはないのが現状である。

構造分科会では、「試してみよう」のような導入教材をもっと活用し、生徒の興味関心を持たせるために、構造設計の導入教材としての可能性について意見や、生徒に対して、簡単に取り組める内容の検討をおこなった。

平成24年度 宮城大会

東日本大震災後のため、研究協議会（分科会）は中止。

平成25年度 新潟大会

テーマ：「destruction ～破壊からわかる構造力学～」

木材の圧縮、曲げ、コンクリートの圧縮、鉄筋の引張試験の映像を放映した。

次に「建築材料おもしろ実験」と題して、A3ケント紙による円柱、四角柱、菱形、星形の模型の強度はどれが強いのか検討した。

平成26年度 茨城大会

テーマ：「構造科学実験からみた地震の備え」

中央工学校中村先生のご指導により、中央工学校でのトラス構造の学習を報告。その後、トラス模型製作を行った。グループでの作業となり、参加の先生方が真剣に完成を目指したが、残念ながら完成までは至らなかった。

平成27年度 山形大会

テーマ：「これからの建築構造設計」＜東日本大震災を受けて＞
津波模型製作

構造分科会委員である仙台市立仙台工業高等学校の益野先生による、建築物の荷重設計指針について（2015年改定）講義していただいた。

荷重指針の歩みから、下記の改正の主なポイントを説明していただいた。

- (1) 偶発荷重に対する考え方の導入
- (2) 津波荷重、衝撃荷重の新設
- (3) 建物性能にロバスト性（頑健性）

その後、津波模型製作をして、津波実験を行った。

平成28年度 千葉大会

テーマ：「構造力学シミュレーションソフトを用いた問題作成」
～わかる授業への第一歩～

構造分科会委員である神奈川県立藤沢工科高等学校の佐々木先生と東京都立蔵前工業高等学校（定時制）高橋先生からシミュレーションソフトを活用した研究授業を紹介していただいた。

授業改善、感想等

- ・プロジェクターやパソコンを用意したわりには、使用する場面が少なすぎた。
- ・導入部分の反復練習には使いやすい。
- ・シミュレーションソフトで印刷した問題を宿題に活用できる。（解答もすぐに出せるので便利である。）

建築構造設計は若い教職員が担当するケースも多く、担任業務の忙しさや専門的知識が身につけていない場合もあるだろう。そのような時にこのシミュレーションソフトを活用し、ファシリテーション力を高め、より高度な授業力を身につけ、生徒の未来をひらく「わかる授業」へと転換できることを望みたい。

平成29年度 愛知大会

テーマ：「意欲を高める建築構造～ジグソー法

授業展開の研究～」

ジグソー法の概要を説明し、実際にジグソー法による授業展開を参加者に体験してもらいました。個人での調べ学習、班での協

議やまとめ作業から、生徒がどのように学ぶかを体験する機会にしてもらいました。また、今回は発表用にA2サイズのケント紙を準備しましたが、『まなボード』という商品を紹介し、授業で活用できるのではないかと話しました。

ジグソー法による授業体験

授業体験では「外部仕上げ」をテーマに学習しました。エキスパート活動を経て、外壁について新たな発見や深い学びにつながるところがありました。最後は1班のみ発表に協力していただきました。

研究協議の感想・意見等

- ・教え方を考えるという点で、視野が広がった。
- ・ジグソー法での評価をどのようにするのか。
- ・成果物から、生徒一人ひとりに学ばせたい内容の共有ができたのか。またその周知方法はどうか。
- ・教員が教えるより生徒同士の教えあいの方が分かりやすいと聞くことがある。学びあいの場面を作ることはとても重要である。



研究協議集合写真

平成30年度 長野大会

テーマ：「耐震・免振・制振 ～安全性を確保する居住空間～」

今回の目的の1つとして、100円ショップで購入できる材料を使用し、安価で簡単な構造模型を制作することを目指しました。構造分科会委員が材料の購入から耐震・免震・制震の挙動を反映できるように、それぞれの装置を工夫し、アイデアの一案を提案しました。限られた時間の中で試行錯誤をしていただいた結果、参加して下さった先生から、アイデアを発表していただきました。いただいたアイデアは今後の構造分科会活動でまとめてみたいと思います。

令和元年度 北海道大会

研究協議Ⅰの見直し(5分科会から3分科会実施へ変更)のため、研究協議会(構造分科会)の実施なし。

3. 夏期研究協議会

平成26年8月7日(木)・8日(金)

「授業に役立つおもしろ構造科学実験」

工学院大学 山下教授・小野里教授他

会場：工学院大学 日本工学院八王子専門学校

参加者：30名

(1) 振動実験について

現在、工学院大学建築学部では2台の振動台を保有している。

①大変形加力装置振動台

4m×6mの大きさの振動台を、長ストロークで動かせることが特徴である。現在のところ、超高層の上階の揺れを再現し、主に

天井落下防止のための研究を行っている。

②電磁石式3軸振動台

磁力で振動台を浮上させ、3方向に動かせる小型の振動台。設備の振動実験や構造基礎実験の授業に用いられている。

(2) テンセグリティについて

テンセグリティ構造とは、輪ゴムのように元の形に戻ろうとする物(引張材)と木のように硬い物の2つを組み合わせで作られる構造体である。

(3) 建築材料について

建築材料が建物のライフステージの節目節目に何らかの形で関係しているという視点に立ち、人と建築物とで築きあげられる生涯をより豊かなものとするための具体的な技術・手法を学んだ。

令和元年8月8日(木)・9日(金)

「高強度コンクリートの破壊試験」

会場：浅野工学専門学校、春日・後樂園駅前地区第一種市街地再開発、東京都中央卸売市場(豊洲市場)

参加者：29名

(1) 浅野工学専門学校

今回のテーマである「高強度コンクリートの破壊試験」を実施した。以下、3つの供試体の破壊試験を行った。

- ①高強度コンクリートによる円柱供試体
- ②高強度コンクリート+高張力鉄筋による柱供試体
- ③高強度コンクリート+高張力鉄筋による梁供試体

実験映像の一部はHPに掲載しておりますので、是非ご覧ください。

(2) 春日・後樂園駅前地区再開発事業現場見学

春日・後樂園駅と直結するエリアを北街区と南街区に分けて再開発する工事現場のうち南街区を見学させていただいた。この南街区は文京区役所の北側道路を挟んだ場所であり、東京ドームからも至近距離に位置している。作業員は700名程で、最盛期の現場を見学できた。

(3) 東京都中央卸売市場(豊洲市場)

開業して10カ月ほどの豊洲市場を見学した。青果棟→水産卸売市場棟→水産仲卸市場棟の順番に見学した。見学した時間帯が午後ということもあり、一般客が少なく、建物の構造やデザインをじっくり見学するには最適であった。



4. おわりに

この10年間の活動を振り返ってきましたが、構造分科会では他にも毎年、現場見学会を実施しております。紙面の関係で報告は割愛しておりますが、構造分科会の委員以外の方にも是非参加していただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

施工分科会報告

千葉県立市川工業高等学校全日制 林 祐 介

1. はじめに

施工分科会では、建築施工と関連づけた実習や、技能検定の課題を題材として、教材開発や授業改善にむけた活動をしてきた。教科書だけでは指導が難しい部分を補う教材の作成や分科会委員による研修、研究視察（図1）および研究協議を実施してきた。

平成22年から令和1年まで、10年間の活動内容は以下の通りである。



図1 研究視察

2. 総会（研究協議会）のテーマと実施内容

平成22年度 福島大会

テーマ：「大工道具の手入れと使用方法について」

大工道具を展示して、それらをもとに協議した。各道具は、手入れされているものから使用できなくなったものまで、比較しながら、道具の手入れのポイントなどを説明した。砥石の砥面直し、のみのかつらの手入れ、のみ・かんなの裏押し・刃研ぎの方法、かんな台直し、墨さしづくりなどを紹介した。

平成23年度 神奈川大会

テーマ：「技能検定2級建築大工（実技）について」

技能検定2級建築大工（実技）については、振れ垂木の原寸図作成から始まり、墨付け、ひずみ直し、加工、組立てまでを行う。研究協議では、分科会委員が作成した動画を見ながら、原寸図の作成と振れ垂木のひずみ直しの方法について協議した。

平成24年度 宮城大会

東日本大震災後のため、研究協議会（分科会）の実施なし。

平成25年度 新潟大会

テーマ：「視覚的補助教材 鋼構造」

建築施工の授業における図等の板書の効率化、建築現場の内容をわかり易く伝えることによる生徒の興味と理解力の向上を目的とした鋼構造の視覚補助教材を分科会委員で作成した。実際に建築現場で撮影した写真を使用して作成した教材をもとに研究協議を行った。

平成26年度 茨城大会

テーマ：「型枠組立実習にむけての教員研修事例」

施工系の実習が敬遠されているのではないだろうかという問題提起から、施工実習をテーマに協議した。施工実習の中から「型枠組立実習」に項目を絞り、指導者である教員研修の事例を通して、各県・各校での研修の実施や、実習の教材開発の一助となることを目的として協議した。

平成27年度 山形大会

テーマ：「木工機械のメンテナンス」

木工機械は使用することができるが、講習を受けたことがなく、メンテナンス等も行っていない職員が増えてきたのではないだろうかという問題提起から、木工機械のメンテナンスをテーマに研究協議を行った。施工分科会委員で実施した研修の記録をもとに、木工機械の使用方法や安全指導についても協議を行った。

平成28年度 千葉大会

テーマ：「実践に基づく簡略測量実習」

～水盛り・遣方～

測量実習において、測量機器の基本的な操作方法の指導で実習を終えてしまい、建築現場でどのように測量技術が活用されているのかを、生徒が理解できていないのではないかと意見から、水盛り・遣方を題材に教材や指導方法について研究協議を行った。

参加者は、実際に測量機器を扱い、施工分科会が作成した教材を使用して水盛り・遣方実習を体験した。（図2）

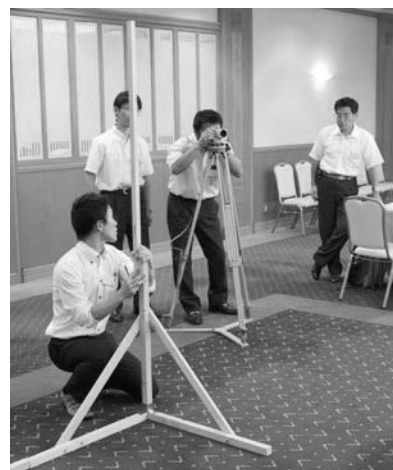


図2 千葉大会

平成29年度 愛知大会

テーマ：「実践に基づく簡略測量実習」

～墨出し実習～

平成28年度につづき、建築現場における測量技術の活用方法として、「墨出し」について測量実習の授業展開方法及び教材について研究協議した。参加者は、RC造の基本図面から基礎工事のための施工図を作成し、その図面をもとに会場に用意されたシートに親墨と基礎躯体の子墨の墨出しを行った。

平成30年度 長野大会

テーマ：「環境の積極性」

～技能の可視化による実習指導～

この年は長野大会ということで、長野にゆかりのある富山大学の小松研治名誉教授を講師にむかえ、分科会の研究協議を実施した(図3)。作業工程や加工方法などの技能を模型等の形として教材を作製し、そのことが理解度に大きく影響するという「技能の可視化」という考え方をもとに、学習環境を整えていくことで学生が理解するための手助けとなるという内容の講演をいただいた。



図3 長野大会

令和元年度 北海道大会

テーマ：「実践に基づく鉄筋組立て実習」

～技能検定3級鉄筋組立て作業 実技課題を通して～

技能検定3級鉄筋施工「鉄筋組立て作業」実技課題の指導方法について協議した。施工分科会で作成した作業マニュアルをもとに、課題内容を確認し、北海道鉄筋業協同組合の協力を得て、実演を通して、課題のポイントや作業の注意点等を協議した(図4)。



図4 北海道大会

3. 夏期研究協議会

(1) 平成22年度 夏期研究協議会

テーマ：「大工道具の手入れと使用法について」

期 日：平成22年8月5日(木)・6日(金)

会 場：宇都宮日建工科専門学校

参加者：24名(1都8県より)

熟練の技能をもった教員が徐々に定年をむかえるとともに、大工道具にほとんど振れることなく、新規採用される建築科の教員も増えてきた。そこで、鑿や鉋の日常的な手入れ(刃研ぎ等)について、協議した。

(2) 平成27年度 夏期研究協議会

テーマ：「規矩術と木材加工」

期 日：平成27年8月6日(木)・7日(金)

会 場：千葉職業能力開発短期大学校 千葉キャンパス

参加者：14名(1都7県より)

当時、技能検定2級建築大工の実技課題は、振れ垂木から四方転びに変わり、木材加工に精通している職員がいない学校では、指導が困難であることが推察された。そこで、技能検定の実技課題を題材に夏期研究協議会を実施した(図5)。

具体的な内容は、課題図面および仕様の確認、原寸図の作成、木材加工による課題製作。

原寸図の作成では、特に指導の要点となる柱の展開図を作図した。CADでは寸法が正確に計測され、作図できるが、規矩術による「中勾勾配」や「小中勾勾配」を活用して作図していくことに参加者は苦勞した。

二日目は課題図面や作成した展開図をもとに木材に墨付けをし、実際に作品の製作した。研究協議会を通して、規矩術や木材加工の奥深さを実感するとともに、継続的に自己研鑽に励まなければ、技能検定2級の課題の指導にあたるのは難しいと感じた参加者が多かった。技能検定は生徒の関心も高く、受検を希望する生徒へ応えるためにも、有意義な研究協議であった。



図5 夏期研究協議会

4. おわりに

この10年間の活動を振り返り、施工分科会では視聴覚補助教材の製作や、木材加工、施工実習の教材研究等を行ってきた。前半は木材加工を中心に、後半はRC造に関する施工実習を中心に研究協議を重ねてきた。

施工分科会は、毎年10名に満たない委員で活動している。ここ数年で、定年退職をむかえた委員もおり、委員の確保に苦慮している一面もある。年数回の分科会の研究協議も、公務等で出張が困難な委員も多く、限られた委員で活動しているのが現状であった。そうした中で、分科会の活動ができていけるのも、多くの先生方や賛助会員様のご協力のお蔭であると感謝に堪えません。

今後も「建築施工」に関する研究テーマを精査し会員の皆様に役立つ資料が提供できるような分科会の活動をしていくよう尽力したい。分科会活動を通して、他県の先生方との情報交換等、委員としての活動自体が有意義な研修の場となっている。建築施工や実習指導に関心の高い先生におかれましては、施工分科会にお力添えいただきますようお願いいたします。

最後になりますが、今後も施工分科会の活動にご理解とご協力をお願い申し上げます。

編集委員会報告

千葉県立市川工業高等学校

遠藤 啓史

1. はじめに

東日本建築教育研究会の編集委員会は「会員名簿」を夏期総会時に「建築ニュース」を11月から年末頃に発行してきた。

2. 会員名簿

本会名簿の登録は2020年の時点では131校の登録となっている。「会員名簿」に関しては、おおむね以下の内容にて構成されている。

- 会則
- 役員名簿
- 関係諸官庁
- 会員名簿
- 個人会員
- 歴代理事長・会長
- 加盟校以外の会員
- 加盟校以外の建築系科設置校
- 賛助会員一覧

会則や役員一覧、関係機関や各都道府県の登録校の状況、個人会員、歴代理事長・会長、加盟校以外の会員、加盟校以外の建築系科設置校などを知ることができる資料となっている。また、日頃より本会の運営にご協力いただいている協賛企業・団体様の紹介もさせていただいている。

各都道府県の登録校については各年度の当初に各校の構成員の調査をさせていただいている。この調査によって各校ごとの人員の配置状況や連絡先等の情報を確認することができる資料となっている。

年度当初の忙しい時期にもかかわらず各校から連絡がいただけるととても助かっている。

3. 建築ニュース

「建築ニュース」に関しては、おおむね以下の内容にて構成されている。

- 各年度の会長あいさつ
- 事業（会計）報告
- 事業（会計）計画
- 役員一覧
- 総会、研究協議会報告
- 夏期研究協議会報告
- 製図・計画・法規・構造・施工の各分科会活動報告
- 製図コンクール結果報告
- 資格取得推進委員会活動報告
- 4都道府県ごとの建築教育の現状
- 事務局報告
- 賛助会員一覧

会長あいさつや事業に関する事柄、役員一覧は本会のみならず全国の建築教育の現状を伺い知ることができる資料となっている。

また、総会、研究協議会報告に関しては当該年度の大会開催事務局が執筆し大会の状況や各研究協議の状況を報告する機会となっている。

さらに夏期研究協議会報告と製図・計画・法規・構造・施工の各分科会報告については、本会の根幹をなす部分で、それぞれの分科会においてどのような研究発表がなされているかを見ることができる資料となっている。

製図コンクール結果報告に関しては生徒の製図力の向上や取り組みの状況、製図コンクールの結果などを見ることができる資料となっている。

資格取得推進委員会活動報告に関しては2級建築士や2級建築施工管理技士、各種試験・検定等への取り組み状況を見ることができる資料となっている。

4都道府県ごとの建築教育の現状は、各年度で順番にそれぞれの都道府県における建築教育の状況を発表する場となっている。特に次年度大会開催道県は前年度にここで報告することになっている。

事務局報告に関しては、これから8年間の大会開催道県の情報や本会HPの情報、個人会員の状況、事務局の情報等が報告されている。さいごには協賛企業・団体様の紹介もさせていただいている。

4. 新しい建築ニュース

昨今の状況や様々な意見を経て2020年度には本研究会70周年記念誌のみを発行し、2021年度より名簿を統合簡略化した新しい「建築ニュース」の発行と更なる充実を目指している。

新しい「建築ニュース」は、旧「建築ニュース」の「各年度の会長あいさつ」、「事業（会計）報告」、「事業（会計）計画」、「役員一覧」、「総会、研究協議会報告」、「夏期研究協議会報告」、「各分科会活動報告」、「製図コンクール結果報告」、「資格取得推進委員会活動報告」、「4都道府県ごとの建築教育の現状」、「事務局報告」に本会会員校の情報、関係諸団体の情報などを加えたものが考えられている。

5. さいごに

これまで各所の協力を得て会員名簿や建築ニュースの発行を行ってきた。本会も70周年を迎え編集委員会も様々な事柄を考慮して編集作業を行わなければならない状況になってきた。名簿の紙での発行をやめ、建築ニュースの新しい形を模索もしてきた。様々な形でいろいろな方々の協力があつたことは言うまでもないことである。

この場をお借りして編集委員会の作業に関して、会員各校の方々、本部役員の方々、各分科会・委員会にて活動されているの方々、さらに日頃より本会の運営にご協力いただいている協賛企業・団体の方々には心から感謝申し上げます、おわりの言葉とさせていただきます。

資格取得推進委員会

群馬県立高崎工業高等学校 全日制

石井 直樹

全国高等学校建築教育連絡協議会の歴代の会長（都立の校長先生）はじめ多くの方のご理解・ご協力のより、下記の1～3の内容が実現されました。

1. 「施工管理技術検定試験」制度の緩和の実現

学科の有効期間が6年から8年、12年に段階的に延長され、2021年度より新試験制度に替わります。

「施工管理技術検定試験」の試験制度が、2021年度から建設業法が改正され現在の「学科試験・実施試験」から「第1次検定と第2次検定の実施」に替わります。

第1次検定合格者には「技士補」の称号が与えられ現場での役割を担う事が可能になります。そして、第1次検定合格は生涯有効となる予定です。

第2次検定合格者には「技士」の称号が与えられ、今まで専任の監理技術者の現場も「技士補」が各現場にいる事により監理技術者（技士）は二つの現場を監理する事ができるようになります。

第1次検定試験の受検資格は、厳密には今後決定されますが現在の学科試験と同様当該試験年度の年度の末日における年齢が17歳以上の者は受検可能とする予定です。

在校中に2級の第1次検定試験に合格して、高校卒業後（指定学科修了）3年間の実務経験後に第2次検定試験が受験でき、合格者は合格後5年間の実務経験で1級の受験が可能になります。但し専任の主任技術者としての実務経験が1年以上ある場合には更に2年間短縮可能となり、大卒後の3年間の実務経験後に1級試験の受験と同じ年に受験が可能となります。

また、2級の第2次検定合格者は、翌年に1級の第1次検定を受検する事が可能になります。

「技士補」として権限が与えられる事から、第1次検定では選択問題だけでなく、より実践的な内容が課される予定です。

2. 「二級・木造建築士」試験について（生徒の受験）

全国高等学校建築教育連絡協議会 会長 平田誠一様（東京都立総合工科高等学校長）のご理解・ご協力を賜り、全国高等学校建築教育連絡協議会 前事務局長 小島聡様（千葉県市川工業高校）のご尽力により、平成29年12月11日（月）に国土交通大臣 石井啓一様（担当課：国交省住宅局建築指導課）宛てに標記試験の早期受検（実務経験0年）が可能となるよう、建築士法等の関係法令の見直し検討を依頼する要望書を提出していただきました。

この要望が認められ、2018年12月14日に公布された「建築士法の一部を改正する法律」により、二級・木造建築士試験の受験資格の要件となっている実務経験が、原則として、建築士免許の登録要件に改められました。

この改正により、一定の指定科目を修めて高等学校等を卒業した者は、卒業後にすぐに標記試験が受験可能になりました。

2020年度試験から新試験制度が適用されています。

3. 「一級建築士」試験について（職員の受験）

一級建築士試験も、二級・木造建築士試験同様に2018年12月14日に公布された「建築士法の一部を改正する法律」により、建築士免許の登録要件に改められています。

従いまして、一定の指定科目を修めて大学等を卒業した者は、大学等を卒業後にすぐに標記試験が2020年より受験可能になりました。

平成17年度の構造計算書偽装事件以降、一級建築士試験の受験資格のうち実務経験として、研究者（大学教員）及び教育者（専門学校教員・高等学校教員）としての各経験がその対象から外されてしまいました。

この内容を見直していただく為に、平成30年9月20日（木）国土交通省 住宅局 建築指導課様による「建築士資格に係わる実務経験のあり方に関するヒヤリング」に本委員会の五十嵐先生（宇都宮工業高校）、小林先生（蔵前工業高校）、石井の3名が参加しました。

その後、平成30年10月4日（木）国土交通省 住宅局長 石田 優様に「1級建築士試験」の研究者・教育者の受検認可要望書を提出しました。

要望書は全国高等学校建築教育連絡協議会 会長 平田誠一様（東京都立総合工科高等学校校長）名で提出しました。

訪問者は、平田誠一会長と石井で、一般社団法人 日本機械土工協会 事務局長 保坂益男様にも同行していただきました。

多くの先生方の教育業務が実務経験として認めていただける様に丁寧に説明し様々な交渉・依頼（お願い）をした事で下記の内容で建築士法が改正されます。

国土交通省が、令和元年11月1日に、建築士資格に係る実務経験の対象実務の例示で（令和2年3月1日以降の実務）建築教育に関する実務は「建築士試験に係る全科目を担当可能（所属長が当該性を証明）でありかつ設計製図を担当する建築教育の教員の業務」を満たせば教育業務が実務経験として認められる事になりました。

但し、具体的な運用については、国土交通省が検討しています。（実習助手等の実務経験の判断について）

お礼

上記3つの法改正に対してご理解・ご協力を賜りました下記の全ての方に感謝申し上げます。

全国高等学校建築教育連絡協議会の歴代の会長（平林博様（前葛西工業高校校長）、豊田善敬様（前蔵前工業高校校長兼全国工業高等学校長協会前理事長）、小林晶代様（前墨田工業高校校長）、三神幸男様（前墨田工業高校校長）、平田誠一様（総合工科高校校長）、日本機械土工協会 常務理事 保坂益男様 同協会事務局長 清水英紀様、全国工業高等学校長協会 前事務局長 瀧上文雄様、本研究会

全国高等学校土木教育研究会 会長 國馬隆史様(全国工業高等学校長協会理事 千葉工業高校校長)、同研究会前会長 宮崎伸弘様(前渋川工業高校校長)、同研究会前会長 伊藤武志様(前神奈川工業高校校長)、同研究会事務局長 桐生一良様(前高崎工業高校)、前事務局長 狩野稔様(前向の岡工業高校)、前事務局長 豊田晃夫様(前東総工業高校)、全国高等学校電気教育研究連絡協議会前会長 滝田幸雄様(前春日部工業高校校長)、同協議会前会長 長田利彦様(前小田原城北工業高校校長)、建設産業専門団体連合会 会長 才賀清二郎様、同連合会常務理事 道用光春様、衆議院議員 金子一義様、秘書 塚本信二様、参議院議員 佐藤のぶあき様、秘書 玉村貴様、国土交通大学校 副校長 藤森祥弘様、向井建設株式会社常務取締役 池上朋之様、全国専門学校建築教育連絡協議会 会長 三上孝明様(東京テクニカルカレッジ校長)、全国建設産業教育訓練協会 富士教育訓練センター 専務理事 菅井文明様、公益財団法人日本建築士会連合会専務理事 成藤宣昌様、全国専門学校建築教育連絡協議会 会長 山野大星様(日本工学院八王子専門学校 副校長)、一般社団法人栃木県建築士会 名誉会長 岡田義治様(前本研究会 資格取得推進委員会委員長)、公益財団法人建築技術教育普及センター 企画部企画課 課長代理 板垣真人様、総合資格学院 本部学校法人 部長 仲代武久様、一般財団法人建設業振興基金 指導役 市橋慎悟様、全国高等学校建築教育連絡協議会 前事務局長 小島聡様(市川工業高校)、前事務局長 成田仲生様、現事務局局長 中江田澄江様、全国の建築・土木・電気の先生方。

下記内容について実践や啓蒙活動に取り組みました。

4. 「2級建築施工管理技術検定試験」指導者講習会

平成27年度まで、本委員会主催で標記の指導者講習会を実施していました。

職業訓練法人 全国建設産業教育訓練協会 富士教育訓練センターのご理解・ご協力を得て開催しておりました。

5. 「2級施工管理技術検定試験」の講演会開催

(平成23年度の神奈川大会の全体会で実施)

講師は、上記の富士教育訓練センター非常勤講師の森深雪様に実施していただきました。

6. 「福祉住環境コーディネーター検定試験」指導者講習会

平成24年度の宮城大会の分科会で本委員会として実施しました。

7. 「建設業経理事務士」(3、4級)及び

「建設業経理士」(1、2級)の説明

平成24年度の新潟大会の全体会で、一般財団法人 建設業振興基金 経理研究・試験部 経理試験課長の小野寺芳伸様より試験内容等について説明していただきました。

8. 企業アンケートの実施

平成23年度、24年度の2年間で、企業アンケートを実施しました。

アンケート内容は、①入社する際に高校生に求める資質 ②「2級建築施工管理技術検定試験」の試験制度に関する認識 ③建設業界で必要な資格・検定 ④資格手当の

状況 ⑤工業高校教育に望む事について実施しました。

9. ジュニアマイスター顕彰制度について

全国工業高等学校長協会のジュニアマイスター顕彰制度の制定委員を石井が平成23年度から務めさせていただいております。

主な改訂は、「2級施工管理技術検定試験」(学科)のポイントが12から20へ、建築CAD検定試験2級のポイントを12から20へ引き上げていただきました。

10. 建築系学科工業高等学校取組事例について

一般社団法人 建設業振興基金様が平成27年度に「2級施工」試験に関する取り組みを調査し、平成28年度に全国の建設系学科に事例集を配布しました。本委員会はアンケート内容についてご協力させていただきました。

11. 国土交通省・厚生労働省主催の建設業界への

若年者雇用促進の関する意見交換会

平成24年度に標記事業が全国10会場で、建設業界への若年者雇用促進に関する意見交換会が実施されました。

石井は、山形県、新潟県、東京都の意見交換会に参加させていただきました。

12. 文部科学省委託事業(コンソーシアム)について

日本工学院専門学校が平成24年度～平成28年度まで取り組んだ、文部科学省事業の「成長分野等における中核的専門人材育成の戦略的推進事業」に高校の建築教育に関する代表として石井が参加させていただきました。

中核的専門人材育成の観点から専門学校を卒業し、概ね10年～15年の人が建設業界で活躍できる為のカリキュラムの検討や、実践的な授業展開を実施する事で継続的な企業の発展に繋がる人材育成を目指して検討しました。

また、新たな人材確保の観点から学び直しのシステム等について検討しました。

現在はこの事業で検討された内容で授業や講演、実証実験、海外視察等が実施されております。

13. 本研究会の総会等の新聞記事掲載について

本委員会が中心となり、各大会(下記)の様子を建設系新聞の記事として取り上げていただきました。

平成25年度：新潟大会、平成26年度：茨城大会、平成27年度：山形大会、平成30年度：長野大会。

14. 就職に有利な資格・検定の調査、研究について

本委員会の委員の所属する学校において、求人を探している企業を対象に標記の調査、研究を継続して実施しております。

15. まとめ

すでに周知の事と思いますが、建設業界では若年者雇用促進が喫緊の課題となっております。

本委員会では国土交通省をはじめとする関係機関に工業高校の現状をストレートに伝える事で、若年者雇用促進に繋がる対策をお願いしてきました。

この結果、資格試験に関して活動内容が認められ「建設業法」と「建築士法」の法改正が実現されました。

本委員会の取り組みが建設業界の更なる発展に繋がる事を願っております。

製図コンクール運営委員会報告

千葉県立市川工業高等学校 全日制
 卜部 寿々子

1. はじめに

全国高校生建築製図コンクールでは、教科の学習や特別活動を通して得た設計製図の能力、法規・構造・設備などの理解力、正確な表記法に基づいた作図の表現力を高めることを目的としている。ここ10年間で教科書改訂等が行われ、製図コンクールでは少しずつ課題変更しながらも、基本方針は変更せずに時代に沿った課題を毎回検討し、製図コンクールを運営している。

2. 課題概要

課題1 軒先マワリ詳細図（模写）

用紙の指定：A3 ケント紙

課題2 木造平屋建専用住宅（模写一部自由設計）

用紙の指定：以前は、A2 トレーシングペーパー
 近年は、A2 ケント紙

課題3 木造2階建専用住宅（自由設計）

用紙の指定：以前は、A2 トレーシングペーパー
 近年は、A2 ケント紙

課題4 木造平屋建専用住宅〔CAD 製図〕

（模写一部自由設計）

用紙の指定：A2 用紙（同じものを2部提出）

課題5 木造2階建専用住宅〔CAD プレゼンテーション作品〕 （自由設計）

用紙の指定：A2 用紙（同じものを2部提出）

【用紙の変更について】

10年前までは、製図コンクールの提出図面と言えば、トレーシングペーパーが主流でありました。

しかし、現在の学校現場では、青焼きをすることの方が珍しく、トレーシングペーパーに図面を描くことの必要性が薄れてきました。そこで、実際ご指導されている先生方のご意見を頂戴し、検討を重ね、本コンクールでは、時代とともにトレーシングペーパーからケント紙へと移行することとなりました。

経費削減されている中、作品の送料等では各学校様にはご負担をいただき、ご迷惑をお掛けしておりますが、ご理解いただきありがとうございます。

3. 応募期間

毎年応募期間は、11月の第2週の月曜日から金曜日の1週間を目安とし、最終日の午後4時00分を必着としている。

【応募期間の事前登録の導入等について】

審査会場の変更に伴い、さまざまな試行をさせていただきました。東京都内の事務局校では、危機管理の観点からノートパソコンなどの情報機器の持ち込みが制限されているため、賞状の印刷から全て検討しなければ製図コンクールを運営できない状況でありました。

そこで、ここ10年の間に様々な登録の方法等を検討し、その節は多くの先生方にご多忙の時期とは存じながら、多大な労力をお掛けしました。現在は、アナログ式ではありますが、運営方法を最大限に改善し、運営している。

4. 審査日程

第1回目 審査打ち合わせ、開梱、受付業務、一次審査

第2回目 複写図面による二次審査、最終審査

第3回目 受賞者名簿作成、作品返却、賞状発送、
 次年度課題作成

【作品返却について】

10年前は、作品保管をしていたため、金賞・銀賞・銅賞の受賞者には作品を返却しない方式をとっていた。しかし現在では、審査会場や作品を保管するスペース等を考慮し、受賞者の作品はスキャナーでデータ化し、応募年度の賞状発送時には作品を返却するシステムを構築している。

5. 審査会場

長らく、委員長を努めていた関東第一高等学校で審査を実施していたが、学科の廃止や委員長交代等に伴い、第31回から事務局の学校にて審査を開催している。事務局は3年で交代になるため、製図コンクールの審査会場も事務局とともに一緒に動く都合上、実施要項を毎年確認していただき、作品送付先を間違えないようにしていただきたい。

6. 審査について

6.1 賞の選出

最高作品を金賞とし、順次、銀賞・銅賞・入賞とする。

ただし、定時制課程から入賞以上を選出する。

6.2 審査方法

1次審査

審査は委員全員で行い、原図を使用する。各課題参加数の1/5程度（最大20点程度）を目安に絞り、入賞作品の対象とする。作品は相対的に比較し、審査基準は各課題の観点に従う。

2次審査

審査は委員全員で行い、模写図面を使用し、チェック内容を書き込む。入賞以外の作品で再度入賞以上に該当するものが無いか確認する。

最終決定

委員全員の投票により決定する。

7. おわりに

全国高校生建築製図コンクールには、東日本建築教育研究会の加盟校および加盟校外の先生方から、校務ご多忙にもかかわらず絶大なるご協力を頂きました事を厚くお礼申し上げます。

最後になりますが、今後も基礎基本を主軸にしながら、更なる製図の技術力向上を期待し、課題内容の改善を図るなどして、より良い全国高校生建築製図コンクールになるよう、検討していきます。何卒、本コンクールのご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

広報委員会報告

神奈川県立小田原城北工業高等学校 全日制
高橋 裕

1. ホームページ開設の経緯

東日本建築教育研究会のホームページを平成15年（2003年）に立ち上げ、お陰様で今年18年目を迎えます。

当時は振り返りますと、「ペーパーレス化」が騒がれており、さらに、「年度初めに送付する資料が多すぎて封入に不備があると申し訳ない」ということからホームページの開設に至りました。

ホームページを開設にご尽力頂いた、安田学園高等学校、榎本吉見教諭の職場が両国にあるため、近くの秋葉原・電気街で安いパソコンとホームページ作成ソフトを買い、「見栄えの良いホームページ」よりも「とにかく情報が伝わることを優先」を心掛け、作成した事を記憶しています。開設当時、費用面を考慮したために広告入りのホームページでしたが、研究会という性質上、広告をなくし、さらにはドメインに関して〇〇〇.org（非営利組織用のドメイン）を取得し、信頼性を向上させた経緯があります。

最近、会員の皆様にも広く認識、理解いただき、幅広く活用いただいていると自負しております。

2. ホームページ運営報告

広報委員会では、他の委員会、分科会とは異なり、「活動報告」ではなく、「運営報告」になることをご了承下さい。

ホームページの掲載につきましては、各分科会主査、各委員長より依頼があったものに関して、随時行っております。特に、時期としては年度初め、総会・研究協議会の後、年度末に多くの更新、掲載が頻繁に行われております。

特に、申し込み関係総会・研究協議会、夏期研究協議会、製図コンクール、生徒表彰に関しては、十分な活用がなされているように思えます。

3. ホームページの活用

ホームページの活用に関して、本研究会は単なる会議を行う研究会ではなく、生徒への情報を還元することを目的とした、研究

の場です。あくまで、生徒のための研究会と捉えています。そのため、いかに生徒にわかりやすく建築を学んでもらえるかが焦点となり、様々な研究がなされてきました。

そのひとつに、「視覚的に捉える」ことが効果的ではないかという議論もあり、研究されてきました。その一端として、画像、動画の共有が有効であると考えられます。オリジナルの画像、動画は会員みんなが共有することが可能です。ぜひ、データを共有してもらい、研究し、生徒へ発信して戴けたらと思います。

4. 今後の展望

現在、まだサーバーに余裕があるため、多くの資料掲載が可能となっております。有意義な資料等、共有した方が良いものに関しては積極的な掲載をお願いしたいと思います。

現状では、まだ「紙の代わり」としての活用が中心かと思われます。是非、ITの良いところを十分活用していただき、データの提供、リンクの掲載、動画の掲載等、可能な限りの活用をお願いしたいと思います。

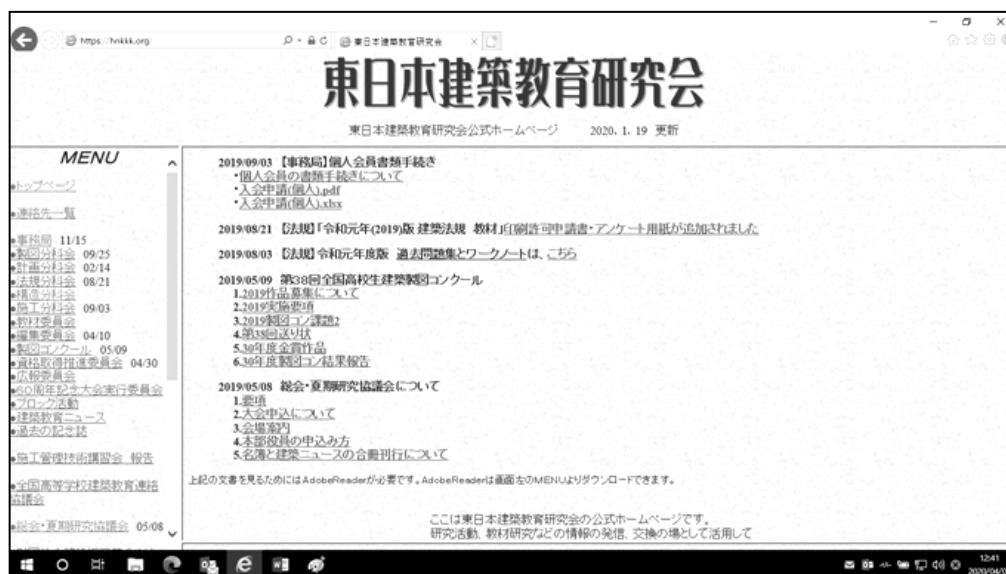
また、会員皆様の自己研鑽の場として、有用なHPがあれば是非紹介していただき、リンクを張りたいと思います。様々な大学の研究内容、行政の取り組み、生徒が興味を持ちそうなものなど、有効活用が出来るものは共有し、知識を広げる事も大切かと思えます。

ホームページの管理は業者に委託していますが、以前にも申し上げましたが、「これだけのことをやってもらってこの委託料は安い」と思えるくらいの有効活用を期待しております。

これからもできる限りの情報を発信していきたいと思っておりますので、今後も会員の皆様にもご協力いただき、「生徒のために」ご尽力いただきたいと思います。よろしくお願い致します。

東日本建築教育研究会ホームページアドレス

<http://www.hnkkk.org/>



東日本建築教育研究会のあゆみ

※(理)：理事長名、(会)：会長名、(事)：事務局長名

年度	会長および事務局※	研究会活動	文部省(文部科学省)	社会の動き
			全国工業高等学校長協会	
昭和26年	(理) 蔵前工高長 伏見 三郎 (事) 蔵前工高 浅野 三郎	11. 6-7 本会設立総会「関東地区建築教育研究会」と称す(東京若葉荘にて) ○「建築計画」(文部省)の教科書委員の決定 主として浅野・岸田・山田先生が執筆	文部省「建築計画・設備」教科書発行を計画 建築科の科目数は6科目	7. 朝鮮休戦会談開始 9. 太平洋安全保障条約 サンフランシスコ講和条約
昭和27年	(理) 蔵前工高長 伏見 三郎 (事) 蔵前工高 浅野 三郎	2. 教科書対策委員会(市立川崎工高にて) 5. 16-17 総会・研究協議会(県立沼津工高にて) 「教科書、資格教育の問題について」 ○産業振興基準についての意見聴取(参加者約30名)(宿泊 熱海荘)	中央教育審議会設置	10. 23 十勝地震(M8.3)
昭和28年	(理) 蔵前工高長 伏見 三郎 (事) 蔵前工高 浅野 三郎	2. 産振設備基準修正調査 2. 14-15 関東・関西・東海地区建築課程研究協議会(県立沼津工高にて) 「産振設備基準」(参加者約50名) 5. 教科書対策委員会(都立蔵前工高にて) 6. 25-26 総会・研究協議会(県立高崎工高にて)(参加者約40名) 「視覚教育・教科書編集の問題について」 (宿泊 水上奥利根温泉) 7. 教科書対策委員会 会誌 発行(実教にて) 9. 13-14 研究会・都内見学会(若葉荘にて)(参加者約60名) 6. 26 会名を「東日本建築教育研究会」に改称 7. 27 近畿連盟と合同の教科書委員会 開催(執筆分担決定)(実教出版にて)		8. 18 「高等学校の定時制教育および通信制教育振興法」公布 10. 13 「学校教育施行令」公布
昭和29年	(理) 蔵前工高長 伏見 三郎 (事) 蔵前工高 浅野 三郎	2. 6 見学会：東京都体育館(斎藤謙次先生) 講演会：「リミットデザインについて」小野薫先生(若葉荘にて) 6. 11-12 総会・研究協議会(県立長野工高にて)(宿泊 わたり温泉) 6. 会誌 発行 10. 15 見学会：鉄道会館(八重洲口駅舎), 東京都庁舎 講演会：「桂離宮について」藤岡道夫先生 「構造」後藤一雄先生(東工大付工高にて)	構造力学(実教)発行	12. 鳩山内閣成立 朝鮮復興特需で不況克服
昭和30年	(理) (蔵前工高長) 墨田工高長 伏見 三郎 (事) 蔵前工高 森安 四郎 (事) 墨田工高 宇都宮 新	6. 19-20 総会・研究協議会・見学会(県立宇都宮工高にて)(宿泊 鬼怒川温泉) 10. 会誌 発行 10. 1 伏見理事長 墨田工校長となる 事務局 都立墨田工高 宇都宮先生 10. 18 見学会：NHKテレビホール 講演会：「海外の建築」狩野春一先生(蔵前工高にて) 11. 演習書編集委員会 構造力学演習書 発行(昭見堂)	建築計画(文部省)発行	12. 石橋内閣成立 神武景気
昭和31年	(理) 墨田工高長 伏見 三郎 (事) 墨田工高 宇都宮 新	6. 7-8 総会・研究協議会(県立高田工高にて)(参加者約60名) 「実習に関する研究発表」(宿泊 妙高ホテル) 7. 第1回標準テスト 実施(建築材料, 構造力学) 7. 8-9 演習書編集委員会 11. 17 見学会：羽田空港ビル・会誌発行 ○建築法規学習書 発行(昭見堂)	11. 10 高等学校 工業「学習指導の手引き」建築課程編発行 建築の科目数が14科目となる	高天気景気
昭和32年	(理) 墨田工高長 伏見 三郎 (事) 墨田工高 宇都宮 新	6. 7-8 総会・研究協議会(東京若葉荘にて) 見学会：リーダーズ・ダイジェスト社, 法政大学, 東京駅 9. 研究発表会：「建築実験文部省研究指定校としての研究発表を兼ねて行う」 (県立弘前工高にて) ○「学習指導の手引き」建築科編発表, 第2回標準テスト ○構造計算 発行(実教)	11. 11 中央教育審議会「科学技術教育の振興方策について」答申	10. ソ連人工衛星打ち上げ成功 株式暴落 鍋底景気に落ち込む
昭和33年	(理) 墨田工高長 伏見 三郎 (事) 墨田工高 宇都宮 新	6. 総会・研究協議会(県立甲府工高にて) 11. 研究授業：「構造力学」宇都宮先生(墨田工高にて) 11. 15 第3回標準テスト	7. 28 中央教育審議会「教員養成制度の改善方策について」答申	12. 東京タワー完成
昭和34年	(理) 墨田工高長 伏見 三郎 (事) 墨田工高 宇都宮 新	6. 総会・研究協議会(県立川越工高にて)(宿泊 飯能) 11. 研究授業：「造形」中村先生 「構造」山田先生(東工大付工高にて) 講演会：「海外の建築について」加藤六美先生	12. 産振設備基準改訂協議会(近畿と合同)	1. メートル法実施 岩戸景気
昭和35年	(理) 墨田工高長 伏見 三郎 (事) 墨田工高 宇都宮 新	6. 5-6 総会・研究協議会(県立神奈川工高にて)(宿泊 湯本) 9. 研究会(都研究指定校、視覚教育研究発表を兼ねて)(小石川工高にて) 講演会：「ライトの研究」山本学治先生 ○建築工事積算演習書・建築法規演習書 発行(昭見堂) ○建築製図上・下 発行(実教)	3. 31 教育課程審議会「高等学校教育課程の改善について」答申 10. 15 「高等学校学習指導要領」告示	1. 日米新安保条約調印
昭和36年	(理) 静岡工高長 中江 斉 (事) 静岡工高 関 淳一郎 (事) 小石川工高 岡登 五郎	3. 31 伏見理事長 勇退 6. 5-6 総会・研究協議会(県立静岡工高にて)(参加40校, 70名) 理事長 中江先生(宿泊 三保) 12. 1-2 講習会：「計画実験」(東工大 勝田研究室にて)(参加44校, 70名) 見学会：日比谷三井ビルの設備 日本生命ビルの特殊潜函工法とハイテンションボルト工法	8. 30 「高等専門学校設置基準」の制定 科学技術教育重視	4. ソ連人工衛星に成功

昭和 37年	(理) 静岡工高長 中江 斉 (事) 静岡工高 関 淳一郎 (事) 小石川工高 岡登 五郎	6. 1-2 11. ○ 建築構造1,2 発行 (実教)	総会・研究協議会 (県立郡山工高にて) (宿泊 磐梯熱海) 講習会: 「構造実験」 (建設省建築研究所にて) (参加者70名) ○ 建築構造1,2 発行 (実教)	3. 31 「技能教育施設の指定等に関する規則」制定	9. 若戸大橋開通
昭和 38年	(理) 静岡工高長 中江 斉 (事) 静岡工高 関 淳一郎 (事) 小石川工高 岡登 五郎	5. 30-6. 1 8. 17 11. 講習会: 「音響実験」 (東大 生産技術研究所にて) (参加者70名) 見学会: NHK技術研究所 (東大 石井先生) (参加者70名)	総会・研究協議会 (県立水戸工高にて) (参加59校, 80名) (宿泊 大洗) 見学会: 東海村原子力研究所 近畿工高連盟と連絡会 開催 (県立静岡工高にて) 講習会: 「音響実験」 (東大 生産技術研究所にて) (参加者70名) 見学会: NHK技術研究所 (東大 石井先生) (参加者70名)	10. 19 中央産業教育審議会「高等学校における産業教育実験・実習施設、設備の基準の改善について」答申	1. 北陸地方豪雪
昭和 39年	(理) 静岡工高長 中江 斉 (事) 静岡工高 関 淳一郎 (事) 小石川工高 岡登 五郎	5. 23-24 10. 20-21	総会・研究協議会 (県立市川工高にて) (参加64校, 102名) (宿泊 木更津) 見学会: 東海村原子力研究所 講習会: 「設備実験」 早大 井上先生 (虎ノ門共済会館にて) (参加58校, 67名) 見学会: 代々木オリンピック競技場, 虎ノ門病院	「学習指導要領の手引き」(建築科編) 発行	6. 16 新潟地震 (M7. 5)
昭和 40年	(理) 静岡工高長 中江 斉 (事) 静岡工高 関 淳一郎 (事) 小石川工高 岡登 五郎	6. 5-6 11. 3 12. 1	総会・研究協議会 (県立新潟工高にて) (参加70校, 109名) (宿泊 とやの観光ホテル) 見学会: 東海村原子力研究所 講習会: 「防水工事」 「TILT-UP工法」 千葉大 波多野先生, 日本住宅公団関係技師 見学会: 田島応用化工, 作草部団地 (西千葉) (参加36校, 62名)	2. 「産業教育振興法施行規則」の一部改正 施設・設備基準の改訂 11. 10 産業教育80年記念式典挙行政	3. 三井霞が関ビル起工式
昭和 41年	(理) 静岡工高長 中江 斉 (事) 静岡工高 関 淳一郎 (事) 小石川工高 岡登 五郎	6. 11-12 11. 25-26	総会・研究協議会 (県立古川工高にて) (参加60校, 95名) (宿泊 鳴子温泉) 講習会: 「超高層建築」 三井不動産, 山下壽郎事務所, 鹿島建設技術研究所 (鹿島建設技術研究所にて) (参加者80名) 見学会: 鹿島建設技術研究所, 三井霞が関ビル (参加59校, 95名)	10. 31 中央教育審議会「後期中等教育の拡充整備について」最終答申	8. 中国文化大革命 9. 台風24・25 18才人口戦後ピークの249万人
昭和 42年	(理) 向の岡工高長 富塚 信司 (事) 田無工高 森安 四郎	6. 2-3 11. 24-25 2. 25	総会・研究協議会 (県立前橋工高にて) (参加者117名) (宿泊 伊香保温泉) 「建築教育の問題と改善の方向について」 講習会: 「基礎構造 土質実験について」 岸田英明先生ほか 第3・4研究部員 (建設省技術研究所にて) 見学会: 建築研究所, パレスサイドビル 講演会: 「総合事務所建築の計画, 施工について」 日建 林昌二先生ほか, 設計部員 ○ 建築設備, 建築史, 建築計画 発行 (実教) ○ 建築設備演習, 建築構造演習 発行 (昭見堂) 高等学校工業科「学習指導の手引き」建築科編 発行	8. 1 理科教育産業教育審議会「高等学校における職業教育の多様化について」答申	
昭和 43年	(理) 向の岡工高長 富塚 信司 (事) 田無工高 森安 四郎	6. 7-8 11. 21-22 3. 1	総会・研究協議会 (県立宇都宮工高にて) (宿泊 那須温泉) 「建築科の多様化について」 中江先生 講習会: 「万博の施設について」 万博協会 建設部次長 林光夫先生 (蔵前工業会館にて) 見学会: 国際貿易センター, 日本鋼管, 国立博物館 (東洋館) (参加者100名) 高等学校工業科「学習指導の手引き」建築科資料編 発行	4. 12 文部大臣より教育課程審議会あて「高等学校教育課程の改善について」諮問 7. 13 工業教育会館地鎮祭	4. 3 三井霞が関ビル竣工 5. 16 十勝沖地震 (M7. 9) 8. ソ連・東欧軍チェコ侵攻
昭和 44年	(理) 向の岡工高長 富塚 信司 (事) 田無工高 森安 四郎	3. 6-7 11. 21-22	総会・研究協議会 (埼玉県秩父 秩父鉄道有隣クラブにて) (参加者150名) 「学習指導要領の改訂」総則編について 各分科会 (製図・実習・計画・構造) 講習会: 「改正建築基準法について」 建設省 水越義幸先生 「学習指導要領総則編の改訂について」 関口先生 (工業教育会館にて) 見学会: 東芝科学館, 京王プラザ, 旭ガラス, 日本鋼管	建築測量(実教)発行 6. 10 高等学校工業科「学習指導の手引き」建築科資料編中・下(文部省)発行 3. 新工業教育会館完成	1. 23 能研テスト廃止
昭和 45年	(会) 鶴見工高長 長谷川 光次 (事) 田無工高 森安 四郎	4. 5-6 11. 27-28	総会・研究協議会 (県立山形工高にて) (宿泊 よねや旅館) 「学習指導要領の改訂」建築科編について 各分科会: 製図・実習・計画・構造 講習会: 「電子計算機の利用について」 小倉正士先生 (工業教育会館にて) 見学会: 東海ビル, 京浜急行ホテル (建設現場) 東芝科学館 電子計算機の実績 (日立, 芝電商事)	造形(実教)発行 建築会社就職全科(昭見堂)発行 5. 6 「高等学校指導要領案」発表 10. 15 同告示(48年度実施) 10. 24 中学生の高校への進学率発表, 全国平均82. 1%(44年度79. 4%)	
昭和 46年	(理) 向の岡工高長 富塚 信司 (事) 田無工高 森安 四郎	7. 28 7. 29-30	東日本建築教育研究会創立20周年記念式典 (社会文化会館にて) 総会・研究協議会 理事長制を廃止, 会長制度をとる (会則変更)	3. 13 文部省 特殊小中学校の新学期指導要領を告示 5. 28 「国立及び公立の義務教育諸学校等の教育教員の給与等に関する特別措置法」公布	5. 6 京王プラザ営業開始

昭和47年	(会) 鶴見工高長 長谷川 光次 (事) 田無工高 森安 四郎	6. 2-3 総会・研究協議会(秋田県にて) 「新学習指導要領による教育課程の編成について」 8. 2-4 施工部会主催(横須賀市立工高にて) 「施工実習の指導法」 11. 17-18 講習会:「最近の鋼構造について」(工業教育会館にて) 見学会:成田空港(新国際空港), 検見川団地 ○ 建築実習1,2 発行(実教)	7. 3 教員養成審議会「教員養成の改善策について」建議 10. 5 学制100年記念式典	
昭和48年	(会) 埼玉県立 玉川工高長 池田 壽男 (事) 田無工高 森安 四郎	5. 1-2 総会・研究協議会(茨城県土浦市にて) 「教育課程の編成と実務上の問題点」 見学会: 鹿島臨海工業団地 11. 16-17 講習会:「製図指導上の問題点」竹中工務店・仁木建築設計事務所 見学会: 新宿副都心・その他 ○ 建築構造, 建築計画 発行(実教)	9. 25 「筑波大学法成立」 11. 21 小・中・高一貫教育を図るための新教育課程審議会発足 建築科目が8科目に減少	オイルショック 工業高校への希望者減少と生徒の学力低下が表面化
昭和49年	(会) 埼玉県立 玉川工高長 池田 壽男 (事) 葛西工高 松本 延夫	6. 7-8 総会・研究協議会(愛知県名古屋にて) 「産業教育の改善に関する委員会審議の経緯をめぐって」 見学会: 犬山城, 明治村 各分科会: 製図・実習・計画・構造 8. 7-9 施工部会主催(盛岡工高にて) 「施工実習の指導法, 実技教育」	2. 25 「学校教育の水準の維持向上のための義務教育諸学校の教育職員の人材確保に関する特別措置法」公布	高校進学率90%
昭和50年	(会) 埼玉県立 玉川工高長 池田 壽男 (事) 葛西工高 松本 延夫	7. 6-7 総会・研究協議会(千葉県成田市にて) 「工業教育の改善, 専門科目の最小限教育内容について」 見学会: 成田空港 各分科会: 製図・実習・計画・構造 8. 21-22 計画部会主催(小石川工高にて) 「計画実験の指導法(日照・歓喜・音響・空調)」 見学会: ミサワホーム総合研究所 ○ 建築設計製図, 建築施工, 建築構造設計 発行(実教) ○ プレハブ住宅(コンクリート編)16mm映画	4. 28 「短期大学設置基準」公布 7. 15 文部省 小・中・高の主任制の法制化発表	
昭和51年	(会) 葛西工高長 遊佐 五郎 (事) 葛西工高 松本 延夫	5. 28-29 総会・研究協議会(山梨県富士吉田市にて) 「基礎実習の実践と問題点について」 8. 23-24 構造部会主催(田無工高にて) 「材料, 構造実験・実習」 「コンピュータ講習会」 ○ 建築史 発行(実教)	1. 10 「専修学校設置基準」公布 3. 1 主任制度化施行 12. 18 教育課程審議会「教育課程の基準の改善について」答申	
昭和52年	(会) 葛西工高長 高橋 豊次 (事) 葛西工高 松本 延夫	6. 10-11 総会・研究協議会(東京九段会館にて) 「教育課程の改善について」 「産振法, 設備基準の改訂による運用上の問題点」 6. 20-21 製図部会主催(東工大附工高にて) 「透視図の描き方, 着色実技」 ○ 建築の基礎問題 発行(市ヶ谷)教材委員会 ○ 建築資料集, 建築実習(1,2)改訂版 発行(実教)	5. 2 大学入試センターの発足 7. 23 文部省 小・中学校新学習指導要領を告示 9. 22 文部省 全面改訂の教科書検定規則, 検定基準を公布	
昭和53年	(会) 葛西工高長 堀 重雄 (事) 葛西工高 松本 延夫	6. 10-11 総会・研究協議会(青森県青森市にて) 「学習指導要領の改訂について」 「建築科科目も統合」 8. 18-19 講演会:「教材の作成と視聴覚教材の指導法」(東工大附工高にて)	6. 17 中央教育審議会「教員の資質向上について」答申 10. 1 教育大学(上越, 兵庫)開学	
昭和54年	(会) 葛西工高長 堀 重雄 (事) 葛西工高 松本 延夫	6. 8-9 総会・研究協議会(栃木県鬼怒川にて) 「改訂学習指導要領の問題点について」 8. 20-21 施工部会主催(横須賀 三浦ドック社員寮にて) 「安全教育について」	1. 13 第1回共通第1次学力試験実施 4. 1 養護学校の義務性実施	
昭和55年	(会) 足立工高長 堀 重雄 (事) 東工大附工高 五十嵐 永吉	7. 29-30 総会・研究協議会(札幌市ホテル東急インにて) 「新教育課程と工業数理について」 記念講演:「北海道の建築」北海道大学助教授 越野武先生 研究視察: 札幌市内の建築物 ○ 30周年記念誌発行	4. 25 40人学級法案可決 11. 25 文部省 校内暴力等の防止対策の通知	
昭和56年	(会) 蔵前工高長 國兼 光由 (事) 蔵前工高 高山 英一	6. 12-13 総会・研究協議会(長野市長野ホテルにて) 「新教育課程と学習指導要領について」(工業基礎・工業数理) 8. 20-21 講演会:「照明の基礎・光源と照明設計」(中央工学校 田端校舎にて) 見学会: NHKホール, 東京電力大塚支社	6. 11 「放送大学学術法」公布 中央教育審議会「生涯教育について」答申	
昭和57年	(会) 蔵前工高長 國兼 光由 (事) 蔵前工高 高山 英一	6. 11-12 総会・研究協議会(草津市全健プラザにて) 8. 6 講演会:「建築測量に関する実技演習並びに工場見学」 (日本光学横浜工場にて) ○ 第1回製図コンクールの実施	5. 6 文部省「新高校教育課程編成状況調査」結果発表 建築科目 建築史・法規が減り6科目となる	
昭和58年	(会) 蔵前工高長 國兼 光由 (事) 蔵前工高 高山 英一	5. 20-21 総会・研究協議会(富山県東砺波越中庄川にて) 「工業基礎・工業数理の実践報告」 講演会:「建設業の今後の展望と建築教育」 8. 9-10 建築科目に関するパソコンの実技指導と実技演習(参加者81名) ○ 第2回製図コンクールの実施	11. 22 教員養成審議会「教員の養成及び免許制度の改善について」答申	

昭和59年	(会) 墨田工高長 楠見 善男 (事) 墨田工高 井上 満	6. 15-16 総会・研究協議会(盛岡市ホテル東日本にて) 「工業基礎をどのような計画のもとにどのような内容で指導したか」 「工業数理における一考察について」 「パソコンについての実践報告」 映画発表:「躍進田無工高・卒業生はいま」 9. 1-3 講演会:「建築施工実習研究協議会」(向の岡工高にて) ○第3回製図コンクールの実施	8. 9 「臨時教育審議会設置法」公布	東西ドイツ統一
昭和60年	(会) 墨田工高長 楠見 善男 (事) 墨田工高 井上 満	6. 7-8 総会・研究協議会(高山市民文化会館にて) 「工業基礎の授業について」 「建築技術者に必要な実習内容に関する調査のまとめと分析」 「パソコンを利用した教育内容とその指導について」 8. 1-3 講習会:「パソコンの実技演習」(日本工業大学にて) ○第4回製図コンクールの実施	6. 26 臨時教育審議会「教育改革に関する第1次答申」提出	
昭和61年	(会) 墨田工高長 加地 正義 (事) 墨田工高 佐藤 賢吉	6. 6-7 総会・研究協議会(福島市飯坂温泉ホテル聚楽にて) 「建築科における情報技術教育はどのように計画・実施したらよいか」 「建築製図の指導法について」 8. 1-2 講習会:「建築計画・設備の実験実習」(蔵前工高にて) 見学会:東京芸大 奏楽堂 移築工事現場 ○第5回製図コンクールの実施	6. 4 文部省 中等教育改革の推進に関する調査研究協力者会議を設置	
昭和62年	(会) 小石川工高長 加曾利 政男 (事) 小石川工高 松田 紘	6. 12-13 総会・研究協議会(石川県片山温泉ホテルながやまにて) 「透視図の学習指導について」 「コンピュータによる室内環境測定」 研究視察:那谷寺,九谷焼資料館,成巽閣 7. 31-8. 1 実習・実験:「鉄筋コンクリートばりの構造実験」(安田学園高にて) 見学会:清水建設技術研究所 第6回製図コンクールの実施	8. 20 臨時教育審議会解散	
昭和63年	(会) 小石川工高長 松村 篤躬 (事) 小石川工高 松田 紘	6. 10-11 総会・研究協議会(埼玉県産業文化センターにて) 「CAIによる建築設計の実践と効果」 「木造実習」二階住宅の実践 8. 4-6 講演会:「建築施工実習の実践指導について」(東京工高 赤倉研究所にて) ○第7回製図コンクールの実施	4. 1 文部省 単位制高校を制度化	
平成元年	(会) 小石川工高長 松村 篤躬 (事) 小石川工高 松田 紘	6. 9-10 総会・研究協議会(焼津市焼津観光ホテル松風閣にて) 「赤外線映像装置による温度測定と外壁診断」 「開市立体地図の製作並びに提示用CAIの開発」 研究視察:登呂遺跡・同博物館及び芹沢銚介美術館 7. 25-26 講演会:「設計製図の指導について」(埼玉県立大宮工高にて) (CADの実技演習と建設会社での利用状況)(参加者45名) ○第8回製図コンクールの実施		昭和天皇崩御 皇太子明仁親王即位 新年号「平成」となる 横浜ベイブリッジ完成 サンフランシスコ地震(M6. 9)
平成2年	(会) 田無工高長 清水 守男 (事) 田無工高 赤地 龍馬	7. 25-26 総会・研究協議会(神奈川県湯本ホテルおかだにて) 「川崎市におけるインテリジェントスクールの試み」 「コンピュータを授業にどう取り入れたらよいか ～CADの実践を通しての試案」 創立40周年記念式典 記念講演会:「わが国の耐震建築理論」 東京大学名誉教授工学博士 梅村魁先生 40周年記念誌 発行 6. 8 夏期研究協議会:「建築施工実習研究協議」(東京工高にて) 「透視図の着色と添景の実技演習」 ○第9回製図コンクールの実施	大学入試センター試験開始	
平成3年	(会) 田無工高長 清水 守男 (事) 田無工高 本間 正明	8. 5-6 総会・研究協議会(宮城県ホテル松島大観荘にて) 「新しい設備を活用した課題研究の実践について」 「現代住宅と重要文化財(我妻家)との比較」 「卒業設計の実践」 7. 22-23 夏期研究協議会:計画分科会(神奈川県勤労会館にて) 「建築法規」,「建築史」講習並びに見学会(横浜の近代建築) 「透視図の着色と添景の実技演習」 ○第10回製図コンクールの実施		新都庁舎完成 雲仙普賢岳土石流発生 ソ連共産党解散
平成4年	(会) 田無工高長 清水 守男 (事) 田無工高 本間 正明	6. 12-13 総会・研究協議会(新潟県月岡温泉ホテル清風苑にて) 「建築設計におけるFCAIの実践報告」 「課題研究の実践報告」 7. 27-29 研究視察:豪農の館 北方文化 夏期研究協議会:施工分科会(越生高軽井沢研修センターにて) 「木造・S造・RC造・測量実習」の実技講習会 ○第11回製図コンクールの実施	学校週5日制スタート	沖縄本土復帰20周年 ミニ新幹線「つばさ」開業

平成 5 年	(会) 葛西工高長 吉村 義弘 (事) 葛西工高 松井 貞二	6.10-11 7.27-28 ○ 第12回製図コンクールの実施	総会・研究協議会（茨城県大洗パークホテルにて） 「専攻科に関する実践報告」 「課題研究の実践報告」 研究視察：好文亭（借楽園）,弘道館 夏期研究協議会：構造分科会（葛西工高にて） 「振動模型の製作とそれを利用した模型実験」の実技講習		北海道南西沖地震(M7.8)
平成 6 年	(会) 葛西工高長 吉村 義弘 (事) 葛西工高 松井 貞二	6.16-17 7.26-27 ○ 第13回製図コンクールの実施	総会・研究協議会（山形県天童温泉滝の湯ホテルにて） 「地方都市における建築教育に関する報告」 講演会：「風土と建築」本間利雄先生 夏期研究協議会：製図分科会（新潟県六日町白銀山荘にて） 「間伐材を使用したログテーブルの製作」	建築科目に「法規」が復活	不況型倒産最高となる 日本人初の女性宇宙飛行士向井千秋スペースシャトルコロロンビアに搭乗 関西空港開港 北海道東方沖地震(M7.9)
平成 7 年	(会) 葛西工高長 吉村 義弘 (事) 葛西工高 松井 貞二	6.8-9 7.27-28 ○ 第14回製図コンクールの実施	総会・研究協議会（千葉県ホリディン東武成田にて） 「建築施工技術者試験の指導法について」 「建築と子供達カリキュラム」から学ぶもの （アメリカ・アンテラ教授） 「歴史的建築物の実測調査及び模型製作」 夏期研究協議会：計画分科会（川越工高にて） 「建築法規・建築史講習並びに川越の町並み・文化財見学」		阪神・淡路大地震発生(震度7) 地下鉄サリン事件 国内で生まれた日本人の子供数 118万7,067人で過去最低
平成 8 年	(会) 蔵前工高長 北島 敬己 (事) 蔵前工高 堀内 仁之	6.6-7 7.29-30 ○ 第15回製図コンクールの実施	総会・研究協議会（愛知県名古屋国際会議場にて） 「単位減に伴う教科指導法について」 「紙を生かした課題研究の取り組み」 「本校におけるCAD教育」 「建築積算の指導法について」 「建築教育におけるマルチメディア」 「私の環境論」名工大名誉教授 宮野秋彦先生 夏期研究協議会：施工分科会（神奈川県川崎にて） 「建築施工」に関する講習並びに見学会		病原性大腸菌O-157発生
平成 9 年	(会) 蔵前工高長 北島 敬己 (事) 蔵前工高 堀内 仁之	6.12-13 7.24-25 ○ 第16回製図コンクールの実施	総会・研究協議会（長野県ホテル国際21にて） 「厳選に伴う内容の整理」 「善光寺の歴史と建物」 研究視察：冬季オリンピック施設 夏期研究協議会：構造分科会（田無工高にて） 「教科学習及び学習補助教材としての学習ソフトの製作」		秋田新幹線開通 香港中国に返還 長野新幹線開通 東京湾アクアライン開通 消費税5%に引き上げ
平成 10 年	(会) 蔵前工高長 北島 敬己 (事) 蔵前工高 堀内 仁之	6.11-12 8.4-5 ○ 50周年記念事業特別委員会設置 ○ 第17回製図コンクールの実施	総会・研究協議会（北海道ホテルライフオーソ札幌にて） 「厳選に伴う内容の整理」 「北海道の建築教育」 研究視察：北海道開拓の村 夏期研究協議会：製図分科会（市川工高にて） 「Jw_cadの基本操作の体験と授業への活用」		明石海峡大橋開通 長野冬季五輪
平成 11 年	(会) 墨田工高長 稲見 辰夫 (事) 墨田工高 小沢 宏	6.17-18 7.23-24 8.4-5 ○ 第18回製図コンクールの実施	総会・研究協議会（秋田県秋田ビューホテルにて） 「21世紀の建築教育のあり方」 講演会：「思春期の心の理解」山崎友文先生 「建築教育実践」 研究視察：みちのく小京都角館 夏期研究協議会：計画分科会（蔵前工高, 鹿島KIビルにて） 「建築設計・建築史講習並びに見学会」 見学会：江戸東京博物館, 浜離宮庭園 製図分科会主催（蔵前工高にて） 「Jw_cadの基本操作の体験と授業への活用」		
平成 12 年	(会) 墨田工高長 原田 昭 (事) 墨田工高 小沢 宏	7.26-27 8.7-8 ○ 第19回製図コンクールの実施	総会・研究協議会（栃木県鬼怒川温泉ホテルニュー岡部にて） 創立50周年記念式典 記念講演会：「世界文化遺産日光東照宮の謎」 日光東照宮副官長 高藤晴俊氏 50周年記念誌・製図コンクール作品集 発行 夏期研究協議会：施工分科会（石川島技術教習所研修センターにて） 「クレーン特別教育講習会」	教育改革国民会議 (小淵内閣)	

平成 13 年	(会) 墨田工高長 原田 昭 (事) 墨田工高 小沢 宏	7. 26-27 総会・研究協議会 (青森県古牧温泉古牧ランドホテルにて) 「21世紀を拓く建築教育-高校建築教育再構築への取り組み」 8. 7-8 夏期研究協議会：構造分科会 「構造設計計算プログラムの活用実習」 8. 21 講習会：「建築CAD体験セミナー」 8. 23-24 講習会：「建築汎用CAD講習会」 ○ 第20回製図コンクールの実施	文部省と科学技術省との統合で文 部科学省となる 文部省でゆとり教育推進	アメリカ同時多発テロ事件
平成 14 年	(会) 小石川工高長 堀川 忠義 (事) 小石川工高 岩見 立也	7. 25-26 総会・研究協議会 (東京都江戸川総合区民ホールにて) 「これからの建築教育に求められるもの」 (教科：法規に伴い、計画分科会内法規小委員会設置) 7. 24 夏期研究協議会：製図分科会 「都市基盤整備公団総合研究センター研究施設見学」 8. 26-27 講習会：「レタリング技能講習会」(資格取得推進委員会) ○ 第21回製図コンクールの実施	完全学校週5日制を実施 小・中で学習内容大幅削減の教科 書登場(高校は翌年)	
平成 15 年	(会) 小石川工高長 佐藤 清親 (事) 小石川工高 岩見 立也	7. 31-8. 1 総会・研究協議会 (山梨県石和観光温泉ホテルにて) 「新たな建築教育をめざして」 7. 23-24 夏期研究協議会：計画分科会 (南ヶ丘倶楽部にて) 「伝統的建築物の見学及び講演」 8. 18-19 講習会：「レタリング技能講習会」(資格取得推進委員会) 3. 29-30 講習会：「第1回建築写真技術講習会」(計画分科会) ○ 第22回製図コンクールの実施		宮城県北部地震
平成 16 年	(会) 小石川工高長 佐藤 清親 (事) 小石川工高 岩見 立也	7. 26-27 総会・研究協議会 (群馬県伊香保温泉ホテル天坊にて) 「時代に即した効果的な建築教育をめざして」 7. 29-30 夏期研究協議会：施工分科会 (東京都品川技術専門校にて) 「労働安全衛生法による技能講習会」 7. 23 講習会：第1回建築確認申請講習会(法規小委員会) 3. 29-30 講習会：第2回建築写真技術講習会(計画分科会) ○ 第23回製図コンクールの実施		アテネ五輪 新潟県中越地震
平成 17 年	(会) 田無工高長 能智 功 (事) 田無工高 鈴木 健	7. 28-29 総会・研究協議会 (岐阜県岐阜観光ホテル十八楼にて) 「建築教育に求められる社会貢献」 8. 1-2 夏期研究協議会：構造分科会 (市川工高にて) 「木造耐震診断研修会」 8. 3 講習会：「日影図および天空率作図講習会」(法規小委員会) 8. 24-26 建築系高校生徒体験実習(資格取得推進委員会) (富士教育訓練センターにて) ○ 第24回製図コンクールの実施		
平成 18 年	(会) 田無工高長 能智 功 (事) 田無工高 鈴木 健	8. 1-2 総会・研究協議会 (静岡県静岡文化芸術大学にて) 「意欲を高める建築教育のあり方」 (法規小委員会から「法規分科会」へ移行して5分科会となる) 7. 25-26 夏期研究協議会：製図分科会 (茨城県つくば市内にて) 「建築博物館・都市つくばを歩く」 7. 31 講習会：「第2回建築確認申請講習会」(法規小委員会) 8. 21-23 建築系高校生徒体験実習(資格取得推進委員会) (富士教育訓練センターにて) ○ 第25回製図コンクールの実施		WBCで日本優勝
平成 19 年	(会) 田無工高長 能智 功 (事) 田無工高 鈴木 健	7. 26-27 総会・研究協議会 (岩手県つなぎ温泉ホテル大観にて) 「実践に根ざした建築教育の再構築」 7. 25-26 夏期研究協議会：計画分科会 (旧富岡製糸場にて) 「旧富岡製糸場見学ほか講演」 7. 30 講習会：「第3回建築確認申請講習会」(法規小委員会) 8. 20-23 建築系高校生徒体験実習(資格取得推進委員会) (富士教育訓練センターにて) ○ 第26回製図コンクールの実施	全員対象の全国学力テスト復活	
平成 20 年	(会) 葛西工高長 佐藤 則夫 (事) 葛西工高 鈴木 隆	7. 31-8. 1 総会・研究協議会 (石川県金沢歌舞伎座にて) 「生徒の可能性を引き出す建築教育」 8. 4-5 夏期研究協議会：法規分科会 (建築科会館、表参道ヒルズにて) 「建築法令指導者講習会」 8. 18-21 建築系高校生徒体験実習(資格取得推進委員会) (富士教育訓練センターにて) ○ 第27回製図コンクールの実施	初の全国体力テスト	リーマンショック 北京五輪
平成 21 年	(会) 葛西工高長 平林 博 (事) 葛西工高 鈴木 隆	7. 30-31 総会・研究協議会 (埼玉県ラフレさいたまにて) 「未来にはばたく建築教育」 8. 6-7 夏期研究協議会：構造分科会 (安田学園高にて) 「CADによる問題作成講習会」 8. 18-21 建築系高校生徒体験実習(資格取得推進委員会) (富士教育訓練センターにて) ○ 第28回製図コンクールの実施	教員免許更新制度開始	WBCで日本二連覇 民主党政権誕生 18才人口121万人に

平成 22 年	(会) 葛西工高長 平林 博 (事) 葛西工高 鈴木 隆	7. 29-30 8. 6-7 8. 18-21 ○ 第29回製図コンクールの実施	総会・研究協議会 (福島県会津柳宿東風にて) 「身近に感じさせる建築教育ー生活体験を通して」 夏期研究協議会：施工分科会 「大工道具の手入れと使用法」 建築系高校生徒体験実習 (資格取得推進委員会) (富士教育訓練センターにて)	高校授業料の実質無償化	バンクーバー五輪
平成 23 年	(会) 蔵前工高長 豊田 善敬 (事) 蔵前工高 金子 淳一	7. 28-29 8. 3-4	総会・研究協議会 (神奈川県神奈川工高にて) 「生徒の可能性を引き出す建築教育」 夏期研究協議会：製図分科会 「初心者のための3D CAD研修会」		3. 11 東日本大震災発生
平成 24 年	(会) 蔵前工高長 豊田 善敬 (事) 蔵前工高 金子 淳一	7. 26-27 8. 2-3	総会・研究協議会 (宮城県ホテル松島大観荘にて) 「次の時代をつくる建築教育～震災を教訓として」 夏期研究協議会：計画分科会 「サステイナブルな建築住環境を考える」		ロンドン五輪 自由民主党へ政権交代
平成 25 年	(会) 蔵前工高長 豊田 善敬 (事) 蔵前工高 米川 誠次	8. 1-2 8. 8-9	総会・研究協議会 (新潟県燕三条地場産業振興センターにて) 「地域とつながる建築教育」 夏期研究協議会：法規分科会 「二級建築士試験制度見直しに伴う指導者講習会」		NHKあまちゃんブーム
平成 26 年	(会) 墨田工高長 小林 晶代 (事) 墨田工高 鈴木 健	7. 24-25 8. 7-8	総会・研究協議会 (茨城県エポカルつくばにて) 「想像をはぐくむ建築教育～温故知新～」 夏期研究協議会：構造分科会 「授業に役立つ、おもしろ構造科学実験」		理系女子(リケジョ), 土木女子(ドボジョ)流行
平成 27 年	(会) 墨田工高長 小林 晶代 (事) 墨田工高 鈴木 健	7. 30-31 8. 6-7	総会・研究協議会 (山形県東京第一ホテル鶴岡にて) 「Reproduction 再生」 夏期研究協議会：施工分科会 「規矩術と木材加工」		新国立競技場の建設費問題, エンブレム問題
平成 28 年	(会) 墨田工高長 三神 幸男 (事) 墨田工高 鈴木 健	8. 4-5 7. 28-29	総会・研究協議会 (千葉県ホテルグリーンタワー幕張にて) 「グローバル社会における建築教育」 夏期研究協議会：製図分科会 「建物探訪 (上野フィールドワーク)」		リオデジャネイロ五輪
平成 29 年	(会) 総合工高長 平田 誠一 (事) 総合工高 成田 仲生	7. 27-28 8. 9-10	総会・研究協議会 (愛知県ホテルルプラ王山にて) 「Quality 建築教育の質」 夏期研究協議会：計画分科会 「建築模型について～製作講習会及び模型展示施設等見学会」		沖縄復帰45年
平成 30 年	(会) 総合工高長 平田 誠一 (事) 総合工高 野村 博美	8. 2-3 8. 9-10	総会・研究協議会 (長野県ホテルメトロポリタン長野にて) 「快適な空間の創造」 夏期研究協議会：法規分科会 「建築物省エネ法・消防法を中心とした建築設備の実習」		西日本豪雨
平成 31 年	(会) 総合工高長 平田 誠一 (事) 総合工高 中江田 澄江	8. 1-2 8. 8-9	総会・研究協議会 (北海道ホテルライフオート札幌にて) 「DESIGN」 夏期研究協議会：構造分科会 「高強度コンクリートの破壊試験」		新元号「令和」となる

東日本建築教育研究会 会則

- 第1条** 本会は、東日本建築教育研究会と称し、北海道・東北・関東・北信越・東海の5ブロックで構成する。
- 第2条** 本会は、工業教育、特に建築教育に関する研究を行い、その向上改善を図ると共に、会員相互の連絡並びに全国高等学校建築教育連絡協議会との連携を密にすることを目的とする。
- 第3条** 本会は、下の会員を以て組織する。
1. 正会員・・・東日本地域工業高等学校在職中の建築課程関係教職員及び、建築科出身の学校長など。
 2. 賛助会員・・・本会の趣旨に賛同する会社、事業所など。
 3. 個人会員・・・東日本地域において、本会加入校以外の高等学校に在職している、かつての本会会員の中で、引き続き本会加入を希望し常任理事会で推薦された者及び、正会員を除く建築課程及び関連学科に所属する教員個人。
- 第4条** 本会の事務局は、原則として会長所属の学校におく。
- 第5条** 本会は、第2条の目的を達成するために下の事業を行う。
1. 建築課程に関する学習指導方法の研究
 2. 建築界の動静に関する研究。並びに各種資料の収集調査
 3. 研究発表会、講演会、見学会などの開催
 4. その他、本会の目的達成上必要な事業
- 第6条の1** 本会に次の役員・理事会をおき、会の運営に当たる。
- 会長（1名）、副会長（若干名）、事務局長（1名）、会計（1名）
- 都道府県理事（都道府県理事会を構成する）
- 常任理事（常任理事会を構成する）
- 必要に応じて顧問、参与をおくことができる。
- 第6条の2** 本会の目的を達成するために、次の分科会、委員会をおく。
- 分科会（製図、計画、法規、構造、施工）
- 委員会（編集、製図コンクール運営、資格取得推進、広報）
- （各分科会、委員会は主査、委員長を互選する）
- 第6条の3** 役員、委員の任期は1年とし、重任を妨げない。ただし、途中異動の場合、後任者の任期は前任者の残期間とする。
- 第7条** 会長は、常任理事会において選出し、総会・理事会において承認を受ける。
- 副会長・事務局長・会計・会計監査は会長が推薦し、総会・理事会・常任理事会において承認を受ける。
- 常任理事は、役員、各主査、各委員長、東京近辺の都道府県理事等から選出する。別に建築科出身の学校長・教頭等に参加を求めることができる。
- 理事は、各都道府県会員校の中から都道府県を代表して1名互選する。（北海道、東京は2名）
- 分科会・委員会の委員は必要に応じ会員の中から選び、総会・理事会・常任理事会の承認を得て会長が、委嘱する。
- 顧問・参与は、常任理事会が推薦し、会長が、委嘱する。
- 第8条** 会長は、本会を代表し、副会長は、会長事故あるとき、これを代行する。
- 都道府県理事会・常任理事会は、事業計画、会計予算・決算などの重要事項について審議する。
- 事務局長、会計は会務を処理し、本会の運営を司る。
- 主査会は、副会長・主査・委員長・事務局長・会計で構成し、会の運営の原案を作成する。
- 会計監査は、本会の会計を監査し、監査報告をする。
- 分科会・委員会は、会の目的を遂行するために基礎的事項を審議する。
- 顧問及び参与は、本会の運営について助言し、会の発展を援助する。
- 第9条** 理事会・常任理事会・分科会・委員会は、随時会長が召集する。
- 第10条** 総会・都道府県理事会は、年1回定期に開く。開催地は、持ち回りとする。
- 特に必要あるときは、常任理事会の決定により臨時総会等を開くことができる。
- 第11条** 総会は、出席者の過半数の同意によって議決する。（特別な場合を除く）
- 総会の議長は、会長があたる。

- 第12条** 総会において行うべき事項は、次の通りとする。
1. 事業報告及び、計画
 2. 事業報告及び、予算の承認
 3. 役員の変更
 4. 会務、その他重要と認める事項
- 第13条** 本会の会計年度は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。
- 第14条の1** 本会の経費は、会費及び補助金、寄付金、その他を充てる。
 全日制・定時制それぞれ1校とし、年6,500円徴収する。
 ただし、この中に全国高等学校建築教育連絡協議会年会費を含む。
 また、臨時会費を徴収することがある。
 賛助会費は、年額1口10,000円 1口以上とする。
 個人会費は、年額1人1,000円とする。
- 第14条の2** 本会の会計（予算・決算）は、会計監査（2名）の監査を受け、総会で監査報告を行う。
 会計監査（2名）は、会員の中から選出するものとする。
- 第15条** 本会則を変更する場合は、総会の議決を経るものとする。
- 第16条** 第1条に掲げるブロックの構成は、次の通りとする。
- (1) 北海道ブロック（北海道全域）
 - (2) 東北ブロック（青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島）
 - (3) 関東ブロック（東京・神奈川・千葉・埼玉・栃木・群馬・茨城・山梨）
 - (4) 北信越ブロック（新潟・長野・富山・石川・福井）
 - (5) 東海ブロック（静岡・愛知・岐阜）
- ブロックは、その地域すべての会員を以て組織する。
 ブロックに関する規定は、別に之を定めることができる。

付 則

本会則運営上必要な規定は、別に定める。	制定 昭和26年11月5日
本会則は、昭和30年5月20日から実施する。	改定 昭和30年5月20日
本会則は、昭和37年6月1日から実施する。	改定 昭和37年6月1日
本会則は、昭和42年6月2日から実施する。	改定 昭和42年6月2日
本会則は、昭和46年7月28日から実施する。	改定 昭和46年7月28日
本会則は、昭和50年6月6日から実施する。	改定 昭和50年6月6日
本会則は、昭和54年6月8日から実施する。	改定 昭和54年6月8日
本会則は、平成7年6月8日から実施する。	改定 平成7年6月8日
本会則は、平成11年6月17日から実施する。	改定 平成11年6月17日
本会則は、平成13年4月1日から実施する。	改定 平成12年7月26日
本会則は、平成14年7月25日から実施する。	改定 平成14年7月25日
本会則は、平成16年7月26日から実施する。	改定 平成16年7月26日
本会則は、平成18年8月1日から実施する。	改定 平成18年8月1日
本会則は、平成19年7月26日から実施する。	改定 平成19年7月26日
本会則は、平成22年7月29日から実施する。	改定 平成22年7月29日
本会則は、平成23年7月28日から実施する。	改定 平成23年7月28日
本会則は、令和2年7月31日から実施する。	改定 令和2年7月31日

2020年度 役員名簿

- 1 会長 早川 忠憲 東京都立田無工業高等学校長
- 2 副会長 黒澤 光弘 秋田県立秋田工業高等学校長
菅野 光広 栃木県立宇都宮工業高等学校長
米原 良慈 東京都立蔵前工業高等学校
根岸 俊行 群馬県立館林商工高等学校
- 3 事務局長 小林 勝広 東京都立田無工業高等学校
- 4 会計 富田 眞理子 東京都立田無工業高等学校
- 5 常任理事 [※会長・副会長・主査・委員長・事務局長・会計は兼任]
[※主ブロックは毎年輪番制：東海→北信越→関東→東北→北海道]
南 一臣 (北海道ブロック・室蘭工) 門馬 紀介 (東京・葛西工)
菊田 武則 (東北ブロック・十和田工) 中江田 澄江 (東京・総合工科)
生田目 淳子 (関東ブロック・土浦工) 遠藤 悟 (東京・蔵前工)
中村 和史 (北信越ブロック・新津工) 鈴木 隆 (東京・蔵前工定)
青木 誠 (東海ブロック・浜松工) 柳澤 力也 (東京・墨田工)
菅谷 太郎 (埼玉・川越工) 高橋 康代 (東京・墨田工定)
五十嵐 忠彦 (栃木・宇都宮工) 渡邊 雄三 (東京・日工大駒場)
石井 直樹 (群馬・高崎工) 増田 泰良 (東京・東工大付科技)
中田 秀樹 (山梨・甲府工) 菅原 伸一 (大会事務局・秋田工)
生田目 淳子 (茨城・土浦工) 五十嵐 忠彦 (次回大会事務局・宇都宮工)
大木 英生 (神奈川・藤沢工科)
- 6 都道府県理事
- | | | | |
|-----|--------------|-----|--------------|
| 北海道 | 南 一臣 (室蘭工) | 北海道 | 高島 浩 (旭川工) |
| 青森 | 菊田 武則 (十和田工) | 岩手 | 堺田 誠之 (盛岡工) |
| 宮城 | 萱沼 俊一 (白石工) | 秋田 | 菅原 伸一 (秋田工) |
| 山形 | 中村 裕 (鶴岡工) | 福島 | 寺島 弘幸 (勿来工) |
| 栃木 | 黒崎 利之 (真岡工) | 群馬 | 永田 浩 (桐生工) |
| 埼玉 | 池田 健司 (川越工) | 茨城 | 生田目 淳子 (土浦工) |
| 東京 | 遠藤 悟 (蔵前工) | 東京 | 門馬 紀介 (葛西工) |
| 神奈川 | 大木 英生 (藤沢工科) | 千葉 | 高橋 亮 (市川工) |
| 新潟 | 中村 和史 (新津工) | 山梨 | 菅沼 雄介 (甲府工定) |
| 富山 | 井村 笑子 (高岡工芸) | 長野 | 藤原 栄治 (長野工) |
| 福井 | 赤星 公司 (敦賀工) | 石川 | 久保 芳男 (羽咋工) |
| 愛知 | 夏目 真季 (豊橋工) | 静岡 | 青木 誠 (浜松工) |
| 岐阜 | 児玉 英哉 (大垣工) | | |
- 7 会計監査 米川 誠次 東京都立総合工科高等学校
高橋 亮 千葉県立市川工業高等学校
- 8 分科会 (5分科会)
- 1) 製図分科会：主査 吉城 守 (大宮工)
● 中曾根 康 (前橋工定) 小島 聡 (市川工定) 笹崎 ひろみ (墨田工)
村井 和幸 (新潟県央工) 谷内 昭彦 (金沢市立工) 菊池 貞介 (市川工)
阿久津 真依 (墨田工)
- 2) 計画分科会：主査 江原 聖直 (春日部工)
● 田中 和夫 (田無工) 岩上 成輝 (川崎総合科学) 田村 雄志 (川崎総合科学)
荒木 宏道 (館林商工) 門馬 紀介 (葛西工) 畠山 弘幸 (石巻工)
中江田 澄江 (総合工科) 林田 千鶴 (橘) 三河 友美 (橘)
- 3) 法規分科会：主査 大木 英生 (藤沢工科)
● 岩瀬 政利 (東総工) 根岸 俊行 (館林商工) 米原 良慈 (蔵前工定)
萱沼 俊一 (白石工) 広田 喜文 (武生商工) 笹原 玲香 (科学技術)
田村 信義 (安房拓心) 石井 嘉隆 (市川工) 後藤 隆宏 (甲府工)
森嶋 真一 (甲府工) 谷 康博 (武生商工) 大森 慎一 (水沢工)
- 【凡例】 ●…副主査または副委員長を示す

- 4) 構造分科会：主査 小澤 誠志 (総合工科)
- | | | |
|---------------|--------------|--------------|
| ● 菅谷 太郎 (川越工) | 榎本 吉晃 (安田学園) | 沢野 茂 (蔵前工) |
| 高橋 康代 (墨田工定) | 松原 昌忠 (田無工) | 鈴木 隆 (蔵前工定) |
| 高橋 裕 (小田原城北工) | 遠藤 啓史 (市川工) | 益野 英昌 (仙台工) |
| 松村 徹 (高崎工) | 星野 志保 (甲府工定) | 佐々木 英治 (向の岡) |
| 菅沼 雄介 (甲府工定) | 袖野 貴義 (羽咋工) | 出川 匠 (総合工科) |
| 岩崎 あす佳 (橋) | | |

- 5) 施工分科会：主査 林 祐介 (市川工)
- | | | |
|----------------|-------------|--------------|
| ● 渡邊 恵一 (宇都宮工) | 吉村 公利 (大宮工) | 内藤 好洋 (大宮工定) |
| 高旨 清仁 (京葉工) | 首代 昌紀 (東総工) | 永田 浩 (桐生工) |
| 浜辺 恵一 (磯子工) | | |

9 委員会 (4委員会)

- 1) 編集委員会：委員長 遠藤 啓史 (市川工)
- | | |
|----------------|--------------|
| ● 米原 良慈 (蔵前工定) | 田村 信義 (安房拓心) |
|----------------|--------------|

- 2) 製図コンクール運営委員会：委員長 森嶋 真一 (甲府工)
- | | |
|-----------------|-------------|
| ● 佐藤 康雄 (神奈川工定) | 高野 史晃 (真岡工) |
|-----------------|-------------|

- | | | | |
|---------|--------------|---------------|--------------|
| (製図分科会) | 中曾根 康 (前橋工定) | 村井 和幸 (新潟県央工) | 笹崎 ひろみ (墨田工) |
| (計画分科会) | 荒木 宏道 (館林商工) | 畠山 弘幸 (石巻工) | 門馬 紀介 (葛西工) |
| (法規分科会) | 森嶋 真一 (甲府工) | 萱沼 俊一 (白石工) | |
| (構造分科会) | 菅谷 太郎 (川越工) | 松原 昌忠 (田無工) | |
| (施工分科会) | 吉村 公利 (大宮工) | 首代 昌紀 (東総工) | |

- 3) 資格取得推進委員会：委員長 石井 直樹 (高崎工)
- | | | |
|--------------|-------------|---------------|
| ● 泉 隆一 (大宮工) | 小林 克哉 (蔵前工) | 五十嵐 忠彦 (宇都宮工) |
| 遠藤 啓史 (市川工) | | |

- 4) 広報委員会：委員長 高橋 裕 (小田原城北工)
- | | | |
|----------------|-------------|--------------|
| ● 米原 良慈 (蔵前工定) | 菅谷 太郎 (川越工) | 榎本 吉晃 (安田学園) |
| 佐々木 英治 (向の岡) | | |

10 顧問及び参与

- 1) 顧問
- | | | |
|----------------|----------------|----------------|
| 北島 敬己 (第16代会長) | 原田 昭 (第18代会長) | 岡田 義治 (元委員長) |
| 佐藤 清親 (第20代会長) | 能智 功 (第21代会長) | 佐藤 則夫 (第22代会長) |
| 村田 敬一 (元前橋工校長) | 平林 博 (第23代会長) | 豊田 善敬 (第24代会長) |
| 小林 晶代 (第25代会長) | 三神 幸男 (第26代会長) | 平田 誠一 (第27代会長) |

- 2) 参与
- | | | |
|--------------|----------------|--------------|
| 土田 裕康 (元副会長) | 大間 俊彦 (元編集委員長) | 大久保 健 (元副会長) |
| 小沢 宏 (元副会長) | 鈴木 隆 (元事務局長) | |

11 全国高等学校建築教育連絡協議会 (略称：全高建協)

- | | | |
|------------|----------------|---------------------|
| 会長 早川 忠憲 | 東京都立田無工業高等学校長 | (東日本建築教育研究会 会長) |
| 副会長 黒澤 光弘 | 秋田県立秋田工業高等学校長 | (第71回 秋田大会) |
| 副会長 菅野 光広 | 栃木県立宇都宮工業高等学校長 | (第72回 栃木大会) |
| 事務局長 廣瀬 敏行 | 東京都立田無工業高等学校 | |
| 会計 小林 勝広 | 東京都立田無工業高等学校 | (東日本建築教育研究会 本部事務局長) |
| 理事 米原 良慈 | 東京都立蔵前工業高等学校 | (東日本建築教育研究会 副会長) |

関係諸官庁

諸官庁名	〒	住所	電話番号
文部科学省	109-8959	千代田区霞が関3-2-2	03-5253-4111
北海道教育委員会	060-8544	札幌市中央区北3条西7丁目	011-231-4111
札幌市教育委員会	060-0002	札幌市中央区北2条西2丁目15	011-211-3825
青森県教育委員会	030-8540	青森市長島一丁目1-1	017-722-1111
岩手県教育委員会	020-8570	盛岡市内丸10-1	019-629-6106
宮城県教育委員会	980-8423	仙台市青葉区本町3-8-1	022-211-3614
仙台市教育委員会	980-0011	仙台市青葉区上杉1-5-12上杉分庁舎	022-214-8856
秋田県教育委員会	010-8580	秋田市山王3-1-1	018-860-5111
山形県教育委員会	990-8570	山形市松波二丁目8-1	023-630-2211
福島県教育委員会	960-8688	福島市杉妻町2-16	024-521-1111
茨城県教育委員会	310-8588	水戸市笠原町978-6	029-301-5143
栃木県教育委員会	320-8501	宇都宮市埜田1-1-20	028-623-3354
群馬県教育委員会	371-8570	前橋市大手町1-1-1	027-226-4521
埼玉県教育委員会	330-9301	さいたま市浦和区高砂3-15-1第2庁舎	048-830-6991
千葉県教育委員会	260-8662	千葉市中央区市場町1-1中庁舎	043-223-4015
千葉市教育委員会	260-8730	千葉市中央区問屋町1-35	043-245-5908
東京都教育委員会	163-8001	新宿区西新宿2-8-1	03-5320-6710
神奈川県教育委員会	231-8509	横浜市中区日本大通33	045-210-8020
横浜市教育委員会	231-0017	浜市中区港町1-1	045-671-3243
山梨県教育委員会	400-8504	甲府市丸の内1-6-1	055-223-1741
長野県教育委員会	380-8570	長野市大字南長野字幅下692-2	026-235-7421
新潟県教育委員会	950-8570	新潟市新光町4-1	025-280-5587
静岡県教育委員会	420-8601	静岡市葵区追手町9-6	054-221-3675
富山県教育委員会	930-8501	富山市新総曲輪1-7	076-444-3430
石川県教育委員会	920-8575	金沢市鞍月1-1	076-225-1811
福井県教育委員会	910-8580	福井市大手3-17-1	0776-21-1111
愛知県教育委員会	460-8534	名古屋市中区三の丸3-1-2	052-954-6757
名古屋市教育委員会	460-8508	名古屋市中区三の丸3-1-1	052-972-3272
岐阜県教育委員会	500-8570	岐阜市藪田南2-1-1	058-272-8727
全国工業高等学校長協会	102-0072	千代田区飯田橋2-8-1	03-3261-1500
全国高等学校建築教育連絡協議会	188-0013	東京都西東京市向台町1-9-1 東京都立田無工業高等学校	042-464-2225
西日本工高建築連盟	545-0004	大阪府大阪市阿倍野区文の里1丁目7-2 大阪市立工芸高校	06-6623-0485
中国地区高等学校工業教育研究会建築系部会	734-0001	広島県広島市南区出汐2-4-75 広島県立広島工業高校	082-254-1421

東日本建築教育研究会 会員校 一覧（令和2年度）

1. 北海道

1-01	北海道	旭川工業高等学校	全日制	建築科	〒078-8804	旭川市緑が丘東4条1丁目1番1号	0166-65-4115
1-02	北海道	旭川工業高等学校	定時制	建築・土木科	〒078-8804	旭川市緑が丘東4条1丁目1番1号	0166-65-4115
1-03	北海道	小樽未来創造高等学校	全日制	建設科・建設システム科	〒047-8540	小樽市最上1丁目29番1号	0134-23-6105
1-04	北海道	小樽未来創造高等学校	定時制	電気・建築科建築コース	〒047-8540	小樽市最上1丁目29番1号	0134-23-6105
1-05	北海道	札幌工業高等学校	全日制	建築科	〒060-0820	札幌市北区北20条西13丁目	011-727-3341
1-06	北海道	札幌工業高等学校	定時制	建築科	〒060-0820	札幌市北区北20条西13丁目	011-727-3341
1-07	北海道	苫小牧工業高等学校	全日制	建築科	〒053-0035	苫小牧市字高丘6番地22	0144-36-3161
1-08	北海道	苫小牧工業高等学校	定時制	建築科	〒053-0035	苫小牧市字高丘6番地22	0144-36-3161
1-09	北海道	函館工業高等学校	全日制	建築科	〒041-0844	函館市川原町5番13号	0138-51-2271
1-10	北海道	帯広工業高等学校	全日制	建築科	〒080-0872	帯広市清流西2丁目8番地1	0155-48-5650
1-11	北海道	釧路工業高等学校	全日制	建築科	〒085-0821	釧路市鶴ヶ岱3丁目5番1号	0154-41-1285
1-12	北海道	名寄産業高等学校	全日制	建築システム科	〒096-0035	名寄市西5条北5丁目1番地	01654-2-3066
1-13	北海道	室蘭工業高等学校	全日制	建築科	〒050-0073	室蘭市宮の森町3-1-1	0143-44-5712
1-14	北海道	留萌高等学校	全日制	電気・建築科	〒077-0024	留萌市千鳥町4丁目91番地	0164-42-2474
1-15	北海道	北見工業高等学校	全日制	建設科建築コース	〒099-0878	北見市東相内町602番地	0157-36-5524

2. 青森県

2-01	青森県立	青森工業高等学校	全日制	建築科	〒039-3507	青森市大字馬屋尻字清水流204-1	017-737-3600
2-02	青森県立	弘前工業高等学校	全日制	建築科	〒036-8585	弘前市馬屋町6-2	0172-32-6241
2-03	青森県立	十和田工業高等学校	全日制	建築科	〒034-0001	十和田市大字三本木字下平215-1	0176-23-6178
2-04	八戸工業大学	第一高等学校	全日制	工業科	〒031-0822	八戸市白銀町右岩淵通7-10	0178-33-5121
2-05	八戸学院光星高等学校		全日制	工業技術科	〒031-8507	八戸市湊高台6-14-5	0178-33-4151
2-06	青森県立	八戸工業高等学校	全日制	土木・建築科	〒031-0801	八戸市江陽1丁目2-27	0178-22-7348

3. 岩手県

3-01	岩手県立	盛岡工業高等学校	全日制	建築・デザイン科	〒020-0841	盛岡市羽場18-11-1	019-638-3141
3-02	岩手県立	久慈工業高等学校	全日制	建設環境科	〒028-8201	九戸郡野田村大字野田26-62-17	0194-78-2123

4. 宮城県

4-01	宮城県	白石工業高等学校	全日制	建築科	〒989-0203	白石市郡山字鹿野43	0224-25-3240
4-02	宮城県	古川工業高等学校	全日制	建築科	〒989-6171	大崎市古川北町四丁目7番1号	0229-22-3166
4-03	宮城県	石巻工業高等学校	全日制	建築科	〒986-0851	石巻市真山5丁目1番1号	0225-22-6338
4-04	仙台市立	仙台工業高等学校	全日制	建築科	〒983-8543	仙台市宮城野区東宮城野3番1号	022-237-5341
4-05	仙台市立	仙台工業高等学校	定時制	建築土木科	〒983-8543	仙台市宮城野区東宮城野3番1号	022-237-5341

5. 秋田県

5-01	秋田県立	秋田工業高等学校	全日制	建築科	〒010-0902	秋田市保戸野金砂町3-1	018-823-7326
5-02	秋田県立	大曲工業高等学校	全日制	土木・建築科	〒014-0045	大仙市大曲若葉町3番17号	0187-63-4060
5-03	秋田県立	能代工業高等学校	全日制	建設科	〒016-0896	能代市盤若町3-1	0185-52-4148
5-04	秋田県立	由利工業高等学校	全日制	建築科	〒015-8530	由利本荘市石脇字田尻30	0184-22-5520
5-05	秋田県立	横手清陵学院高等学校	全日制	総合技術科	〒013-0041	横手市大沢字前田147番地の1	0182-35-4033
5-06	秋田県立	大館桂桜高等学校	全日制	土木・建築科	〒017-0872	大館市片山町三丁目10番43号	0186-59-6299

6. 山形県

6-01	山形県立	山形工業高等学校	全日制	建築科	〒990-0041	山形市緑町1丁目5番12号	023-622-4934
6-02	山形県立	米沢工業高等学校	全日制	建築科	〒992-0117	米沢市大字川井300番地	0238-28-7050
6-03	山形県立	鶴岡工業高等学校	全日制	建築科	〒997-0036	鶴岡市家中新町8-1	0235-22-5505
6-04	山形県立	新庄神室産業高等学校	全日制	環境デザイン科	〒996-0051	新庄市大字松本370	0233-28-8777
6-05	山形電波学園	創学館高等学校	全日制	やまがた創造工学科	〒994-0069	天童市清池東2丁目10番1号	023-655-2321

7. 福島県

7-01	福島県立	福島工業高等学校	全日制	建築科	〒960-8003	福島市森合字小松原1番地	024-557-1395
7-02	福島県立	福島工業高等学校	定時制	工業科	〒960-8003	福島市森合字小松原1番地	024-557-1395
7-03	福島県立	会津工業高等学校	全日制	建築インテリア科	〒965-0802	会津若松市徒之町1番37号	0242-27-7456
7-04	福島県立	郡山北工業高等学校	全日制	建築科	〒963-8052	郡山市八山田2丁目224番地	024-932-1199
7-05	福島県立	勿来工業高等学校	全日制	建築科	〒974-8261	いわき市植田町堂の作10番地	0246-63-5135

8. 栃木県

8-01	栃木県立	宇都宮工業高等学校	全日制	建築デザイン科	〒321-0198	宇都宮市雀宮町52番地	028-678-6500
8-02	栃木県立	真岡工業高等学校	全日制	建設科	〒321-4368	真岡市寺久保1丁目2番地9	0285-82-3303
8-03	栃木県立	今市工業高等学校	全日制	建設工学科	〒321-2336	日光市荊沢615番地	0288-21-1127
8-04	栃木県立	小山北桜高等学校	全日制	建築システム科	〒323-0802	小山市東山田448-29	0285-49-2932
8-05	栃木県立	那須清峰高等学校	全日制	建設工学科	〒329-2712	那須塩原市下永田6丁目4番地	0287-36-1155
8-06	足利大学附属	足利大学附属高等学校	全日制	建築科	〒326-0397	足利市福富町2142	0284-71-1285

9. 群馬県

9-01	群馬県立	前橋工業高等学校	全日制	建築科	〒371-0006	前橋市石関町137番地1	027-264-7100
9-02	群馬県立	前橋工業高等学校	定時制	建築科	〒371-0006	前橋市石関町137番地1	027-264-7100
9-03	群馬県立	高崎工業高等学校	全日制	建築科	〒370-0046	高崎市江木町700番地	027-323-5450
9-04	群馬県立	桐生工業高等学校	全日制	建設科	〒376-0054	桐生市西久方町1-1-41	0277-22-7141
9-05	群馬県立	館林商工高等学校	全日制	建築科	〒370-0701	邑楽郡明和町南大島660番地	0276-84-473

10. 埼玉県

10-01	埼玉県立	大宮工業高等学校	全日制	建築科	〒331-0802	さいたま市北区本郷町1970	048-651-0445
10-02	埼玉県立	大宮工業高等学校	定時制	工業技術科	〒331-0802	さいたま市北区本郷町1970	048-651-0445
10-03	埼玉県立	川越工業高等学校	全日制	建築科	〒350-0035	川越市西小仙波町2-28-1	049-222-0206
10-04	埼玉県立	春日部工業高等学校	全日制	建築科	〒344-0053	春日部市梅田本町1-1-1	048-761-5235
10-05	埼玉県立	熊谷工業高等学校	全日制	建築科	〒360-0832	熊谷市小島820番地	048-523-3354

11. 茨城県

11-01	茨城県立	水戸工業高等学校	全日制	建築科	〒310-0836	水戸市元吉田町1101	029-247-5711
11-02	茨城県立	土浦工業高等学校	全日制	建築科	〒300-0051	土浦市真鍋6丁目11番20号	029-821-1953
11-03	茨城県立	つくば工科高等学校	全日制	建築技術科	〒305-0043	つくば市谷田部1818	029-836-1441
11-04	茨城県立	下館工業高等学校	全日制	建設工学科	〒308-0847	筑西市玉戸1336-111	0296-22-3632

12. 千葉県

12-01	千葉県立	市川工業高等学校	全日制	建築科	〒272-0031	市川市平田3丁目10番10号	047-378-4186
12-02	千葉県立	市川工業高等学校	定時制	建築科	〒272-0031	市川市平田3丁目10番10号	047-378-4186
12-03	千葉県立	東総工業高等学校	全日制	建設科	〒289-2505	旭市鎌数字川西5146	0479-62-2522
12-04	千葉県立	京葉工業高等学校	全日制	建設科	〒263-0024	千葉市稲毛区穴川4-11-32	043-251-4197

13. 東京都

13-01	東京都立	蔵前工業高等学校	全日制	建築科	〒111-0051	台東区蔵前1-3-57	03-3862-4488
13-02	東京都立	蔵前工業高等学校	定時制	建築工学科	〒111-0051	台東区蔵前1-3-57	03-3862-4488
13-03	東京都立	墨田工業高等学校	全日制	建築科	〒135-0004	江東区森下5-1-7	03-3631-4928
13-04	東京都立	墨田工業高等学校	定時制	総合技術科	〒135-0004	江東区森下5-1-7	03-3631-4928
13-05	東京都立	葛西工業高等学校	全日制	建築科	〒132-0024	江戸川区一之江七丁目68番1号	03-3653-4111
13-06	東京都立	田無工業高等学校	全日制	建築科	〒188-0013	西東京市向台町1-9-1	042-464-2225
13-07	東京都立	総合工科高等学校	全日制	建築・都市工学科	〒157-0066	世田谷区成城9-25-1	03-3483-0204
13-08	東京都立	総合工科高等学校	定時制	総合技術科	〒157-0066	世田谷区成城9-25-1	03-3483-0204
13-09	日本工業大学	駒場高等学校	全日制	創造工学科	〒153-8508	目黒区駒場 1-35-32	03-3467-2130
13-10	東京工業大学	附属科学技術高等学校	全日制	科学・技術科	〒108-0023	港区芝浦3-3-6	03-3453-2251

14. 神奈川県

14-01	神奈川県立	神奈川工業高等学校	全日制	建設科	〒221-0812	横浜市神奈川区平川町19番地1	045-491-9461
14-02	神奈川県立	神奈川工業高等学校	定時制	建設科	〒221-0812	横浜市神奈川区平川町19番地1	045-491-9461
14-03	神奈川県立	向の岡工業高等学校	全日制	建設科	〒214-0022	川崎市多摩区堰1丁目28番地1号	044-833-9548
14-04	神奈川県立	藤沢工科高等学校	全日制	総合技術科	〒252-0803	藤沢市今田744	0466-43-3402
14-05	神奈川県立	小田原城北工業高等学校	全日制	建設科	〒250-0852	小田原市栢山200番地	0465-36-8587
14-06	神奈川県立	磯子工業高等学校	全日制	建設科	〒235-0023	横浜市磯子区森5-24-1	045-761-0251
14-07	川崎市立	川崎総合科学高等学校	全日制	建設工学科	〒212-0002	川崎市幸区小向仲野町5-1	044-511-7336

15. 山梨県

15-01	山梨県立	甲府工業高等学校	全日制	建築科	〒400-0026	甲府市塩部二丁目7-1	055-252-4896
15-02	山梨県立	甲府工業高等学校	定時制	建築科	〒400-0026	甲府市塩部二丁目7-1	055-252-4896
15-03	山梨県立	富士北稜高等学校	全日制	総合学科	〒403-0017	富士吉田市新西原1丁目23番1号	0555-22-4161

16. 新潟県

16-01	新潟県立	新潟工業高等学校	全日制	建築科	〒950-2024	新潟市西区小新西1丁目5番1号	025-266-1101
16-02	新潟県立	上越総合技術高等学校	全日制	建築・デザイン学科	〒943-8503	上越市本城町3-1	025-525-1160
16-03	新潟県立	新発田南高等学校	全日制	建築工学科	〒957-8567	新発田市大栄町3丁目6番6号	0254-22-2178
16-04	新潟県立	新潟県央工業高等学校	全日制	建設工学科	〒955-0823	三条市東本成寺13番1号	0256-32-5251
16-05	新潟県立	新津工業高等学校	全日制	日本建築科	〒956-0816	新潟市秋葉区新津東町1丁目12番9号	0250-22-3441

17. 長野県

17-01	長野県	長野工業高等学校	全日制	建築科	〒380-0948	長野市差出南3-9-1	026-227-8555
17-02	長野県	長野工業高等学校	定時制	建築科	〒380-0948	長野市差出南3-9-1	026-227-8557
17-03	長野県	池田工業高等学校	全日制	建築科	〒399-8601	北安曇郡池田町大字池田2524	0261-62-3124
17-04	長野県	飯田OIDE長姫高等学校	全日制	建築学科	〒395-0804	飯田市鼎名古熊2535-2	0265-22-7117
17-05	長野県	上田千曲高等学校	全日制	建築科	〒386-8585	上田市中之条626	0268-22-7070

18. 富山県

18-01	富山県立	高岡工芸高等学校	全日制	建築科	〒933-8518	高岡市中川1-1-20	0766-21-1630
18-02	富山県立	富山工業高等学校	全日制	建築工学科	〒930-0887	富山市五福2238番地	076-441-1971

19. 石川県

19-01	石川県立	小松工業高等学校	全日制	建設科	〒923-8567	小松市打越町丙67	0761-22-5481
19-02	石川県立	羽咋工業高等学校	全日制	建設造形科	〒925-8521	羽咋市西釜屋町ク21	0767-22-1193
19-03	金沢市立	工業高等学校	全日制	建築科	〒920-0344	金沢市畝田東1丁目1番地1	076-267-3101

20. 福井県

20-01	福井県立	武生工業高等学校	全日制	都市・建築科	〒915-0841	越前市文京1-14-16	0778-22-2730
20-02	福井県立	敦賀工業高等学校	全日制	建築システム科	〒914-0035	敦賀市山泉13号1番地	0770-25-1533

21. 静岡県

21-01	静岡県立	科学技術高等学校	全日制	建築デザイン科	〒420-0813	静岡市葵区長沼500番地の1	054-267-1100
21-02	静岡県立	沼津工業高等学校	全日制	建築科	〒410-0822	沼津市下香貫八重129-1	055-931-0343
21-03	静岡県立	沼津工業高等学校	定時制	工業技術科	〒410-0822	沼津市下香貫八重129-1	055-928-7101
21-04	静岡県立	浜松工業高等学校	全日制	建築科	〒433-8567	浜松市北区初生町1150番地	053-436-1101
21-05	静岡県立	島田工業高等学校	全日制	建築科	〒427-8541	島田市阿知ヶ谷201番地	0547-37-4194
21-06	静岡県立	伊豆総合高等学校	全日制	建築工学科	〒410-2401	伊豆市牧之郷892	0558-72-3322
21-07	静岡県立	天竜高等学校	全日制	総合学科	〒431-3314	浜松市天竜区二俣町二俣601番地	053-925-3139

2.2. 愛知県

22-01	愛知県立	城北つばさ高等学校	定時制	ものづくり科	〒462-0052	名古屋市北区福德町広瀬島350-4	052-915-8643
22-02	愛知県立	一宮工業高等学校	全日制	建築科	〒491-0804	一宮市千秋町佐野字辻田2112	0586-76-2255
22-03	愛知県立	豊橋工業高等学校	全日制	建築科	〒441-8141	豊橋市草間町官有地	0532-45-5635
22-04	愛知県立	半田工業高等学校	全日制	建築科	〒475-0916	半田市柗町3丁目1番地	0569-21-2164
22-05	愛知県立	碧南工業高等学校	全日制	建築科	〒447-0066	碧南市丸山町3丁目10番地	0566-42-2500
22-06	愛知県立	佐織工業高等学校	全日制	建築科	〒496-8018	愛西市洲高町蔭島1番地	0567-37-1288
22-07	名古屋市長	工芸高等学校	全日制	建築システム科	〒461-0027	名古屋市東区芳野二丁目7番51号	052-931-7541
22-08	名古屋学園	名古屋工業高等学校	全日制	建築科	〒466-0054	名古屋市昭和区円上町22-38	052-871-2681
22-09	愛知県立	愛知総合工科高等学校	全日制	建設科	〒464-0808	名古屋市千種区星ヶ丘山手107	052-788-2020

2.3. 岐阜県

23-01	岐阜県立	大垣工業高等学校	全日制	建設工学科	〒503-8521	大垣市南若森町301-1	0584-81-1280
23-02	岐阜県立	岐南工業高等学校	全日制	建築科	〒500-8389	岐阜市本荘3456-19	058-271-3151
23-03	岐阜県立	高山工業高等学校	全日制	建築インテリア科	〒506-0032	高山市千島町291番地	0577-32-0418
23-04	岐阜県立	中津川工業高等学校	全日制	建設工学科	〒509-9193	中津川市千旦林1521-3	0573-68-2115
23-05	岐阜県立	可児工業高等学校	全日制	建築工学科	〒509-0202	可児市中恵土2358番地1	0574-62-1185
23-06	岐阜県立	岐阜工業高等学校	全日制	建設工学科	〒501-6083	羽島郡笠松町常盤町1700番地	058-387-4141
23-07	関市長	関商工高等学校	全日制	建設工学科	〒501-3938	関市桐ヶ丘1-1	0575-22-4221

東日本建築教育研究会 会員校数（令和2年度）

ブロック	番号	都道府県	会員校数
北海道	1	北海道	15
東北	2	青森県	6
	3	岩手県	2
	4	宮城県	5
	5	秋田県	6
	6	山形県	5
	7	福島県	5
関東	8	栃木県	6
	9	群馬県	5
	10	埼玉県	5
	11	茨城県	4
	12	千葉県	4
	13	東京都	10
	14	神奈川県	7
15	山梨県	3	
北信越	16	新潟県	5
	17	長野県	5
	18	富山県	2
	19	石川県	3
	20	福井県	2
東海	21	静岡県	7
	22	愛知県	9
	23	岐阜県	7
合計			128

歴代理事長・会長

代	役職	任期		氏名	備考
初	理事長	昭和 26年11月	～ 36年5月	伏見三郎	
2	理事長	36年5月	～ 41年6月	中江 齊	
3	理事長	41年6月	～ 46年7月	富塚 信司	
4	会長	46年7月	～ 48年6月	長谷川 光次	
5	会長	48年6月	～ 51年5月	池田 寿男	
6	会長	51年5月	～ 52年1月	遊佐 五郎	
7	会長	52年6月	～ 53年6月	高橋 豊次	
8	会長	53年6月	～ 56年6月	堀 重雄	
9	会長	56年6月	～ 59年6月	国兼 光由	
10	会長	59年6月	～ 61年6月	楠見 善男	
11	会長	61年6月	～ 62年6月	加地 正義	
12	会長	62年6月	～ 平成 1年6月	松村 篤躬	
13	会長	平成 1年6月	～ 2年7月	加曾利 政男	
14	会長	2年7月	～ 5年6月	清水 守男	
15	会長	5年6月	～ 8年6月	吉村 義弘	
16	会長	8年6月	～ 11年6月	北島 敬己	
17	会長	11年6月	～ 12年6月	稲見 辰夫	
18	会長	12年6月	～ 14年7月	原田 昭	
19	会長	14年7月	～ 15年7月	堀川 忠義	
20	会長	15年7月	～ 17年7月	佐藤 清親	
21	会長	17年7月	～ 20年7月	能智 功	
22	会長	20年8月	～ 21年7月	佐藤 則夫	
23	会長	21年8月	～ 23年7月	平林 博	
24	会長	23年8月	～ 26年7月	豊田 善敬	
25	会長	26年8月	～ 28年7月	小林 晶代	
26	会長	28年8月	～ 29年7月	三神 幸男	
27	会長	29年8月	～ 令和 2年8月	平田 誠一	
28	会長	令和 2年8月	～	早川 忠憲	

加盟校以外の建築系設置校

西日本工高建築連盟加盟(33校)

府県	学 校 名	課程・科・コース・専攻	住 所	電 話	F A X	
三重	三重県立伊勢工業高等学校	全日制 建築科	〒516-0017 三重県伊勢市神久2-7-18	0596-23-2234	0596-23-2236	
	三重県立津工業高等学校	全日制 建設工学科	〒514-0823 三重県津市半田534	059-226-1285	059-224-8781	
	三重県立四日市工業高等学校	全日制 建築科	〒510-0886 三重県四日市市日永東3-4-63	059-346-2331	059-345-2717	
	三重県立四日市工業高等学校	定時制 住生活工学科	〒510-0886 三重県四日市市日永東3-4-63	059-346-3725	059-345-2717	
滋賀	滋賀県立彦根工業高等学校	全日制 建築科	〒522-0222 滋賀県彦根市南川瀬町1310	0749-28-2201	0749-28-2936	
京都	京都府立宮津高等学校	全日制 建築科	〒626-0034 京都府宮津市字滝馬23	0772-22-2116	0772-22-2117	
	京都市立京都学院高等学校	全日制 プロジェクト工学科	〒612-0884 京都府京都市伏見区深草西出山町23	075-646-1515	075-646-1516	
	京都市立伏見工業高等学校	定時制 工業技術科	〒612-0011 京都府京都市伏見区深草鈴塚町13	075-641-5121	075-641-5950	
大阪	大阪府立今宮工科高等学校	全日制 建築系	〒557-0024 大阪府大阪市西成区出城1-1-6	06-6631-0055	06-6645-7618	
	大阪府立今宮工科高等学校	定時制 建築系	〒557-0024 大阪府大阪市西成区出城1-1-6	06-6631-0055	06-6645-7618	
	大阪府立西野田工科高等学校	全日制 建設都市工学科	〒553-0007 大阪府大阪市福島区大開2-17-62	06-6461-0023	06-6461-3483	
	大阪府立西野田工科高等学校	定時制 生活デザイン系	〒553-0007 大阪府大阪市福島区大開2-17-62	06-6461-0023	06-6461-3483	
	大阪府立布施工科高等学校	全日制 建設設備系	〒577-0805 大阪府東大阪市宝持3-7-5	06-6722-0221	06-6722-0226	
	大阪府立工芸高等学校	全日制 建築デザイン科	〒545-0004 大阪府大阪市阿倍野区文の里1-7-2	06-6623-0485	06-6623-8419	
	大阪府立都島工業高等学校	全日制 建築科	〒534-0015 大阪府大阪市都島区善源寺町1-5-64	06-6921-0231	06-6925-3970	
	大阪府立都島第二工業高等学校	定時制 建築科	〒534-0015 大阪府大阪市都島区善源寺町1-5-64	06-6921-4236	06-6925-3969	
	堺市立堺高等学校	全日制 建築デザイン創造科	〒590-0025 大阪府堺市堺区向陵東町1-10-1	072-240-0840	072-252-6601	
	堺市立堺高等学校	定時制 建築創造科	〒590-0025 大阪府堺市堺区向陵東町1-10-1	072-240-0841	072-252-6404	
	兵庫	兵庫県立尼崎工業高等学校	全日制 建築科	〒660-0802 兵庫県尼崎市長洲中通1-13-1	06-6481-4841	06-6481-4843
		兵庫県立兵庫工業高等学校	全日制 建築科	〒652-0863 兵庫県神戸市兵庫区和田宮通2-1-63	078-671-1431	078-671-1435
兵庫県立兵庫工業高等学校		定時制 建築科	〒652-0863 兵庫県神戸市兵庫区和田宮通2-1-63	078-651-2811	078-651-2812	
兵庫県立東播工業高等学校		全日制 建築科	〒675-0057 兵庫県加古川市東神吉町神吉1748-1	079-432-6861	079-432-6862	
神戸市立科学技術高等学校		全日制 都市工学科	〒651-0072 兵庫県神戸市中央区脇浜町1-4-70	078-272-9900	078-272-9919	
奈良	奈良県立奈良朱雀高等学校	全日制 建築工学科	〒630-8031 奈良県奈良市柏木248	0742-33-0293	0742-33-9647	
	奈良県立吉野高等学校	全日制 建築工学科	〒639-3113 奈良県吉野郡吉野町飯貝680	0746-32-5151	0746-32-5025	
和歌山	和歌山県立和歌山工業高等学校	全日制 建築科	〒641-0036 和歌山県和歌山市西浜3-6-1	073-444-0158	073-444-2510	
	和歌山県立和歌山工業高等学校	定時制 建築科	〒641-0036 和歌山県和歌山市西浜3-6-1	073-444-2472	073-444-2487	
岡山	岡山県立岡山工業高等学校	全日制 建築科	〒700-0013 岡山県岡山市北区伊福町4-3-92	086-252-5231	086-252-7130	
	岡山県立津山工業高等学校	全日制 建築科	〒708-0004 岡山県津山市山北411-1	0868-22-4174	0868-22-4177	
	岡山県立水島工業高等学校	全日制 建築科	〒710-0807 岡山県倉敷市西阿知町1230	086-465-2504	086-465-4598	
	岡山県立東岡山工業高等学校	全日制 設備システム科	〒703-8217 岡山県岡山市中区土田290-1	086-279-0565	086-279-0567	
	岡山市立後楽館高等学校	全日制 総合学科	〒700-0807 岡山県岡山市北区南方1-3-15	086-226-7100	086-226-7109	
沖縄	沖縄県立沖縄工業高等学校	全日制 建築科	〒902-0062 沖縄県那覇市松川3-20-1	098-832-3831	098-855-5029	

西日本工高建築連盟加盟 外(1校)

県	学 校 名	課程・科・コース・専攻	住 所	電 話	FAX
兵庫	兵庫県立龍野北高等学校	全日制 環境建設工学科	〒679-4316 兵庫県たつの市新宮町芝田125-2	0791-75-2900	0791-75-2296

中国地区高等学校工業教育研究会建築系部会加盟(17校) ※岡山県の4校は西日本工高建築連盟に含む。

県	学 校 名	課程・科・コース・専攻	住 所	電 話	FAX
鳥取	鳥取県立米子工業高等学校	全日制 建設科	〒683-0052 鳥取県米子市博労町4-220	0859-22-9211	0859-22-9212
	鳥取県立鳥取工業高等学校	全日制 建築環境科	〒689-1103 鳥取県鳥取市生山111	0857-51-8011	0857-51-8499
島根	島根県立出雲工業高等学校	全日制 建築科	〒693-0022 島根県出雲市上塩冶町420	0853-21-3131	0853-21-7543
	島根県立江津工業高等学校	全日制 建築・電気科	〒695-0011 島根県江津市江津町1477	0855-52-2120	0855-52-2264
	島根県立松江工業高等学校	全日制 建築都市工学科	〒690-8528 島根県松江市古志原4-1-10	0852-67-2121	0852-67-2122
	島根県立松江工業高等学校	定時制 建築科	〒690-8528 島根県松江市古志原4-1-10	0852-67-2118	0852-67-2128
広島	広島県立広島工業高等学校	全日制 建築科	〒734-0001 広島県広島市南区出汐2-4-75	082-254-1421	082-253-3407
	広島県立福山工業高等学校	全日制 建築科	〒720-0815 広島県福山市野上町3-9-2	084-922-0261	084-922-3474
	広島県立宮島工業高等学校	全日制 建築科	〒739-0425 広島県廿日市市物見西二丁目6-1	0829-55-0143	0829-55-0609
	広島市立広島工業高等学校	全日制 建築科	〒734-0025 広島県広島市南区東本浦町1-18	082-282-2216	082-288-4169
	広島市立広島工業高等学校	定時制 工業技術科	〒734-0025 広島県広島市南区東本浦町1-18	082-282-2216	082-288-4169
	広島県立府中東高等学校	全日制 インテリア科	〒726-0021 広島県府中市土生町399-1	0847-41-3300	0847-41-6848
	広島県立総合技術高等学校	全日制 環境設備科	〒729-0417 広島県三原市本郷南5丁目25番1号	0848-86-4314	0848-86-3157
山口	山口県立下関工科高等学校	全日制 建設工学科	〒759-6613 山口県下関市富任町4-1-1	083-258-0065	083-258-0685
	山口県立萩商工高等学校	全日制 電気・建築科	〒758-0074 山口県萩市平安古町544番地	0838-22-0034	0838-22-2429
	山口県立柳井商工高等学校	全日制 建築・電子科	〒742-1352 山口県柳井市伊保庄2658	0820-22-5533	0820-22-5534

その他

県	学 校 名	課程・科・コース・専攻	住 所	電 話	FAX
徳 島	徳島県立つるぎ高等学校	全日制 建設科	〒779-4101 徳島県美馬郡つるぎ町貞光字馬出63-2	0883-62-3135	0883-62-4238
	徳島県立徳島科学技術高等学校	全日制 建設技術類	〒770-0006 徳島県徳島市北矢三町2-1-1	088-631-4185	088-631-1110
	徳島県立徳島科学技術高等学校	定時制 工業技術類	〒770-0006 徳島県徳島市北矢三町2-1-1	088-631-4188	088-631-4181
香 川	香川県立坂出工業高等学校	全日制 建築科	〒762-0051 香川県坂出市御供所町1-1-2	0877-46-5191	0877-46-5054
	香川県立高松工芸高等学校	全日制 建築科	〒760-0017 香川県高松市番町2-9-30	087-851-4144	087-851-4146
	香川県立高松工芸高等学校	定時制 建築科	〒760-0017 香川県高松市番町2-9-30	087-851-4144	087-851-4146
	香川県立多度津高等学校	全日制 建築科	〒764-8011 香川県仲多度郡多度津町栄町1-1-82	0877-33-2131	0877-33-2132
愛 媛	愛媛県立東予高等学校	全日制 建設工学科	〒799-1371 愛媛県西条市周布650	0898-64-2119	0898-64-4112
	愛媛県立松山工業高等学校	全日制 建築科	〒790-0021 愛媛県松山市真砂町1	089-931-8195	089-931-8860
	愛媛県立松山工業高等学校	定時制 建築科	〒790-0021 愛媛県松山市真砂町1	089-931-8198	089-931-8860
	学校法人 松山聖陵学園 松山聖陵高等学校	全日制 建築科	〒791-8016 愛媛県松山市久万/台1112	089-924-8783	089-926-2383
高 知	高知県立安芸桜ヶ丘高等学校	全日制 環境建設科	〒784-0026 高知県安芸市桜ヶ丘町784	0887-35-2020	0887-35-4370
	高知県立高知工業高等学校	全日制 建築科	〒780-8010 高知県高知市棧橋通2-11-6	088-831-9171	088-833-7666
	高知県立高知工業高等学校	定時制 建築科	〒780-8010 高知県高知市棧橋通2-11-6	088-831-9171	088-833-7666
	高知県立宿毛工業高等学校	全日制 建設科	〒788-0783 高知県宿毛市平田町戸内2272-2	0880-66-0346	0880-66-1016
福 岡	福岡県立浮羽工業高等学校	全日制 建築科	〒839-1233 福岡県久留米市田主丸町田主丸395-2	0943-72-3111	0943-72-4343
	福岡県立田川科学技術高等学校	全日制 科学技術科	〒825-0005 福岡県田川市鞆1900	0947-44-1041	0947-42-1213
	福岡県立戸畑工業高等学校	全日制 建築科	〒804-0052 福岡県北九州市戸畑区丸町3-10-1	093-881-3868	093-881-5108
	福岡県立福岡工業高等学校	全日制 建築科	〒814-8520 福岡県福岡市早良区荒江2-19-1	092-821-5831	092-822-5837
	福岡県立博多工業高等学校	全日制 建築科	〒814-0155 福岡県福岡市城南区東油山4-20-1	092-862-6575	092-862-8346
	福岡県立大川榊風高等学校	全日制 住環境科学科	〒831-0005 福岡県大川市向島1382	0944-87-2247	0944-86-6016
	学校法人大牟田学園 大牟田高等学校	全日制 建築科	〒837-0917 福岡県大牟田市大字草木852	0944-53-5011	0944-53-8251
	学校法人真颯館 真颯館高等学校	全日制 建築科	〒803-0837 福岡県北九州市小倉北区中井口5-1	093-561-1231	093-591-9595
	学校法人筑紫台学園 筑紫台高等学校	全日制 建築科	〒818-0119 福岡県太宰府市連歌屋1-1-1	092-923-0010	092-923-0073
	佐 賀	佐賀県立佐賀工業高等学校	全日制 建築科	〒840-0841 佐賀県佐賀市緑小路1-1	0952-24-4356
佐賀県立塩田工業高等学校		全日制 建築科	〒849-1411 佐賀県糟粕市塩田町大字馬場下甲1418	0954-66-2044	0954-66-9000
佐賀県立鳥栖工業高等学校		全日制 建築科	〒841-0051 佐賀県鳥栖市元町1918	0942-83-4134	0942-81-1019
佐賀県立唐津工業高等学校		全日制 建築科	〒847-0832 佐賀県唐津市石志字中ノ尾3072番1	0955-78-1155	0955-70-3021
学校法人江楠学園 北陵高等学校		全日制 建築科	〒849-0921 佐賀県佐賀市高木瀬西3-7-1	0952-30-8676	0952-33-5524
長 崎		長崎県立大村工業高等学校	全日制 建築科	〒856-0815 長崎県大村市森園町1079-3	0957-52-3772
	長崎県立佐世保工業高等学校	全日制 建築科	〒857-0134 長崎県佐世保市瀬戸越3-3-30	0956-49-5684	0956-49-8072
	長崎県立佐世保工業高等学校	定時制 建築科	〒857-0134 長崎県佐世保市瀬戸越3-3-30	0956-49-5684	0956-49-8072
	長崎県立島原工業高等学校	全日制 建築技術科	〒855-0073 長崎県島原市本光寺町4353	0957-62-2768	0957-63-2215
	長崎県立長崎工業高等学校	全日制 建築科	〒852-8052 長崎県長崎市岩屋町41-22	095-856-0115	095-856-0117
	長崎県立長崎工業高等学校	定時制 建築科	〒852-8052 長崎県長崎市岩屋町41-22	095-856-0115	095-856-0117
熊 本	熊本県立小川工業高等学校	全日制 建築科	〒869-0631 熊本県宇城市小川町北新田770	0964-43-1151	0964-43-4970
	熊本県立球磨工業高等学校	全日制 建築科	〒868-8515 熊本県人吉市城本町800	0966-22-4189	0966-22-5049
	熊本県立熊本工業高等学校	全日制 建築科	〒862-0953 熊本市中央区上京塚町5番1号	096-383-2105	096-385-4482
	熊本県立熊本工業高等学校	定時制 建築科	〒862-0953 熊本市中央区上京塚町5番1号	096-383-2105	096-385-4482
	熊本県立水俣工業高等学校	全日制 電気建築システム科	〒867-0063 熊本県水俣市洗切町11-1	0966-63-1285	0966-63-1205
	学校法人開新学園 開新高等学校	全日制 土木建築科	〒862-8677 熊本県熊本市中央区大江6丁目1番33号	096-366-1201	096-372-6052
大 分	大分県立大分工業高等学校	全日制 建築科	〒870-0948 大分県大分市芳河原台12-1	097-568-7322	097-568-7319
	大分県立鶴崎工業高等学校	全日制 建築科	〒870-0133 大分県大分市大字葛木509	097-527-5261	097-527-5263
	大分県立日田林工高等学校	全日制 建築土木科	〒877-0083 大分県日田市吹上町30	0973-22-5171	0973-22-5173
宮 崎	宮崎県立日向工業高等学校	全日制 建築科	〒883-0022 宮崎県日向市大字平岩8750	0982-57-1411	0982-57-2146
	宮崎県立都城工業高等学校	全日制 建設システム科	〒885-0084 宮崎県都城五十町2400	0986-22-4349	0986-22-5877
	宮崎県立宮崎工業高等学校	全日制 建築科	〒880-8567 宮崎県宮崎市天満町9-1	0985-51-7231	0985-51-7287
	宮崎県立宮崎工業高等学校	定時制 建築科	〒880-8567 宮崎県宮崎市天満町9-1	0985-51-1054	0985-51-1054
鹿 児 島	鹿児島県立出水工業高等学校	全日制 建築科	〒899-0214 鹿児島県出水市五万石町358	0996-62-0010	0996-62-0096
	鹿児島県立鹿児島工業高等学校	全日制 建築系	〒890-0014 鹿児島県鹿児島市草牟田2-57-1	099-222-9205	099-222-9206
	鹿児島県立加治木工業高等学校	全日制 建築科	〒899-5211 鹿児島県姪良市加治木町新富町131	0995-62-3166	0995-62-3168
	鹿児島県立鹿屋工業高等学校	全日制 建築科	〒893-0032 鹿児島県鹿屋市川西町4490	0994-42-2165	0994-42-4524
	鹿児島県立薩南工業高等学校	全日制 建築科	〒897-0302 鹿児島県南九州市知覧町郡5232	0993-83-2214	0993-83-2215
	学校法人川島学園 れいめい高等学校	全日制 工学科	〒895-0041 鹿児島県薩摩川内市隈之城町2205	0996-23-3178	0996-27-0920
沖 縄	沖縄県立名護商工高等学校	全日制 電建システム科	〒905-0019 沖縄県名護市大北4-1-23	0980-52-3278	0980-54-1489
	沖縄県立美里工業高等学校	全日制 建築科	〒904-2172 沖縄県沖縄市泡瀬5-42-2	098-937-5848	098-937-0842

令和2年度 賛助会員一覧

事業者	代表者	電話番号 FAX	住所
一般財団法人 建設業振興基金	理事長 佐々木 基	03-5473-4570 03-5473-1594	〒105-0001 東京都港区虎ノ門4丁目2番12号 虎ノ門4丁目MTビル2号館
株式会社 建築資料研究社/日建学院	代表取締役社長 馬場 栄一	03-5951-0281 03-5931-3477	〒171-0014 東京都豊島区池袋2-38-1 日建学院ビル6F
株式会社 建築ピボット	代表取締役社長 千葉 貴史	03-6821-1691 03-5978-6215	〒112-0014 東京都文京区関口2-3-3 目白坂STビル6F
株式会社 鈴木組	代表取締役 鈴木 央	03-3822-1785 03-3822-1787	〒113-0022 東京都文京区千駄木3-43-3 ATK千駄木ビル2F
一般社団法人 全国建築CAD連盟	代表理事 森 弘	052-962-5544 052-962-5570	〒461-0008 愛知県名古屋市中区武平町5-1 名古屋栄ビルディング7F
株式会社 総合資格/総合資格学院	代表取締役社長 岸 隆司	03-3340-2812 03-3340-8177	〒163-0557 東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル22F
戸田建設 全国利友会	会長 向井 敏雄	03-3535-1354	〒104-0032 東京都中央区八丁堀2-8-5 戸田建設(株)内
学校法人 中央工学校 中央工学校	校長 松田 正之	03-3906-1211 03-3966-1250	〒114-8543 東京都北区王子本町1-26-17
学校法人 片柳学園 日本工学院専門学校	校長 前野 一夫	03-3732-1111 03-3732-1112	〒144-8655 東京都大田区西蒲田5-23-22
学校法人 片柳学園 日本工学院八王子専門学校	校長 前野 一夫	042-637-3111 042-637-3112	〒192-0983 東京都八王子市片倉町1404-1
福井コンピュータアーキテクト 株式会社	代表取締役社長 佐藤 浩一	0570-039-291 03-6274-6860	〒104-0045 東京都中央区築地5-6-4 浜離宮三井ビルディング6F
メガソフト 株式会社	代表取締役社長 井町 良明	06-6131-5028 06-6131-5081	〒530-0015 大阪府大阪市北区西崎西2-4-12 梅田センタービル11F
学校法人 ものづくり大学	学長 赤松 明	048-564-3849 048-564-3509	〒361-0038 埼玉県行田市前谷333
学校法人 日建千葉学園 千葉日建工科専門学校	学校長 坂井 久光	043-241-1300 043-241-1302	〒260-0031 千葉県千葉市中央区新千葉2-20-1
学校法人 環境造形学園 インテリアセンタースクール 専門学校 ICSカレッジオブアーツ	学長 フランク・ラ・リヴィエレ	03-5701-2211 03-5701-2212	〒152-0022 東京都目黒区柿の木坂1-5-6
浅野工学園 浅野工学専門学校	学校長 中村 正明	045-421-0403 045-431-9724	〒221-0012 神奈川県横浜市神奈川区子安台1-3-1
鹿島事業協同組合連合会	理事長 中里 徹哉	03-3587-9547 03-5544-1715	〒107-8348 東京都港区赤坂6-5-11 鹿島建設(株)内
一般財団法人 建設物価調査会	理事長 北橋 建治	03-3663-4707 03-3663-4708	〒103-0011 東京都中央区日本橋大伝馬町11-8
学校法人 国際理工学園 国際理工情報デザイン専門学校	学校長 竹井 透	043-252-1920 043-287-6714	〒263-0024 千葉県千葉市稲毛区穴川3-8-11
佐藤興業株式会社	代表取締役社長 佐藤 周平	03-3294-1981 03-3295-9393	〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-10
美教出版株式会社	代表取締役社長 小田 良次	03-3238-7854 03-3238-7758	〒102-8377 東京都千代田区五番町5
清水建設株式会社	代表取締役社長 井上 和幸	03-3561-1153 03-3561-8694	〒104-8370 東京都中央区京橋2丁目16-1
住友林業ホームエンジニアリング 株式会社	代表取締役社長 高橋 利治	03-6911-3341 03-6730-3641	〒160-0023 東京都新宿区西新宿1-24-1 エステック情報ビル12F
星槎道都大学	学長 山本 一彦	011-372-3111 011-372-2580	〒061-1196 北海道北広島市中の沢149
職業能力開発短期大学校 東京建築カレッジ	学校長 小林 謙二	03-5950-1771 03-5950-1774	〒170-0014 東京都豊島区池袋一丁目8-6
学校法人 小山学園 専門学校 東京テクニカルカレッジ	学校長 白井 雅哲	03-3360-8881 03-3360-8820	〒164-8787 東京都中野区東中野4-2-3
ドラパス株式会社	代表取締役 佐藤 恒宣	03-3916-3201 03-3916-5532	〒114-0023 東京都北区滝野川7-26-7
公益社団法人 日本建築士会連合会	会長 近角 真一	03-3456-2061 03-3456-2067	〒108-0014 東京都港区芝5-26-20 建築会館5F
学校法人 富嶽学園 日本建築専門学校	校長 吉江 勝郎	0544-54-1541 0544-54-1405	〒418-0103 静岡県富士宮市上井出2730番地の5
日本工業大学	学長 成田 健一	0480-33-7507 0480-33-7527	〒345-8501 埼玉県南埼玉郡宮代町学園台4-1
一般社団法人 日本パーステック協会	理事長 宮後 浩	06-6267-5331 06-6267-5332	〒542-0081 大阪府中央区南船場1-5-11
職業訓練法人 全国建設産業教育訓練協会 富士教育訓練センター	会長 才賀 清二郎	0544-52-0968 0544-52-1336	〒418-0101 静岡県富士宮市根原492-8
武藤工業株式会社	代表取締役社長 磯邊 泰彦	03-6758-7130 03-6758-7139	〒151-8560 東京都世田谷区池尻3-1-3
LIXILビル建材技術専門学校	理事長 加藤 武	03-6706-7325	〒136-8535 東京都江東区大島2-1-1 LIXIL WINGビル

2019年度 事業報告/2020年度 事業計画

東日本建築教育研究会 事務局長
中江田 澄江

2019年度 事業報告

1. 総会・研究協議会

期 日：2019年8月1日（木）～8月2日（金）

開 場：ホテルライフオート札幌 札幌市中央区南10条西1丁目 TEL011-521-5211

- 1) 開会式
- 2) 総 会
- 3) 講演Ⅰ：学校法人北海道科学大学理事長
- 4) 研究協議Ⅰ（分科会）
- 5) 教育懇談会
- 6) 講演Ⅱ：文部科学省初等中等教育局児童生徒課産業教育振興室教科調査官
- 7) 研究協議Ⅱ（研究発表等）
- 8) 講 評
- 9) 閉会式
- 10) 研究視察

2. 夏期研究協議会（構造分科会 主催）

内 容：「高強度コンクリートの破壊試験」、現場見学

期 日：2019年8月8日（木）～8月9日（金）

会 場：浅野工学専門学校、春日・後楽園駅前地区第一種市街地再開発工事現場、東京都中央卸売市場（豊洲市場）

3. 理事会・主査会・委員会等の開催

- 1) 都道府県理事会 役員・都道府県理事で総会開催日に年1回開催
- 2) 常任理事会 役員・常任理事で年2回開催予定
- 3) 主査会 役員のうち、会長・副会長・主査・委員長・事務局長・会計で年6回開催予定
- 4) 各種委員会 分科会・委員会の長の召集により開催
- 5) 刊行物 (ア) 建築教育ニュース 2019年号（400部、1月発行）
(イ) 会員名簿（300部、7月発行）
(ウ) 参考書（基礎問題集・構造図集・法規学習ノート、共に実教出版発行）

4. コンクール・作品展示等 第38回全国高校生建築製図コンクール

募集期間：2019年11月11日（月）～11月15日（金）

5. 2019年度 生徒表彰 申 込 み：2020年1月末日 要項は本研究会 HP に掲載

6. その他 関係諸団体との連絡調整

2020年度 事業計画

1. 総会・研究協議会 第70回 秋田大会 新型コロナウイルス感染拡大防止のために次年度に延期し、臨時総会を行う

2. 夏期研究協議会（施工分科会 主催） 新型コロナウイルス感染拡大防止のために次年度に延期

3. 理事会・主査会・委員会等の開催

- 1) 都道府県理事会 役員・都道府県理事で総会開催日に年1回開催
- 2) 常任理事会 役員・常任理事で年2回開催
- 3) 主査会 役員のうち、会長・副会長・主査・委員長・事務局長・会計で年6回開催
- 4) 各種委員会 分科会・委員会の長の召集により開催
- 5) 刊行物 (ア) 70周年記念誌（新建築教育ニュース含む）（仕上り次第発行予定）
(イ) 各種参考書

4. コンクール・作品展示等 第39回全国高校生建築製図コンクール

募集期間：2020年11月9日（月）～11月13日（金）

5. 2020年度 生徒表彰 申 込 み：2021年1月末日、要項は本研究会 HP に掲載

6. その他 関係諸団体との連絡調整

2019年度会計報告

会長 平田 誠一
 会計 前田 潔

1. [収入額]

項 目	予 算 額	決 算 額	増 減 額	摘 要
会 費	832,000	832,000	-	128校×6500円
賛助金等	690,000	689,000	-1,000	賛助会員37社 個人会員9人
雑収入	50,000	50,000	0	全工協5万円
印 税	15,000	11,497	-3,503	実教出版
事業積立金	709,004	709,004	0	一般会計費に200,000移動
繰越金	330,831	330,831	0	
利 息	12	6	-6	(一般会計3円、事業積立金3円)
一般会計費	200,000	200,000	-	
合 計	2,826,847	2,822,338	-4,509	

2. [支出額]

項 目	予 算 額	決 算 額	増 減 額	摘 要
1) 事業費	1,726,000	1,514,720	-211,280	
旅費交通費	630,000	565,508	-64,492	総会役員交通、宿泊(北海道札幌市)
会報発行費	260,000	264,000	4,000	建築ニュース印刷
会員名簿発行費	200,000	174,960	-25,040	会員名簿印刷費
講習会補助	54,000	35,473	-18,527	夏期研究協議会補助(構造分科会)
ブロック奨励費	54,000	54,000	0	関東ブロック
製図コンクール運営費	100,000	91,654	-8,346	製図コンクール
分科会活動費(計画)	45,000	44,672	-328	
分科会活動費(構造)	45,000	44,900	-100	
分科会活動費(製図)	45,000	22,255	-22,745	
分科会活動費(施工)	45,000	37,848	-7,152	
分科会活動費(法規)	45,000	45,000	0	
委員会活動費(広報)	20,000	19,580	-420	
委員会活動費(資格)	45,000	6,870	-38,130	
委員会活動費(編集)	20,000	-	-20,000	
総会補助費	108,000	108,000	-	当該年度開催補助北海道5.4万円、次年度開催補助秋田5.4万円
講演費	10,000	-	-10,000	講演謝礼 今年度なし
2) 運営費	391,843	400,636		
会議費	10,000	7,548	-2,452	参与交通費
通信費	70,000	60,599	-9,401	総会通知、各種書類送付
全高建協会費	64,000	64,000	0	128校×500円
印刷費	40,000	32,102	-7,898	封筒代 生徒表彰印刷
事務費	50,000	104,387	54,387	事務局運営費 振込料 パソコン代
ホームページ維持費	130,000	132,000	2,000	
予備費	27,843	-	-27,843	賞状箱 発送用梱包材
支出合計		1,915,356		
3) 事業積立金	709,004	709,007	3	利息代 3円増
合 計	2,826,847	2,624,363	-202,484	

3. [差引残高および次年度繰越金]

差引残高	197,975
------	----------------

会計監査の結果、収支・記帳等相違ないことを認めます

令和2年3月31日

会計監査 笹崎 ひろみ
 会計監査 逸見 淳子

2020年4月1日

2020年度 会計予算

会長 平田 誠一
会計 前田 潔

1. [収入額]

項 目	予 算 額	摘 要
会 費	832,000	128校×6,500円
賛助金	659,000	3万円×14団体 2万円×1団体 1万円×21団体 個人会員9名
雑収入	50,000	全工協
印 税	12,000	実教出版（構造図集ほか）
事業積立金	709,007	
繰越金	197,975	
利 息	5	
合 計	2,459,987	

2. [支出額]

項 目	予 算 額	摘 要
1) 事業費	710,000	
70周年記念誌発行費	300,000	70周年記念誌（会員名簿・建築ニュース含む）
総会補助費	-	秋田大会開催延期のため（2021度開催年度で補助54,000）（2019年度に54,000支払済）
研究協議会補助	-	夏期研究協議会（施工分科会） 2021年度に延期のため
講演費	-	秋田大会開催延期のため
ブロック奨励費	-	2021年度に延期のため（次年度、東北ブロックに補助）
製図コンクール運営費	100,000	製図コンクール運営（ポスター作成費含む）
分科会活動費（計画）	45,000	
分科会活動費（構造）	45,000	
分科会活動費（製図）	45,000	
分科会活動費（施工）	45,000	
分科会活動費（法規）	45,000	
委員会活動費（広報）	20,000	
委員会活動費（資格）	45,000	
委員会活動費（編集）	20,000	
2) 運営費	1,140,980	
会議費	60,000	主査会 常任理事会
通信費	520,000	総会通知、記念誌発送、各書類発送 パソコン管理費 等
全高建協会費	64,000	128校×500円
印刷費	90,000	封筒代・生徒表彰印刷
事務費	60,000	事務局運営、事務消耗品、振込料
ホームページ維持費	150,000	
予備費	196,980	賞状箱・発送用梱包材費
3) 事業積立金	609,007	事業積立金709,007円から100,000円支出（年度当初における一般会計運営のため）
4) 合 計	2,459,987	

3. [差引残高]

-

事務局報告

東日本建築教育研究会 事務局長
中江田 澄江

1. 大会開催都道府県について

開催順序は以下のとおりです。

2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年
臨時総会 (70周年)	秋田	栃木	青森	山梨	群馬	岐阜	静岡
予定	予定	予定	予定	予定	予定	予定	予定

2. 東日本建築教育研究会HPおよび刊行物をご利用ください

HPには、各種要項・案内、申し込みフォームなどが掲載されております。

東日本建築教育研究会ホームページアドレス <http://www.hnkkk.org/>

3. 個人会員

田村 信義	千葉県立安房拓心高等学校
榎本 吉晃	安田学園高等学校
林原 紳二	鳥取県立米子工業高等学校
三河 友美	東京都立橘高等学校
林田 千鶴	東京都立橘高等学校
岩崎 あす佳	東京都立橘高等学校
大森 慎一	岩手県立水沢工業高等学校

4. 入会 なし

5. 退会 なし (2020年7月現在 会員校128校)

6. 本部事務局(交代)

(新)事務局

東京都立総合工科高等学校 → 東京都立田無工業高等学校

東京都立田無工業高等学校 建築科内

事務局長 小林 勝広

会計 富田 真理子

所在地

〒188-0013 東京都西東京市向台町1丁目9-1

東京都立田無工業高等学校 建築科内

TEL 042-464-2225 FAX 042-467-5532

本部事務局

E-mail jimu@hnkkk.org

目指せ、ビル外装のプロフェッショナル！



LIXILビル建材技術専門校

ビルサッシ、カーテンウォール施工の技術を学べます。

ホームページ <http://www.lbtc.jp/> お問い合わせ lbtc@lixil.com

高精度・高操作性の平行定規<A2対応>

Liner Board UM-06N8

MUTOH製平行定規。小さくてもほとんどの図面に対応できるA2サイズ。衝撃に強い2WAYシヨルダータイプの専用キャリングケース付きで、一級・二級建築士の試験会場への持ち込み可能です。



一級・二級建築士 受験用平行定規

熱溶解積層方式3Dプリンタ

Value 3D MagiX

日本品質MUTOH製3Dプリンタ。FDM方式の3Dプリンタは低価格なランニングコストが魅力。授業でも手軽にお使いいただけます。最小積層ピッチは0.05mm。造形サイズ300×300×300mmの大型造形が可能です。



武藤工業株式会社

HOME PAGE <http://www.mutoh.co.jp>

東京都世田谷区池尻 3-1-3 〒154-8560 TEL(03)6758-7000(代)

職業訓練法人 全国建設産業教育訓練協会

富士教育訓練センター

富士教育訓練センターでは、多くの実業高校生や専門学校生が建設業で仕事ができる技能を身に付けるため実習に取り組んでいます。

富士山西麓の恵まれた環境のもとで、手に職を目指す若者に実務教育のための充実した実習の場が用意されています。

新施設での充実した研修を

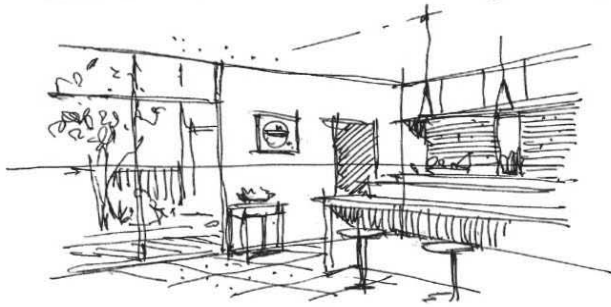


お気軽にお問合せください

〒418-0101 静岡県富士宮市根原 492-8
TEL 0544-52-0968 FAX 0544-52-1336

URL <http://www.fuji-kkc.ac.jp>

描くチカラは、伝えるチカラ。



ものづくりに携わる者が身につけておきたいスキル、それが『描くチカラ』。

『伝える』を『確実に伝わる』に変える、有効なコミュニケーションツールなのです。

一般社団法人
日本パーステック協会
Japan Pers-tech Association

手描きパースの普及・教育・指導 / パース検定主催

〒542-0081 大阪市中央区南船場 1-5-11

TEL : 06-6267-5331 FAX : 06-6267-5332

E-mail : info@pers-tech.org

立体を表現する力

パース検定

1級、2級、3級

2020年12月6日(日)開催

<http://www.pers-tech.org>

詳しくはHPをご覧ください

安全で快適な空間づくりを担うエキスパートを育成します。

建築学部建築学科に建築コース、生活環境デザインコースの1学部1学科2コース制により、全教員が連携しながら、建築・都市デザイン、構造・環境エンジニアリング、住空間デザイン、福祉空間デザインなど、幅広い分野を体験的に学べる層の厚い教育を実現します。住宅からまちづくりまで、魅力的で安全・快適な建築空間を生み出す建築家や建築技術者を養成します。

〔建築学科建築コース〕 建築・都市デザイン/構造・環境エンジニアリング

〔建築学科生活環境デザインコース〕 住空間デザイン/福祉空間デザイン



〒345-8501 埼玉県南埼玉郡宮代町学園台4-1
TEL. 0480-33-7676 <https://www.nit.ac.jp/>

日本工業大学

唯一！本格的に木造建築の技術と心が学べる

日本建築専門学校

一級建築士受験資格認定校（4大と同等）

〒418-0103 静岡県富士宮市上井出2730-5

TEL 0544-54-1541



建築士会とは、多種多様な建築分野で活躍する建築士が集まる、建築士法第22条の4で定められている社団法人で、全国47すべての都道府県に設立されている世界有数、日本最大のスペシャリスト集団です。

一級建築士中央指定登録機関 <http://www.kenchikushikai.or.jp>

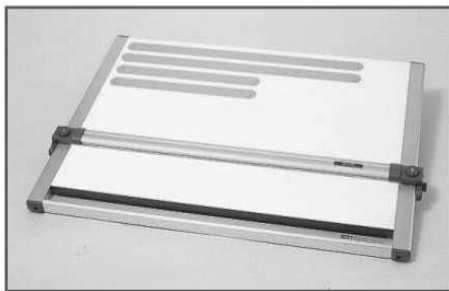
公益社団法人日本建築士会連合会

〒108-0014 東京都港区芝 5-26-20 建築会館5階 TEL 03-3456-2061

建築士受験用平行定規のベストセラー製品です！

DRAPAS BOARD DXM-601

- ◆マグネットボード仕様・携帯バッグ(防水)付属 ◆重量:3.0kg(本体)
- ◆外形寸法:505×685mm 製図範囲:426×600mm
- ◆マグネットプレート 500mm×2枚・300mm×2枚 付属



※ポートフォリオバッグ
付も選べます。



◆好評のドラパスボードの姉妹品 DXM900 (A1)

用途に応じ、製図台付
セットも用意できます。

お問い合わせは下記まで

設計製図・画材・デザイン材料の総合発売元

DRAPAS ドラパス株式会社

本社:東京都北区滝野川7-26-7 〒114-0023
TEL:03(3916)3201 FAX:03(3916)5532
<http://www.drapas.co.jp>



TTC

専門学校
東京テクニカルカレッジ

入学相談室 〒164-8787東京都中野区東中野4-2-3
☎ 0120-1969-04 Web <https://tec.ttc.ac.jp/>



- ◆建築監督科
- ◆建築科(昼・夜)
- ◆インテリア科
- ◆情報処理科
- ◆ゲームプログラミング科
- ◆Web動画クリエイター科
- ◆環境テクノロジー科
- ◆バイオテクノロジー科

建築業界で働きながら学ぶ お互いを高め合える仲間と出会う

東京建築カレッジの2つの特徴

- ①日本における建築の基本は木造にある、という考え方で、伝統的な大工技術を通して建築の基礎を学びます。
- ②働きながら学ぶスタイル。入学生は全員が建築従事者です。職業訓練なので、低学費負担で学べます。



伝統構法も取り入れた実習棟実習



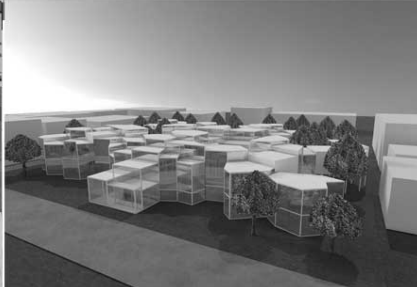
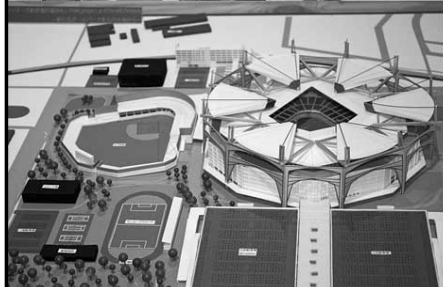
2021年4月入学生募集中

就職相談も受付中！相談はお気軽にくわしくは 学校webサイトをご覧ください。

厚生労働省所管、東京都認定 職業能力開発短期大学校

東京建築カレッジ

〒170-0014 東京都豊島区池袋1-8-6
TEL:03-5950-1771 info@doken-college.ac.jp





SEISA

星槎道都大学

美術学部 建築学科

- 建築プロフェッショナル専攻
- 建築デザイン専攻




〒061-1196 北海道北広島市中の沢149番地 TEL 011-372-3111 0120-870205

木造注文住宅 「住友林業の家」の施工専門会社

住友林業100%出資のグループ会社で、私たちは高品質の「住友林業の家」を技術で支えています！

確かな技能を育む訓練体制

入社後は、住友林業建築技術専門校にて1年間『木造軸組工法』の基礎を学んだのち、配属されます



毎年、国内の若手技能者がその技を競う「技能五輪全国大会」の建築大工職種で常に上位入賞を果たしています

(19年連続全国大会入賞)

「技能五輪国際大会(world skills)」にも出場実績があります

1999年ダ・モントリオール大会: 敢闘賞

2007年日本・静岡大会 : 銀賞

2011年イギリス・ロンドン大会 : 銀賞

2019年ロシア・カザン大会 : 9位

※毎年全国で50名の大工や左官職を採用しています



住友林業ホームエンジニアリング株式会社

本社 〒160-0023 東京都新宿区西新宿1-24-1 TEL:03-6911-3341 http://www.sumirin-he.co.jp/

たくみ

匠を目指してみませんか？

清水建設の施工協力会社求人情報サイトを開設しました。

建造物は沢山の専門工事が協力してつくりま

専門工事には「匠」の技が欠かせません。

職人になるという選択 匠を目指してみませんか？



新しい日本をつくるのは君だ！

匠を目指す人集まれ

検索

<https://www.shimztakumi.com/> 清水建設協力会社求人サイト



じっきょうのデジタル教材 ビジュアルコンテンツ シリーズ

木材加工DVD コンクリート試験DVD 溶接DVD

各DVD1枚組 定価（本体 15,000 円+税）

※指導資料扱いとなりますので、学校に出入りの書店様に直接ご注文下さい。



実教出版株式会社

<http://www.jikkyo.co.jp/>

本社 〒102-8377 東京都千代田区五番町5

TEL 03-3238-7773～7 FAX 03-3238-7755

大阪支社 〒532-0003 大阪市淀川区宮原5-1-3 NLC新大阪アースビル

TEL 06-6397-2400 FAX 06-6397-2402

九州支社 〒812-0011 福岡市博多区博多駅前3-2-1 日本生命博多駅前ビル

TEL 092-473-1841 FAX 092-471-7529



LOVE YOUR
NEIGHBOR,
WORK, COUNTRY.

私たちは 塗装技術を通じ 豊かな暮らしを提供します。



佐藤興業株式会社

SATO KOGYO CO.,LTD.

2017年度 第25回 全国建築塗装技能競技大会「内閣総理大臣賞」受賞

2017年度 東京都中小企業技能人材育成大賞 優秀賞受賞

2019年度 第26回 全国建築塗装技能競技大会「国土交通大臣賞」受賞

東京都千代田区神田駿河台 2-10 <http://www.p-sato.co.jp>

アットホーム教育と就職に強い！

◆建築設計科（2年制）

◆ビジュアルデザイン科（2年制）

◆ゲームクリエイター科（3年制）

◆建築士専攻科（1年制）※

（※2級建築士受験資格取得者対象）

◆ITスペシャリスト科（4年制）

◆情報システム科（2年制）



情報・ゲーム・デザイン・建築の総合学園
 学校 法人 **国際理工情報デザイン** 専門学校

〒263-0024 千葉市稲毛区穴川 3-8-11 お問い合わせ 0120-498-593

Webだからできる「建設物価」の新しいカタチ

豊富な情報量、電子版ならではの使いやすさにより、国、県、市町村、民間に幅広く使われています。

Web建設物価

- 01 Web限定情報が約20万単価
- 02 1契約で3人同時利用可能（標準版）
- 03 豊富なバックナンバーで保管場所の軽減
- 04 必要な情報の検索が簡単
- 05 Webならではの品目写真や価格推移グラフ
- 06 お気に入り機能で操作が効率的に

こんな教材が欲しかった！

まんがめざせ！現場監督

まんがシリーズ
第3弾!!

【平成27年5月発行】 | AB判 定価 本体 2,000円+税

現場のやりがいを
知ることができる一冊



これから建設業界を目指そうという学生の皆様におすすめします！



一般財団法人 建設物価調査会

☎ 電話でのお問い合わせ ☎ 0120-978-599 (9:00~17:00 土・日・祝日除く)

💻 パソコンからのお申込み <https://book.kensetu-navi.com/> 建設物価 Book Store 検索



100年をつくる会社 鹿島建設と共に働こう！



鹿島事業協同組合連合会

〒107-8348 東京都港区赤坂6-5-11 TEL 03-3587-9547

<http://kajima-kyoren.com>



建築系



横浜で本物を学ぶ「浅野の建築」
浅野工学専門学校

学校法人 浅野工学園

ASANO INSTITUTE OF TECHNOLOGY
本校の学科は「職業実践専門課程」として文部科学大臣から認定されています。

建築工学科 **建築デザイン科**

ご予約・
お問い合わせはこちらへ

<https://ssl.asano.ac.jp/event-mail/>
☎0120-19-2903 Mail:info@asano.ac.jp

学校説明会もやってます!
詳しくはこちらへ

<https://ssl.asano.ac.jp> または **浅野工学** **検索**

学校説明会
やってます!
気軽に参加
OK!

〒221-0012 横浜市神奈川区子安台1-3-1 ● 設定日以外の学校見学も受け付けています。随時お問い合わせください。

ICSカレッジオブアーツ



日本で最初のインテリア専門校で
建築・インテリア・家具の
デザイン・ものづくりを学ぶ



152-0022 東京都目黒区柿の木坂1-5-6
東急東横線「都立大学」駅下車 徒歩5分
Tel:0120-006-911 <http://www.ics.ac.jp>



設置学科

全日制2年コース

建築CAD技術科 (定員 80名)
デザイン設計科 (定員 29名)
環境創造科 (定員 25名)

全日制1年コース

建築経営研究科 (定員 29名)

日本の技術を世界へ

私たちが応援します。

千葉日建工科専門学校

「校外研修での集合写真」



「製図の授業」



「座学の授業」

お問い合わせ

〒260-0031
千葉市中央区
新千葉 2-20-1
TEL. 043-241-1300
FAX. 043-241-1302
<http://cnp.ac.jp>

本格的な実習で最先端の ものづくり技術を学べる工科大



小型の3Dプリンタ
1人1台の環境を実現



授業の約6割が実習・演習
各界一流の技術者から学ぶ



NHK学生ロボコン2019
本選出場



技能五輪全国大会
5種目16名の学生が出場

ものづくり大学

技能工芸学部 総合機械学科 (機械デザイン、ロボットシステム
AI・情報システム、生産システム)
建設学科 (木造建築、都市・建築、仕上・インテリア
建築デザイン)

〒361-0038 埼玉県行田市前谷333番地 Tel 048-564-3816 URL <http://www.iot.ac.jp/>

3DCGで学習する 建築・インテリア・プレゼンテーション

MEGASOFT®

主な学習効果

1 平面と立体の関係を容易に理解でき、空間把握力が育ちます



● 製図学習で作成した平面プランを入力

● 立体画面で再現した空間をすみずみまで確認

● 法規チェック、平面図/立面図をCADデータで出力

2 住宅デザイン、空間デザインの授業に広く活用されています

住宅デザイン、空間デザインを繰り返し検討することができるので、デザイン、イメージ力を養うことができます。



● 大牟田学園大牟田高等学校 生徒作品

3 プレゼンテーション力を養えます



● プレゼンボード機能で資料を作成し学習発表に利用

4 大工さんが作った3DCGムービーで学習する
「構造学習教材」付属



木造軸組構造・和室の構造
屋根の種類・階段・継手(木材の接合)

プロの現場でも使われています!

3DマイホームデザイナーPROは、大手ハウスメーカー、工務店、設計事務所など17000社以上の企業に導入されており、成約を勝ち取るためのプレゼンツールとして多くのプロフェッショナルユーザーから信頼されるツールとなっています。

学校向け住宅デザインソフトセット

3DマイホームデザイナーPRO9
スクールパック

標準価格: 40,000円~ (メディアキット1枚) (ボリュームライセンス1ライセンス)
※価格は全て税込価格 5,500円 + 34,500円

関連製品

3DマイホームデザイナーPRO9 EX スクールパック

「3DマイホームデザイナーPRO9スクールパック」にインテリア機能リフォーム機能を組み合わせた商品です。住宅建築に加えインテリアの授業にも最適です。

3DCGで学ぶ 福祉住環境スクールパック

福祉住環境について、3DCGによる画像と詳細な解説資料で学習できる教材です。
※3DマイホームデザイナーPRO9のオプション製品です。

※高層建築、CAD連携など、より本格的な建築設計に対応した3Dアーキテクト10 Professional アカデミックライセンスもございます。

学校導入事例をご覧ください → <http://www.megasoft.co.jp/3d/school/pro9/>

使いやすいと信頼性

メガソフト株式会社

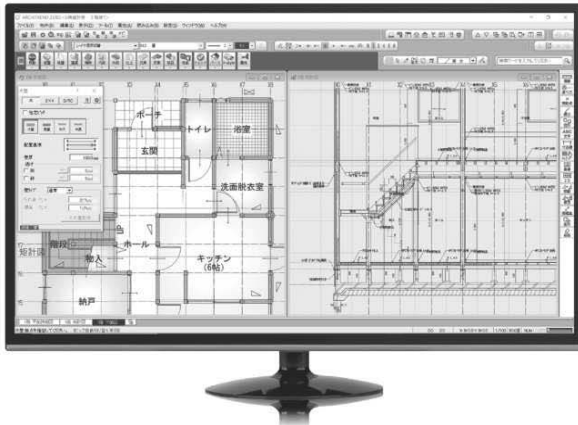
〒530-0015 大阪府大阪市北区中崎西2-4-12梅田センタービル11階 TEL.06-6147-2780 FAX.06-6131-5081 <http://www.megasoft.co.jp>

お問い合わせはこちらまで → インフォメーションセンター TEL.06-6147-2780

受付時間: 9:30~11:45 13:00~17:00 (土、日、祝祭日除く)



設計・CGパース・プレゼン資料はもちろん ZEH・省エネ・耐震・積算もARCHITRENDで!

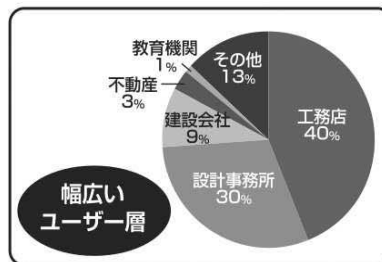
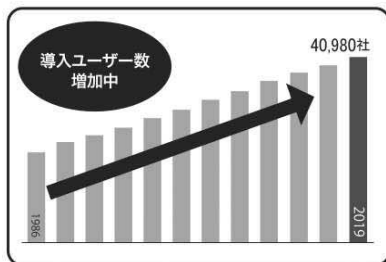


**ARCHITREND
 ZERO**

3D建築CADシステム アーキトレンドZERO

ARCHITREND ZEROは間取りや屋根等の基本データから、瞬時に3Dモデルを作成し、各種図面や書類、CGパースなどを一気に作成。圧倒的なスピードと操作性で、使う方一人ひとりにフィットする、流れるような高速オペレーションを実現します。

業界の動き、ユーザーニーズに応え、常に進化し続けるCAD、福井コンピュータの「ARCHITREND」シリーズ



■300以上の公共・教育機関で活躍

全国の公共・教育機関で、CAD実習の教材としても、幅広く導入いただいております。専用CADの高度な専門性と使いやすさは、学ぶ方の学習意欲向上にもつながり、社会の即戦力となるスキル身につける抜群のツールとなっています。

■万全のサポート体制

全国を網羅する31ヶ所の営業拠点に、各都道府県専任担当者を配置。地域未着型の充実サポートをご提供いたします。

全国
31 拠点



■導入実績全国40,000社、ユーザー様の声を製品に反映


弊社のCADシリーズは、工務店・設計事務所のユーザー様を中心に、建築CAD市場ではトップシェアの全国約41,000社、累計74,000本[※]の導入実績を誇っています。また、その実績を元に幅広くユーザー様からの声を集約し、商品開発に反映。常に業界にとってより良い製品開発を心掛け、販売を行っております。

[※]2019年10月現在

福井コンピュータアーキテクト株式会社

本社 / 〒910-0297 福井県坂井市丸岡町磯部福庄5-6
 札幌・盛岡・仙台・水戸・宇都宮・高崎・新潟・長野・さいたま・千葉・東京・川崎・静岡・名古屋・岐阜・福井・京都・大阪・神戸・岡山・高松・松山・広島・福岡・熊本・別府・宮崎・鹿児島・那覇

[福井コンピュータグループ総合案内]

 **0570-039-291**

無料体験版あります!

●体験版ダウンロード/資料請求は

福井コンピュータアーキテクト

検索

archi.fukuicompu.co.jp

中央工学校

110年を超える伝統と確かな教育実績！
即戦力として活躍できるプロフェッショナルを育成！

建築・木造・設備・室内・インテリア

《 建築関連学科 News 》

2019年 一級建築士試験『設計製図の試験』学校別合格者数発表

2019年一級建築士試験『設計製図の試験』

学校別合格者数一覧が公開されました。

専門学校では10年連続（2010年～2019年）

トップの合格実績でした。

※2010年以前は、専門学校の発表は無し。



順位	学校名	合格者数	順位	学校名	合格者数
1	日本大学	192	39	鹿児島大学	25
2	芝浦工業大学	110		名古屋大学	25
3	東京理科大学	95	41	中央工学校	24
4	早稲田大学	88	42	三重大学	23
5	近畿大学	66		室蘭工業大学	23
6	法政大学	60	44	武庫川女子大学	21
	明治大学	60		神奈川大学	20
8	工学院大学	57	45	日本女子大学	20
9	九州大学（九州芸術工科大学を含む）	53		豊橋技術科学大学	20
10	千葉大学	49	48	京都建築大専校	19
	京都工芸繊維大学	48	49	首都大学東京（東京都立大学）	18
11	東京電機大学	48		宇都宮大学	17
	神戸大学	46		中部大学	17
13	名古屋工業大学	46	50	東北工業大学	17
	名城大学	46		福井大学	17
16	東海大学	45		北海学園大学	17
17	大阪工業大学	43		北海道科学大学（北海道工業大学）	17
	東京都市大学（武蔵工業大学）	43	56	京都造形芸術大学	16
19	新潟大学	41		摂南大学	16
20	愛知工業大学	38		大分大学	16

2020年2月5日（公財）建築技術教育普及センター発表

《 中央工学校 News 》

2019年 新校舎2棟 完成

中央工学校では、学習環境の整備に重点を置き『王子キャンパス整備計画』を策定しました。傾斜した敷地条件を活かし、既存緑地と周辺環境に調和した校舎建て替えを中心とした設計内容です。想像力を育む学習空間の創出により、キャンパス全体が一体化した活動拠点となるよう整備を進めています。



土木・測量・造園・舞台美術・イベント設営・機械・CAD

※土木・測量関連学科では、卒業と同時に測量士補無試験取得学科あり

- 〒114-8543 東京都北区王子本町一丁目 26-17
- TEL：03-3905-1511（入学相談室）
- PC：<https://chuoko.ac.jp>（携帯からもアクセス可）
- Mail：info@chuoko.ac.jp



中央工学校の
オフィシャルHPに
アクセスできます。
資料請求や学校説明会・
体験入学の申込可能



専門学校 **コンソーシアム Tokyo** 加盟校
the consortium of colleges in Tokyo

<http://www.senmon-con-tokyo.jp/>

建設産業人材確保・育成推進協議会のご案内

建設産業人材確保・育成推進協議会（略称：人材協）は、国土交通省や文部科学省などの行政機関と、多くの建設産業団体により組織され、建設産業における、特に若者の担い手確保・育成・定着を推進する活動を行っています。

広報活動

建設業界ガイドブック

建設業についてわかりやすく解説した冊子です。授業や研修などで広く活用されています。

建設現場へGO!

建設業の担い手確保に関する様々な情報が集約されているポータルサイト。「建設業の仕事が知りたい」「建設産業で働く女性について」など、多くの情報を公開しています。

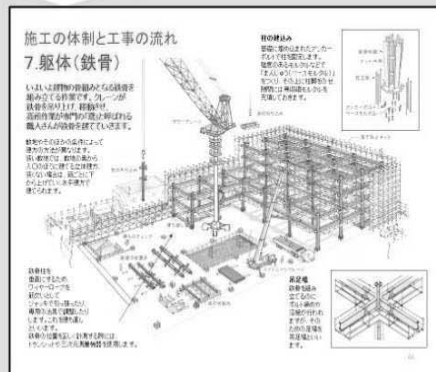


主な取り組み

教材

建設現場で働くための基礎知識シリーズ

建設業の役割やその魅力、建設現場で働くための基礎的な内容を網羅した教材です。建築工事編、土木工事編、内装仕上工事編を公開。WEB「建設現場へGO!」からご自由にダウンロードしご活用いただけます。また、Youtubeにて動画も公開中です！



建設産業若者会議

建設業への就職を考えている又は就職した若者（工業高校生、専門学校生、大学生、建設業就業者）が集まって、建設業の魅力発信のために有効な方策について語り合い、多くの提言が寄せられました。

提言

若い世代に直接情報を届けるには**SNS**が有効。小中学生は情報の取得手段が限られているため、**学生生活で得られる情報**が職業選択のきっかけとなる。

小学生や中学生に対して建設業の魅力を伝えるためには、**体験教室**などを行い、**建設業に触れる機会**を作ることが重要。

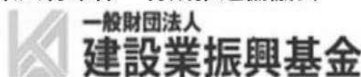


提言を受けて、
人材協は
Twitter
@kikin_jinzaikyoo
開設しました！



こんにちは。建設産業人材協では以下の最新情報や活動内容をお届けしています！
#建設現場へGO!
#作文コンクール
#実務施工体験研修
#建設現場で働くための基礎知識
#こども産が見学デー
#建設業界ガイドブック
#建設産業若者会議

建設産業人材確保・育成推進協議会
事務局



経営基盤整備支援センター人材育成支援課
TEL：03-5473-4572 FAX：03-5473-4594

『専門力』 + 『人間力』 確実な就職・デビューへ!

クリエイターズカレッジ

プロデューサー、カメラマン、声優、俳優、舞台スタッフ、マンガ家、アニメーターをめざす。

- ◎放送芸術科*
- ◎声優・演劇科*
- ◎演劇スタッフ科*
- ◎マンガ・アニメーション科4年制※◆*
- ◎マンガ・アニメーション科*

ITカレッジ

システムエンジニア、プログラマー、ネットワークエンジニア、セキュリティエンジニア、秘書、ホテルスタッフをめざす。

- ◎ITスペシャリスト科(4年制)※◆*
- ◎AIシステム科
- ◎情報処理科*
- ◎ネットワークセキュリティ科*
- ◎情報ビジネス科*
- 秘書・事務/ショップ販売◎/
ホテル●コース

*職業実践専門課程認定学科
※高度専門士付与学科 ◆編入制度あり
●日本工学院専門学校設置
◎日本工学院八王子専門学校設置

デザインカレッジ

ゲームプログラマー、CGデザイナー、グラフィックデザイナー、イラストレーター、インテリアデザイナー、プロダクトデザイナーをめざす。

- ◎ゲームクリエイター科4年制※◆
- ◎ゲームクリエイター科*
- ◎CG映像科(3年制)*
- ◎デザイン科(3年制)*
- グラフィックデザイン/イラストレーション/
インテリアデザイン/プロダクトデザイン専攻

テクノロジーカレッジ

ロボット技術者、電子・電気技術者、バイオ技術者、自動車整備士、建築士、土木技術者、CAD技術者をめざす。

- ◎ロボット科*
- ◎電子・電気科*
- ◎一級自動車整備科(4年制)※◆*
- ◎自動車整備科*
- ◎応用生物学科*
- ◎建築学科(4年制)※◆*
- ◎建築設計科*
- ◎土木・造園科*
- ◎機械設計科*

ミュージックカレッジ

ミュージシャン、コンサートスタッフ、レコーディングエンジニア、ダンサーをめざす。

- ◎ミュージックアーティスト科*
- プレイヤー/ヴォーカリスト/
サウンドクリエイターコース
- ◎コンサート・イベント科*
- ◎音響芸術科*
- ◎ダンスパフォーマンス科*

スポーツ・医療カレッジ

トレーナー、インストラクター、スポーツメーカー、ショップスタッフ、サッカー・テニスプレイヤー、鍼灸師、柔道整復師、医療事務スタッフをめざす。

- ◎スポーツトレーナー科3年制*
- ◎スポーツトレーナー科*
- ◎スポーツ健康学科3年制*
- スポーツインストラクター/スポーツビジネス/
サッカー/テニスコース
- ◎スポーツ健康学科*
- スポーツインストラクター/スポーツビジネス/
サッカー/テニスコース
- ◎鍼灸科(3年制)*
- ◎柔道整復科(3年制)*
- ◎医療事務科*

若きつくりびと奨学金設置

オープンキャンパス+体験入学 開催中!



蒲田
キャンパス



八王子
キャンパス



日本工学院 検索

楽しく学んで、しっかり就職。

日本工学院

www.neec.ac.jp

日本工学院専門学校

☎0120-123-351 〒144-8655 東京都大田区西蒲田5-23-22

日本工学院八王子専門学校

☎0120-444-700 〒192-0983 東京都八王子市片倉町1404-1

LINE @nihonkougakuin Twitter @neec_official Instagram nihonkogakuin

姉妹校 日本工学院北海道専門学校 併設校 東京工科大学 日本工学院を卒業後、併設校の東京工科大学へ有利に編入できる制度があります。

最先端技術BIMと資格を手に入れ、業界最前線へ

一級建築士をめざす!

建築学科 高度専門士 (4年制)※

BIM専攻/建築・インテリア設計専攻/
建築構造・設備専攻/建築施工専攻
放送大学とのダブルスクールで「学士」も取得可能!
卒業後に大学院進学をめざすこともできます。

二級建築士をめざす!

建築設計科 (2年制)※

BIM専攻/建築・インテリア設計専攻/
建築構造・設備専攻/建築施工専攻
4年制への編入で在学中に二級建築士を取得可能!
他大学への編入実績も豊富。

- 土木・造園科**※☆ | **ロボット科**※☆ | **一級自動車整備科**高度専門士※☆ | **自動車整備科**※☆
電子・電気科※ | **機械設計科**※ | **応用生物学科**※☆

※職業実践専門課程認定学科
☆八王子校のみ設置



建築学科/建築設計科 News & Topics

- ◆**建築士合格実績** [2016年~2019年]
二級建築士・木造建築士
119名合格(在学中)
- ◆**主な就職先・大学編入学実績** [2016年~2019年]
東証一部上場企業 公務員 大学編入学
144名 **4名** **23名**
- ◆建設の最先端設計技法“BIM”を学び、
業界最大手の日建設計など、BIM関連企業へ
多数就職! ※BIM=ビルディング・インフォメーション・モデリング
- ◆**建築学科[4年制]の卒業生が**
「首都大学東京大学院」「芝浦工業大学大学院」
「工学院大学大学院」「武蔵野大学大学院」に**進学!**
- ◆**日本建築家協会主催の東京都学生卒業設計
コンクールで全国代表に選出**
※専門学校では唯一本校学生のみ
- ◆**「リアルプロジェクト」**
学生のアイデアでマンションリフォームが
具現化
- ◆主張する「みせ」学生デザインコンペに**多数入賞!**

高校生いす デザインコンテスト | 高校生 けんちく コンテスト | 高校生 ものづくり川柳 コンテスト

日本工学院では、高校生が持つクリエイティブな才能や能力を発掘し、夢をつかんでもらうための大きなチャンスとなる、各種「高校生コンテスト」を実施しています。

楽しく学んで、しっかり就職。

日本工学院

日本工学院専門学校

☎ 0120-123-351 〒144-8655 東京都大田区西蒲田5-23-22

日本工学院八王子専門学校

☎ 0120-444-700 〒192-0983 東京都八王子市片倉町1404-1



クリエイターズカレッジ | デザインカレッジ | ミュージックカレッジ | ITカレッジ | テクノロジーカレッジ | スポーツ・医療カレッジ

■URL <https://www.neec.ac.jp/> ■Eメール info@stf.neec.ac.jp [@nihonkougakuin](https://twitter.com/nihonkougakuin) [@neec_official](https://www.facebook.com/neec_official) [nihonkogakuin](https://www.instagram.com/nihonkogakuin)

戸田建設全国利友会



戸田建設全国利友会は、戸田建設のパートナー企業として
さまざまな建設プロジェクトを実現する1,500社の専門工事会社集団です。

【支部組織】

札幌利友会	〒060-8535	北海道札幌市中央区北3条東2-2	TEL.011-231-9211
東北利友会	〒980-0811	宮城県仙台市青葉区一番町3-3-6 星和仙台ビル	TEL.022-222-1257
関東利友会	〒330-0063	埼玉県さいたま市浦和区高砂2-6-5 浦和大栄ビル	TEL.048-827-1418
千葉利友会	〒260-0031	千葉県千葉市中央区新千葉1-4-3 フコク生命ビル	TEL.043-242-4466
東京利友会	〒108-0023	東京都港区芝浦3-9-1 芝浦ルネサイトタワー	TEL.03-3535-1501
首都圏土木利友会	〒103-0023	東京都中央区日本橋本町2-7-1	TEL.03-3535-1580
横浜利友会	〒220-0012	神奈川県横浜市西区みなとみらい4-4-2 横浜ブルーアベニュー	TEL.045-228-8207
名古屋利友会	〒461-0001	愛知県名古屋市東区泉1-22-22	TEL.052-951-8541
大阪利友会	〒550-0005	大阪府大阪市西区西本町1-13-47 新信濃橋ビル	TEL.06-6531-3886
広島利友会	〒730-0044	広島県広島市中区宝町1-20	TEL.082-545-7500
四国利友会	〒760-0062	香川県高松市塩上町2-8-19	TEL.087-835-1153
九州利友会	〒810-8502	福岡県福岡市中央区天神2-13-7 福岡平和ビル	TEL.092-753-4111
全国利友会合同事務局	〒104-0031	東京都中央区京橋2-8-4-301	TEL.03-3561-5332
戸田建設株式会社本社	〒104-0032	東京都中央区八丁堀2-8-5	TEL.03-3535-1354

「現場見学」、「出前講座」、「インターンシップ」などご協力致します。詳細はHPをご覧ください。
採用等に関しては各支部宛にお問い合わせください。



一般財団法人 戸田みらい基金

戸田みらい基金では、建設に関する教育振興活動に係る費用の全額または一部を補助することにより、教育関連団体・高校・工業高校等による創意あふれる取り組みを奨励しています。

第1回	2019年5月	助成A:3団体	助成B:18校
第2回	2020年5月	助成A:2団体(コロナのため辞退)	助成B:27校
第3回	2021年1月募集予定		

助成A:教育関連団体等の取り組み／助成B:高校・工業高校等の取り組み
過去の助成実績などの詳細は財団ホームページをご覧ください。

〈お問い合わせ〉

一般財団法人 戸田みらい基金 事務局
〒104-0032 東京都中央区八丁堀2-8-5
TEL. 03-3564-2711
E-mail. info@toda-mirai.or.jp



全国工業高等学校長協会・対象
ジュニアマイスター顕彰制度 資格



花笑む

建築CAD検定試験は、CADの操作技能レベルを客観的に判断し社会に証明するもので、全国の教育機関で採用される日本最大級のCADの実技検定試験です。

また、ジュニアマイスター顕彰制度の対象になっており、昨年度は3,646名の高校生が当資格の取得に向け果敢に挑戦されました。

試験はすべて実技試験で、一定の建築知識をもとに与えられた条件のもと建築一般図を完成させる、あるいは課題図面を正確にトレースするなど、CAD操作のスペシャリストとして認定されます。

今や88,500余名の有資格者の方々が社会の第一線で活躍しており、年々CAD技術者のニーズが増え続ける中、当試験に対して有能な人材確保を目指す産業界からも熱い注目を集めています。

ジュニアマイスター顕彰制度の得点

准1級	2級	3級	4級
20点	12点	4点	2点

※「令和元年度後期区分表」より

建築CAD検定試験 実施概要

受験方法

試験日

受験会場

団体受験

1・4・7・10月(年4回)
※准1級は10月のみ

全国の教育機関にて実施


一般受験

4・10月(年2回)

全国主要都市の認定会場にて実施
※各回毎に異なりますので願書にてご確認ください。

令和元年度技能表彰制度 表彰校のご紹介(高校の部)

- 最優秀団体賞 / << 2級 >> 長崎県立長崎工業高等学校(第79回) 島根県立出雲工業高等学校(第77回)
<< 3級 >> 広島県立宮島工業高等学校 建築科(第76回)
<< 4級 >> 北海道帯広工業高等学校(第79回) 長崎県立大村工業高等学校(第77回)
- 優秀団体賞 / << 3級 >> 広島県立宮島工業高等学校 インテリア科(第78回)
<< 4級 >> 北海道函館工業高等学校(第79回) 秋田県立由利工業高等学校(第79回)
山口県立萩商工高等学校(第79回) 群馬県立前橋工業高等学校(第77回)
和歌山県立和歌山工業高等学校(第77回) 長崎県立佐世保工業高等学校(第77回)

◆試験の詳細についてはホームページをご覧ください  <http://www.aacl.gr.jp>



主催

一般社団法人
全国建築CAD連盟 試験センター

(本部) 〒461-0008 名古屋市中区武平町5-1 名古屋栄ビルディング7階 TEL. 052-962-5544 / FAX. 052-962-5570 [E-mail] info@aacl.gr.jp

受験資格緩和や実務経験の対象実務が拡大!!
令和2年 新しい建築士試験がスタート!

総合資格学院は 日本一の合格実績!

No.1



建築士受験生を応援します

おかげさまで総合資格学院は「合格実績日本一」を達成しました。これからも有資格者の育成を通じて、業界の発展に貢献して参ります。

総合資格学院
学院長 岸 隆司



全国ストレート合格者のおよそ3人に2人は当学院の当年度受講生!



全国合格者のおよそ6割は当学院の当年度受講生!



全国合格者の2人に1人以上は当学院の受講生!

※当学院のNo.1に関する表示は、公正取引委員会「No.1表示に関する実態調査報告書」に基づき掲載しております。 ※全国合格者数・全国ストレート合格者数は、(公財)建築技術教育普及センター発表に基づきます。 ※学科・製図ストレート合格者とは、2019年度の1級建築士学科試験に合格し、2019年度の1級建築士設計製図試験にストレートで合格した方です。

2019年度 1級建築士 設計製図試験

過年度学科合格者設計製図試験合格率



過年度学科合格者当年度受講生1,990名中/
合格者1,043名 (2020年2月5日現在)

学習方法の選択で
合格に大きな影響が!



独学、他スクール利用受験生
2,619名中/合格者832名

2019年度 2級建築士 設計製図試験

当学院当年度
受講生合格者数

2,080名

全国合格者数5,037名

全国合格者の4割以上(占有率41.3%)は当学院の当年度受講生!

当学院基準達成
当年度受講生合格率

80.2%

全国合格率
46.3%に対して
(2019年12月5日現在)

9割出席・9割宿題提出・模擬試験2ラック1達成当年度受講生1,206名中/合格者967名

建設業界研究 セミナー

全学年対象

開催費用
無料

授業1コマまたは2コマ、
貴校教室をお借りして実施!

建設業界の仕事内容・職種 / 業界の動向
地元企業の採用情報 / 役立つ資格 / 企業紹介 など

他、ビジネスマナー講習や保護者向けセミナーなど
先生方のご要望に応じ、最適な内容をご提案します!

2級建築/土木施工管理技士

合格支援サービス — すべて無料 —

在学中から2級建築 / 土木施工管理技術検定学科
試験合格をめざす学生を対象に、ガイダンスを実施!

当学院オリジナルの学習教材を見本として
献本。副教材としてご検討ください。

大好評「無料学科模擬試験」
日々の学習成果を客観的に把握。
試験結果通知票で弱点を分析!



各種お申し込み・ご相談は
当学院、学校法人課まで

お気軽にお問い合わせください!

学校法人課TEL.03-3340-2810 MAIL.kenchiku@shikaku.co.jp



総合資格学院



スクールサイト
コーポレートサイト

www.shikaku.co.jp

www.sogoshikaku.co.jp

教材検討用のサンプルを**無料**プレゼント



建築関係法令集 法令編 令和3年度版

令和2年11月発売予定

- ◇試験会場へ持ち込み可能
- ◇1ページの掲載条文が豊富
- ◇厚さ約2.8cmの薄型なのでカバンに入れやすく、開いたときの安定感が抜群
- ◇建築士試験に必要な「建築基準法」「関係法令」「関係告示」を多数収録

判型:B5判 頁:1,211ページ 予価:2,800円+税

※画像は過年度版のものです。

見やすい!
引きやすい!



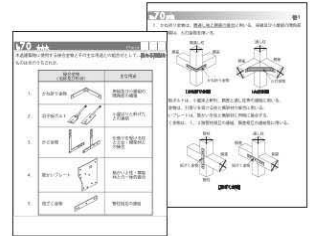
2級建築士試験 学科厳選問題集500+100 令和3年度版

令和2年11月発売予定

- ◇過去問から厳選した科目別重要問題500問(各学科125問)を収録!
- ◇巻末には令和2年本試験100問を収録!
- ◇各問題には難易度と、学習に便利な理解度チェック欄付き
- ◇新傾向問題を過去問よりピックアップし、解説も新傾向に対応

判型:A5判 頁:1,001ページ 予価:2,900円+税

※画像は過年度版のものです。

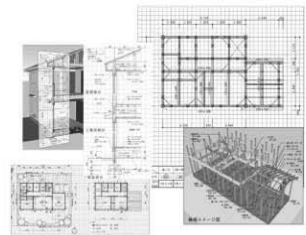


2級建築士設計製図テキスト 令和2年度版

好評発売中

- ◇図面の見やすさにこだわったA4サイズ
- ◇線の引き方から伏図や部分詳細図まで、建築士試験に必要な技術を解説!
- ◇当年度の課題予想に合わせたオリジナル課題を収録!

判型:A4判 頁:250ページ 定価:3,800円+税

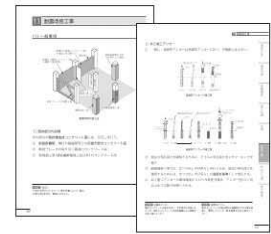


2級建築施工管理技士 学科試験テキスト/学科・実地 問題・解説 令和2年度版

好評発売中

- ◇両方ともA5サイズで、持ち運びがらくちん
- ◇テキストは重要ポイントを隠せるマジックシート付!
- ◇問題集は解答解説を取り外せる別冊方式
- ◇解説ページに図版や表を多用し、初学者にもわかりやすい

テキスト 判型:A5判 頁:513ページ 定価:2,200円+税
問題集 判型:A5判 頁:527ページ 定価:1,700円+税



お申込方法

メールにて、下記必要事項をご記入のうえお申込みください。
【学校名/お名前/お名前フリガナ/送付先住所/電話番号】

Mail: books@shikaku.co.jp

QRコードから
メールはこちら▶



東京都知事認定

株式会社 鈴木組 ・ 鈴木職業訓練校



「とびを架設工^{たか}に変える！！」

当社は建設業専門業種 鳶の職人の会社です。平成 6 年 東京都知事認定職業訓練校「建築施工系とび科」を開校し、現在 26 期生の新卒者（高校・大学・専門学校）が入社して 1 年間 訓練校にて、座学・実技の授業（訓練）を受け 2 年目から現場で活躍出来る様、取得可能な玉掛技能講習・クレーン運転 5 t 未満特別教育・研削といし特別教育の資格取得をしています。

訓練校での授業内容

計 1606 時間

学科	普通学科	48 時間	実技	系基礎実技	188 時間
	系基礎学科	344 時間		専攻実技	824 時間
	選考学科	202 時間			

【最近の主たる当社施工実績】

- ・新タワー(東京スカイツリー) 2012.4 竣工
- ・新宿駅新南口ビル及びバスタ新宿 2014.3 竣工
- ・東京農業大学世田谷キャンパス新研究棟整備 2019.11 竣工
- ・神田錦町二丁目計画新築工事 2020.2 竣工
- ・オリンピックアクアティクスセンター2020.3 竣工
- ・高輪ゲートウェイ駅 2020.3 竣工
- ・中央新幹線品川駅新設 2020.8 施工中
- ・パレスホテル 2012.4 竣工
- ・丸の内 1 - 3 計画 2020.8 施工中
- 他



富士教育訓練センターでの鉄骨建方実習

株式会社鈴木組（本社）

〒113-0022 東京都文京区千駄木 3-43-3
 電話：03-3822-1785 FAX：03-3822-1787

鈴木職業訓練校

〒121-0012 東京都足立区青井 4-44-20
 電話：03-5681-1833 FAX：03-5681-1833



インターンシップ、学校見学も随時受付中



鈴木職業訓練校ってどんなところ

建築設計・製図CAD

DRA-CAD18

クラウドでつながる モバイルにつなげる 情報が繋がる

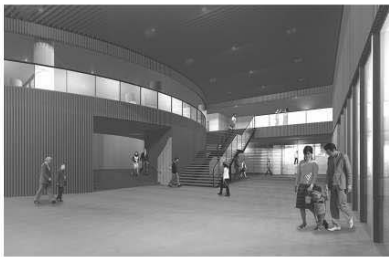
シンプルで自由度の高い国産の建築設計・製図CAD。

建築の企画から生産、運用までのあらゆる場面を強力に支援します。

※教育版価格は別途お問い合わせください。

》設計支援

日影・天空率や、面積表、採光、構造、電気設備コマンドも標準装備です。



データ提供：株式会社秦・伊藤設計 様

》操作性

直感的な操作を可能にする、画面デザイン、メニュー構成でスマートに操作できます。レイヤーはサムネイル表示で分かりやすく操作できます。

》互換性

PDF入出力をはじめ、AutoCADやJw_cadとの互換性に優れています。さらに、BIMやSketchUpのデータも利用できます。

建築設計プラットフォーム

i-ARM

建築の企画・基本設計の段階でデザイン検討から法適合確認、設計図書作成が可能で3次元の建築設計ソフトウェアです。

直観的なユーザーインターフェースで3Dモデリングを行い、多彩なビジュアル表現で設計情報を確認できるので、頭の中にあるイメージをスムーズにかたちにすることができます。

建築オブジェクトで構成される立体モデルを軸に、建築法規制確認や環境解析、各種設計図書の作成やプレゼンテーションなど、企画・基本設計の一連の作業に必要とされる機能が充実しています。



株式会社 **建築ピボット**
(構造システム・グループ)
<https://www.pivot.co.jp/>

本社営業 〒112-0014 東京都文京区関口2-3-3 TEL 03-6821-1691 FAX 03-5978-6215

大阪支社 06-6232-0760 札幌営業所 011-218-6628 仙台営業所 022-267-2811 名古屋営業所 052-583-0350 福岡営業所 092-716-9311

RC/S/CFT造建物の一貫構造計算

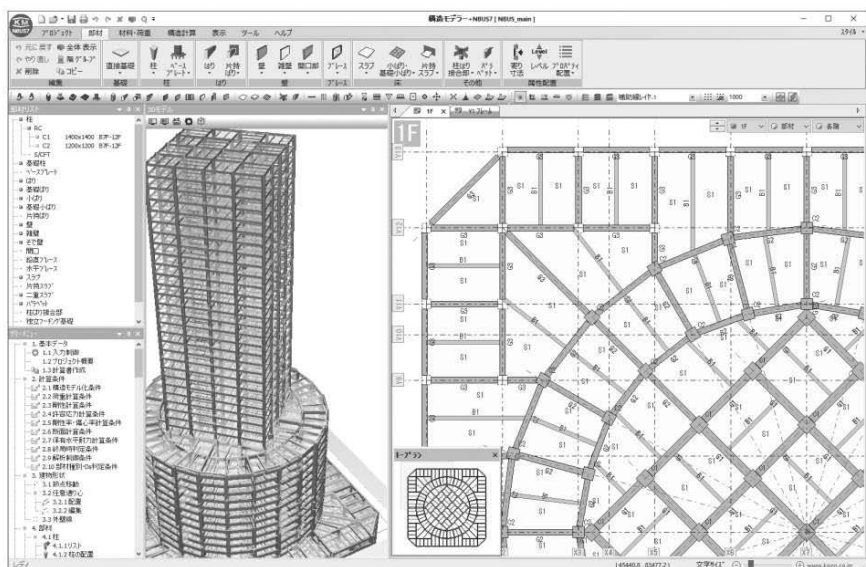
構造モデラー+NBUS7

「構造モデラー+NBUS7」は、構造躯体入力プラットフォーム「構造モデラー」と一貫構造計算システム「NBUS7」が一体となったすべてが新しいソフトウェアです。

「構造モデラー」は、使い勝手のよいグリッドに加え、グリッドに捉われない通り心を任意に組み合わせることができる自由度の高い入力インターフェースにより複雑な建物形状を忠実に入力できます。

「NBUS7」は、BUS-6の信頼性を継承し、計算の高速化や計算結果の視認性を高めた製品です。

※教育版価格は別途お問い合わせください。



株式会社 **構造システム**
URL <https://www.kozo.co.jp/>

本社営業 〒112-0014 東京都文京区関口2-3-3

TEL 03-6821-1311 FAX 03-5978-6215

大阪支社営業 〒541-0041 大阪市中央区北浜1-1-10

TEL 06-6203-2430 FAX 06-6203-4117

札幌営業所 TEL 011-218-6628 仙台営業所 TEL 022-267-2811 名古屋営業所 TEL 052-583-0350 福岡営業所 TEL 092-716-9311

教職員の皆様!

全国の工業高校で多数使われている、資格合格への必携テキストをご案内します。

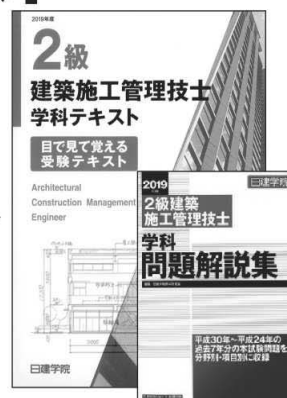
全国全ての都道府県で採用頂いております

◎2級建築施工管理技士 学科テキスト

全面カラーで構成された「目で見て覚える受験テキスト」です。過去の本試験問題を中心とする長年の蓄積されたデータを基に徹底分析し、学科試験受験対策用教材としてまとめたものです。

- ・はじめに、目次、試験問題の構成
- ・第1章 施工・共通
- ・第2章 施工管理法
- ・第3章 法規
- ・第4章 建築学
- ・第5章 実地

全面カラー
目で見て覚える
受験テキスト!

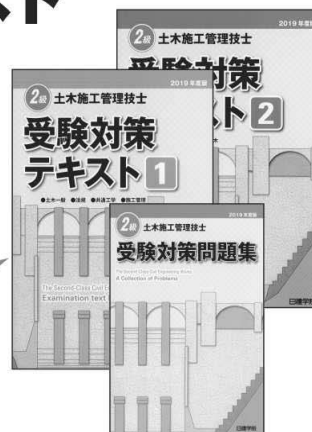


◎2級土木施工管理技士 学科テキスト

試験に合格することを第一の目標に、過去の試験問題を徹底的に分析し、最も効率よく理解・記憶ができるように編集しています。NOTE欄に、出題頻度・ポイント・用語・注意・参考等を記載したわかりやすいテキストです。

- ・はじめに、目次
- ・第1章 土木一般
- ・第2章 共通工学
- ・第3章 法規
- ・第4章 施工管理
- ・第5章 専門土木

試験に合格の
エッセンスを
凝縮!



◎2級管工事 学科テキスト

- ・目次
- ・第1章 一般基礎
- ・第2章 空気調和設備
- ・第3章 給排水・衛生設備
- ・第4章 電気・建築
- ・第5章 設備機器
- ・第6章 施工管理
- ・第7章 法規



◎2級造園 学科テキスト

- ・目次
- ・第1章 造園原論
- ・第2章 造園材料
- ・第3章 植栽
- ・第4章 造園施設
- ・第5章 土木工学
- ・第6章 関連工事
- ・第7章 測量・約款・設計図書
- ・第8章 施工管理
- ・第9章 法規



日建学院

お問い合わせは、お近くの日建学院か、下記 法人部学校担当までお気軽にどうぞ。
(株)建築資料研究社(日建学院) / 営業本部 法人部学校担当

TEL.03-6872-1158

1級建築士
合格実績 No.1

1980-2013年累計 1級建築士: 118,810人 / 2級建築士: 168,033人 累計

編集後記

70周年記念誌編集委員会
根岸 俊行

令和元年5月に記念誌編集委員会を発足し、令和2年10月に記念誌の編集を完了しました。

この記念誌の編集は、歴代記念誌の内容を引き継ぎながら、昨今の会員校・役員の減少に伴う印刷費用と編集作業量の軽減を図るため、「建築ニュース」と「会員名簿」の内容を含んだ合冊形式となりました。

編集作業を行うにあたり過去の記念誌を読み返したところ、かつての研究会活動がたいへん盛んだったことが紙面からうかがえ、非常にうれしく感じました。そして、今回70周年を迎え教育を取り巻く環境は変容しているが、その時代に合った形態で研究活動を継続させていきたいと思いました。

この10年間で平林博氏・豊田善敬氏・小林晶代氏・三神幸男氏・平田誠一氏に会長職を歴任していただきました。建築が専門でない方もおられる中で、研究会の運営に多大なる尽力をいただきました。そして、本部事務局を担当していただいている東京都の先生方、総会運営をしていただいている各都道府県の大会事務局の先生方、また、研究会運営に協賛いただいている賛助会の皆様、そのほかにも研究会活動にご協力いただいております多くの関係の方々のお陰で、研究会活動は70周年という節目を迎えることが出来ました。

令和2年度はコロナウイルスの影響のため、総会は書面表決での開催となり、総会の場で皆さんと顔を合わせる事が出来ず非常に残念であったが、70周年記念誌は皆さんのご協力のおかげで無事に発行まで漕ぎ着けることが出来ました。

ご協力いただいた関係の方々に、深く感謝申し上げます。

東日本建築教育研究会 70周年記念誌編集委員会

米原良慈	副会長
根岸俊行	副会長
吉城 守	製図分科会主査
江原聖直	計画分科会主査
大木英生	法規分科会主査
小澤誠志	構造分科会主査
林 祐介	施工分科会主査

東日本建築教育研究会 70周年記念誌

令和 2年10月14日印刷

令和 2年11月 6日発行

編集 東日本建築教育研究会 70周年記念誌編集委員会

発行 東日本建築教育研究会

印刷 株式会社 エスプリ